

アイヌ英雄叙事詩

赤海亀になる

フレエチンケ アネ

金成マツ

蓮池悦子 訳

目次

序	5
凡例と解題	7
1. 表題	7
2. 編集要綱	8
3. 引用文献略記号	8
物語 赤海亀になる	11
第1章 略奪	11
第1節 シヌタプカのポイヤウンベ夫妻	11
第2節 妻の失踪	11
第2章 逃走神	12
第1節 ポイヤウンベ、赤海亀に変身す	12
第2節 逃走神の弁明	13
第3節 ポイヤウンベ、逃走神を殺す	14
第3章 助っ人	15
第1節 レワレワックル	15
第2節 アイヌラックルとフレマウボ	16
第4章 海の冥界	18
第1節 海の冥界王	18
第2節 海の妖魔コシンプク	19
第3節 魔神との戦い	20
第4節 山川姫と小東姫の救出	21
第5章 帰郷	22
第1節 ポイヤウンベ、停戦を提案す	22
第2節 別れ	22
第3節 再びシヌタプカで	23
アイヌ英雄叙事詩 赤海亀になる	29

赤海亀になる

第 1 章	略奪	31
1.1	シヌタプカのポイヤウンベ夫妻	31
1.2	妻の失踪	36
第 2 章	逃走神	43
2.1	ポイヤウンベ、赤海亀に変身す	43
2.2	逃走神の弁明	52
2.3	ポイヤウンベ、逃走神を殺す	64
第 3 章	助っ人	71
3.1	レワレワツクル	71
3.2	アイヌラツクルとフレマウポ	78
第 4 章	海の冥界	97
4.1	海の冥界王	97
4.2	海の妖魔コシンプク	104
4.3	魔神との戦い	117
4.4	山川姫と小東姫の救出	125
第 5 章	帰郷	135
5.1	ポイヤウンベ、停戦を提案す	135
5.2	別れ	142
5.3	再びシヌタプカで	149

序

アイヌの人たちが北国の風土に根ざして育んできた文化は、本道の歴史や文化の形成に深く関わっており、特に、自然との共生の中で培われた豊かな知恵や経験は貴重な財産です。

北海道教育委員会では、アイヌ文化に関わる貴重な有形、無形の民俗文化財を後世に伝えていくため、文化庁の助成を受けてアイヌ民俗文化財調査をはじめ、様々な資料の収集や報告書の刊行など各種の保存・伝承事業を行ってまいりました。

アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズは、口承文芸伝承者の金成マツさんが昭和3年から昭和22年にわたって、ローマ字で綴った92話のユーカラのうち、未紹介のものを順次翻訳し刊行しているものです。

今年度は、3話のユーカラを翻訳し、物語ごとに分冊で刊行いたしました。アイヌ文化を理解するための資料として、また、アイヌ語を学習するためのテキスト等として広くご活用いただければ幸いです。

翻訳にご協力いただいた研究者の方々及び本書の刊行にご尽力いただいた社団法人北海道アイヌ協会に心から感謝を申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

平成23年3月

北海道教育委員会教育長
吉田 洋一

凡例と解題

金成マツは、1930(昭和5)年11月18日にこのユーカラを書き終えました。満55歳の誕生日11月10日の8日後です。11月13日が「kanishiriunkur useshokkar ne akar カニシリびと敷物に造り替えられる曲^{*1}」の筆録終了日ですから、5日間で46頁を書いたこととなります。

1. 表題

この叙事詩の表題としてマツは冒頭に

Hure Echinke Ane

と記しています。このユーカラは「金成まつユーカラ集目録」(『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅰ』三省堂1959)p.13「28 赤海亀で我あり」に相当します。

本ユーカラが入っている製本ノートには、3編のユーカラと1編の昔話が収められています。それには金田一の手跡で、INDEX欄1頁目に、Hure echinke ane (5.11.18) / yairap, Pon chikupeni kamui Otasam kotan kikkar (5.11.26) / menoko yukar, Horipi-ash na terkeash na (5.12.9) / Nitne kamui ramu aehokare pon up-ashkuma。2頁目に I. 赤海亀の物語 II. 若きチクペニ神がオタサム村を撃つ物語^{*2} III. 婦人のユーカラ 踊ろう跳ねよう物語^{*3} IV. 魔神が馬鹿にされる昔がたり と書かれています。

本ユーカラは、トミサンベチ・シヌタプカの若き城主ポイヤウンベが、アイヌラックル、フレマウポ、レワレワックルという三人の助力を得て、海の冥界王にさらわれた自分の妻と沖の国の女人を救出する物語です。しかし、赤海亀に変身したポイヤウンベが、海底の黄泉の国から逃げ出した神をからかって殺してしまう場面が前半の聞かせ所となっているので、本編の表題を『赤海亀になる』としました。また、本編が比較的短いのは、節をつけずに語られたルパイェという形式のものなのかもしれません。

^{*1} 本ユーカラシリーズ24『カニシリの若者をのろった娘』

^{*2} 本ユーカラシリーズXVII『若きチクペニ神がオタサム村を撃つ物語』

^{*3} 本ユーカラシリーズVII~XIX『踊ろう跳ねよう物語(一)~(三)』

2. 編集要綱

本書では原テキストを以下の要領で編集しました。これは2009年3月刊『ユーカラシリーズ 32 金の草靴の六人の兄』pp.10～11 切替英雄執筆編集要綱に準拠しています。

- (a) 叙事詩のリズムに合わせ、1行が4音節ないし5音節に収まるよう行を改めました。
- (b) マツの原テキストは人称接辞を中心にしばしば大文字で筆録されることがありますが、大文字の使用を文頭と固有名詞の頭に限定し、そのほかの大文字はすべて小文字に換えました。
- (c) 原テキストにはピリオドやコンマなどがほとんど用いられていません。本書では句読法を指示するピリオド、コンマ、コロンの適宜補いました。
- (d) 語、助詞はその境界で切りました。但し、助詞が連続するさい、この原則に従わないこともあります。
- (e) 語、助詞が空白や改行によって途中で切断している場合はそれらの断片を結合しました。
- (f) 長大な動詞が2行にまたがるときは、1行目の末尾にハイフンを補いました。
- (g) 原テキストでは人称接辞は人称語幹と結合されて示されていますが、本書ではこの境界にハイフンを挿入しました。
- (h) 原テキストにはない章立てを入れ、見出しをつけました。これらの見出しは、上下の欄外（柱）にも掲げました。
- (i) 物語の大意を把握するために「物語 赤海亀になる」を本文の前につけました。
- (j) アイヌ語片仮名文は原テキストにはないものです。アイヌ語片仮名文の下に記した逐語訳は、各語の中心的な意味を示すような訳語を当てました。

末尾になりましたが、本書の編集・組版作業にいつも多大なるご協力をいただいている切替英雄・高橋靖以・山下浩一各氏に心から感謝申し上げます。

3. 引用文献略記号

脚註に引用した文献の略号と数字は以下の出典と頁です。

- 研 金田一京助著『ユーカラの研究二』（東洋文庫 1931）（幌別方言話者金成マツ口述・金田一京助筆録）
- 研 W 前掲書のうち、日高、沙流方言話者鍋沢ワカルバ口述・金田一京助筆録のもの
- B ジョン・バチェラー著『アイヌ・英・和辞典第四版』（岩波書店 1938）
- 金 I～VIII 金成まつ筆録／金田一京助訳註『アイヌ叙事詩ユーカラ集』I～VIII（三省堂 1959～1968）
- 人 知里真志保著『分類アイヌ語辞典人間編』（『知里真志保著作集別巻 II』平凡

- 社 1975)
- 植** 『分類アイヌ語辞典植物編・動物編』（『知里真知保著作集別巻 I』平凡社 1976)
- 地** 知里真志保著『地名アイヌ語小辞典』（北海道出版企画 1984 年復刻、初出；1956 年）
- 語法** 知里真志保著『アイヌ語法概説』（『知里真志保著作集 4』平凡社 1974）
- 教 1～28** 金成マツ筆録／蓮池悦子ローマ字翻刻片仮名整理／萱野茂分解訳と和訳『アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ』1～28 (北海道教育委員会 1979～2006)
- 教 29～31・34** 金成マツ著／蓮池悦子訳『アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ』29～31・34(北海道教育委員会 2007～2010)
- 教 32** 金成マツ著／高橋靖以・切替英雄・蓮池悦子訳『アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ』32(北海道教育委員会 2009)
- 切** 切替英雄編著『アイヌ神謡集辞典』（大学書林 2003、初出；北海道大学文学部言語学研究室 1989）
- 聖** 久保寺逸彦編著『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』（岩波書店 1977）
- 萱** 萱野茂著『萱野茂のアイヌ語辞典』（三省堂 1996）
- 田** 田村すず子著『アイヌ語沙流方言辞典』（草風館 1996）

物語 赤海亀になる

第1章 略奪

第1節 シヌタブカのポイヤウンベ夫妻

1 切り設けた台座こがねの台座の上で、われはわが妻、山川姫(キムンナイウンマツ)をわが脇に侍らせ、妻を撫でさすり、その美しい顔のおもてへ接吻する。

11 なんとまあ妻はそれを喜んだらうか。いくつもの冗談や面白い言葉をわれに返し、わが顔面かおもに接吻し、それをおかしがる彼女の声こゑが美しく響く。われも笑いながら、おうおうと何度も妻にうなづき返し、夜も昼もわれらは台座の上で、笑い声をあげながら暮らしていた。

29 ああなんとということか、ああかわいそうに。たくさんの海をへめぐ経巡り、戦いの中でもとくに激しい戦いくさが起ると、わが妻山川姫は、まだあんなに少女といってもいいほどの若さなのに、われと一緒に激しい戦もゆるい戦も、われとひとつ肌身の上に同じ痛さを分けていたこと、男子の勇者でもかなわない様子であったことを思い出すと、わがまなじりからジワッと涙があふれ出る。

50 今ようやく戦さ合間の休戦になったから、わが妻と水入らず、心ゆくまでねぎらいの言葉をお互いにかけて、平穩無事にわれらは楽しく語り合っていた。その間にわが妻はうまい料理をつくっ

た。食べ終わると二人はまた寝た。

虚実取り混ぜた冗談やあることないことを、わが妻は取りとめもなくおしゃべりした。われは、あるところでは妻に笑ってみせ、あるところでは相づちを打ったり、フツという気合いをかけたらしながら、われらは楽しく暮らしていた。

89 昼になると、この神居じゅうに、黒い霞もや白い霞がいっばいに満ちあふれた。夜ともなれば宝刀や財宝の光りが、日光のように館じゅうに輝きわたる。まことに心地よくさわやかな気分だ。

第2節 妻の失踪

103 ある夜のこと、われらはぐっすり眠りこんでいた。長い間だったか短い間だったか眠っていて、われはふと目が覚めた。

112 と同時に、煙出し窓の上空で、妻の泣き叫ぶ音が響き渡った。聞こえた言葉は、

「もしもーし！ わが君きみさま、やあーい。誰かが、犬が盗むかどわみたいになたくしを拐かして逃げようとしているのですよう。即刻斬り殺して下さりませえ」

聞こえたと同時に、台座の上で山熊のような勢いで大きな伸びをし、われはパツと立ち上がった。

140 わが頭の方に置いてあった鈴付きの小

袖を、われはさっと開いて身にまとう。ぜんまい飾りがぶら下がる金の帯を胴に巻き、渡来の兜の緒をしっかと締め、神から授けられた太刀を帯に差し、われは煙出し窓を通り抜けた。

154 見渡せば、^{しのめ}東雲が^{あかつき}暁と入れ替わって、朝が明けるようだ。

天空で、また先ほどと同様に、わが妻が大声で呼ばわった。われは、天空へいきなり飛び上がった。わが憑神たちも相次いで天空へごうごうと音を響かせる。

その途中でまた、今度は波打ち際に、再び妻が危急の叫び声を振り絞った。われは、波打ち際に鳥が木の枝にとまるさながらに舞い降りる。その間にすっかり夜が明けた。

180 眺めても何ごともない。波打ち際に棒立ちに突っ立ってじっと動かず、海の東端から西端まで、われは目でつつきこわすほど見調べた。天空を、すみずみまで見調べた。

そうしたところで、何の靄も雲影も鳥影すらも、不審なものは何ひとつ近寄ってくる様子も動く気配もない。これは異常だ。

205 まさか普通の人間が妻を拐かしたのではあるまい。あの類まれなる巫女さえ、かなわない敵らしい。たった今こっちで妻の声がしたと思ったのに、もうどこかに飛び去ってしまったようなので、驚いてしまった。

人間なのか神なのか、このトミサンベチ・シヌタブカのポイヤウンベに並々ならぬ挑発をしてきたということだから、腹が立つの何の。わがまなこは二つの星のごとく、ギラギラ光っている。

第2章 逃走神

第1節 ポイヤウンベ、赤海亀に変身す

236 遠く沖合を眺めたら、ちょうどそのとき、はるか沖から小さな交易船が、矢が飛ぶように波を蹴立ててやって来た。

大慌てで行くものらしく、たちまちわがそばまで近づいたものの、そのまま波の上を滑って行こうとする。それを見ると、われは何ともかんととも腹が立った。

258 この何か焦り狂っているらしき者が、わが村の沖合を挨拶もなく走り去っていく様子だから、『ちょっとからかってやろう』とわれは思っ^{へさき}て、船の舳先に向かって呪文を唱えてから、海の底にパッと潜った。

何となく違和感を覚えたので、わが身体を眺めたところ、まさかまたそうなるとは思わなかったのに、われは、巨大な赤海亀に変身していた。

驚くべし。波の上に浮き上がると、わが身体から発する光は、赤い稲光、青い稲光、白い稲光となって明るく輝いた。海面は月光のようにピカピカ煌めいている。

295 その間にも、わがすぐそばを小さな交易船は滑るように進んでいく。

見れば、船の中に小さな霞の小山が二つ。ひとつは船首に座り、ひとつは船尾に座っていた。体を前へ後へ倒して櫓を漕ぎながら、わが身体から放射する光に気がついたらしい。二人は非常に驚いて、帆を降ろして船を止めた。

311 その間に、われはわざと、海の東端から西端へとゆっくり頭から潜って見せた。ときどき波の上に浮き上がる。する

と、たちまち海上がピッカピッカ照り輝いた。

船のまわりを泳ぎながら船上を眺めると、驚いた。

330 まだ年若き人二人、光や靄のせいで、見えにくかったが、金糸銀糸で刺繍した小袖をかさね着し、金具付きの皮帯を胴に巻き、神授の刀を帯下に差して、美しい兜の緒を顔にキリリと締めていた。兜の縁からりりしい顔が、昼の光のように照り輝やいている。

351 兄弟らしく、似たような目もとや眉つきをしている若者たちは、まったく人間ではないように思われた。勇者にちががなく、勇者の顔つきが際だっているが、非常に疲れているらしく脂汗を浮かべている。

367 二人は、われをじいっと見守っていたが、そのうち顔色をさっと変えた。それから、掌を上に向けた両手を静かに上下してから、合掌する両手の五指の指頭を摩り合わせて、われに拝礼した。そのうえで、年長らしく思われるほうがこう言った。

「これはしたり。おどろいたなあ。大変な事態が起こる前触れなのか？われらが、せっかく難を逃れて地上の世界に浮かび出たまさにその時にかぎって、赤海亀の重き神がわれらにご自分の姿を現しなさるとは！

昔から神話で伝えられているのは、赤海亀の神が人前に自分の姿を現したならば、必ず御神酒や供物を捧げて祈らなければならない—と。しかし、われらは人間ではない。どう考えたらいいのか？

第2節 逃走神の弁明

418 申し上げます。赤海亀の神、位の高き神、人間の幣を受け取る善なる神よ。われらが話さずとも、何事もすべてお見通しでありましょうが、あえて申し上げます。

われらは海の冥界から逃げて来たのであります。

海の冥界と言っても、同じ一族の神だけがそこに住んでいるのではありません。善神だの悪神だの、まことに神通力じんずうりきの強い神だの弱い神だの、色々様々な性質の神々が村を構成していて、昔から今まで何の恐れも心配事もなしに、異なる神族であるわれらも皆に交じって暮らしていました。

455 海の冥界の中央には、戦いの魔神、恐ろしい悪神がいて、海の冥界を支配していました。その上、どんな神でも魔神でも、海の冥界王の棲み家に入ることが出来る者は誰一人いないのです。

海の冥界王がまさか人間界に悪さをしようとは思わなかったのに、たった今、海の冥界に大騒ぎが起きました。

480 それゆえ、われらすべてが振り向いて見たところ、人間界に住むアイヌラックルの神雄しんゆう（神の勇士）とフレマウポーあかはげ赤禿の神雄よみが黄泉の国を襲撃し、海の冥界に火を放った。わけもわからないまま驚きあわてて騒ぐ声が、今ようやく村のあちこちから聞こえて来たところですよ。

498 どうやら、海の冥界を支配する極悪の王が、海の冥界で自分にふさわしい女性を探しても一人も見つからない。そこで人間界を窺ったところ、遙かなる小東村の人（ポンチュプカウクル）には妹が

赤海亀になる

一人いて、その妹こそ自分の妻にふさわしいと思った。そこである晩人間界に浮き上がって来て、小東姫(ポンチュプカウンマツ)を拐かし、侵入不可能な自分の棲み家の箱の中に隠したのです。

530 小東村の人々は、小東姫がどこにさらわれて行ったのか皆目わからない。呪術者がたくさんいる沖の国だったから、やがて、海の冥界王が盗んで行ったことがわかりました。しかし、海の冥界に討ち入りし、そこを支配している冥界王を殺して、小東姫を取り戻して来ることができる勇士が小東村にはいない。

長老たちが、さらに巫術や神通力で探したところ、アイヌラックルの神雄に白羽の矢が立てられました。人間からの頼みを引き受けたアイヌラックルは、恐ろしく強いフレマウポー赤禿の神雄と連れ立って海の冥界にやって来たのです。それだけでも大事件だから、神々の議論が激しく起こりました。

565 それなのにまた、ゆうべ海の冥界王が人間界に現れて、トミサンベチ・シヌタプカの若き神—ポイヤウンベの妻を盗み出し、先に略奪した小東姫と一緒に二人妻(相妻)にしようと箱の中に隠したことも、神々にはわかりました。

590 昔から今まで、神のごとき人と称されてはいても、気性が激しくて、行状がハラハラ持てあまされてもいた神雄—ポイヤウンベが、理不尽にも連れ添う妻が略奪されたことを知ったならば、早かれ遅かれ海の冥界が無事であるはずがない。

610 それゆえ、われらは冥界の住民とは出自が異なる神であったから、人間界に逃

げて行って、どこぞ山奥の狩り場にでも隠れていたならば、怯えることもなく、糊口ここうをしのげると思ったから、われは弟といっしょに海の冥界から逃げ出しました。

大あわてで逃走中、ちょうどこの日に限って赤海亀の神、重き神がわれらにご自分の姿を現わされたのでありましようか？

神々の故事来歴譚(カムイウバシクマ)にもあることだから、われらは貴方様を祀るために捕らえましよう。逃避行の途中であるから木幣イナウだけは捧げることがができますが、われらの落ち着き先がまだわかりませぬゆえ御神酒はありませぬぞ」

彼はそう言って立ち上がり、船底もりから銚を引っ張り出してきて、銀色の銚先に数回しごきをくれたあと、柄の末端に金色の縄を結び、口の中で呪文を唱えて、われに銚を撃った。

第3節 ポイヤウンベ、逃走神を殺す

われは腹の中でおかしがり、心の中でクスクス笑った。

われ目指して投げられた金色の銚を手でしっかりつかみ、われは海底深くパッと突進した。

さすれば、小さな船も海中を潜って走る。二人の若者は非常に驚いて荒々しい息づかいの声、おたけびの声がぶつかり合う。

われは、金色の縄を幾重にも手に巻きつけて握った。そうして海の東端から西端までわれは走った。わが耳元に風巻き起こる。

そのうちわが憑神も頭上でゴウゴウと

630

638

667

670

694

雷音を発し、いくつもの竜巻が渦巻いて海面に吹き降りる。

702 たちまち、沸き返るがごとく海の底が海面まで高く持ち上げられ、海面は海底まで低く沈む。大浪小波が重なり合って砕け散り、黄泉の国も人間界も音を立てて揺れ動く。

713 神である若者たちは、とうとう疲れきって死んだ。われは船と共に海の冥界に沈めてやった。

719 われは波の上まで浮きあがり、そこが常住の場所であるかのように波間に浮いていた。濃いもやにわれは身包み、凍りついたように動かなかった。

どこにある村、どこにある国を指して名づけたのが海の冥界なのか、海の冥界王である戦いの魔神(殺戮者、殺人鬼)が山川姫、わが妻、たぐいまれなる巫女を盗んでいったということだから、もうどうしようもない。

同じ人間同士がしたのでも忌々しいのに、なんとまあ極悪の魔神が妻を略奪したというのだから、妻の奪還には長くかかるにちがいない。妻は苦しみもせず無事なのだろうか、心配でならない。

第3章 助っ人

第1節 レワレワックル

そのうちにまた、はるか沖から何者かがやって来る様子まっしぐら。

769 それを見て、われは濃いもやを自分の回りに張り巡らし、風の気となって吹き上がり、ひとむらの雲の上に乗っかっていた。

777 そうしている間に、何者なのか海面を滑るようにやって来たものを見ると、一

人のやせ細った男で顔色も青い。そのようにしているが金糸銀糸で刺繍した小袖をかさね着している。

弱っているのか、あちらへこちらへ、ふらふらよろめきながら、最初にわれが立っていたところに着いた。あちこち振り返って見て、まさかまた、あんなに弱々しかった者が、そんなに力強く猛々しい声を出すとは思わなかったのに、荒々しい罵声をあげて、

「ポイヤウンベが、たった今ここに立っていたはずなのに、どこに行つて、^{やつ}奴が居た跡だけが残っているんだ？ ほら、まだポイヤウンベの匂い、人間の匂いが確かにするのに、奴はどこに行つてしまったんだ？」

と独り言を言って、あちこち見まわしている。

ただその言葉を聞いたただけなのに、われに凶暴な怒りが湧き上がってきた。

わが手元ピカリと光らせ、激しい太刀をわれ振りとはばす。

832 そうしたところ、よもやまた大化け物がそのように振る舞うとは思わなかったのに、激しくふるうわが太刀の下にヒラリと身をかがめ、ひとひらの風の如くわが周りを滑りぬけた。と思ったとたん、われを強く押さえ込み、神授の太刀とともにごぎ編みの重り石を握るみたいにぎっちりわれを捕まえた。

850 狂うばかりの怒りがさらに湧き上がる。渾身の力をしばり出して立ち上がるうにも、動くこともできない。気道も塞がれ息も詰まる。

その男がやって来た道をすぐ折り返し、はるか遠くの沖合へわれを抱き抱え

赤海亀になる

て行く音が轟々と響き渡る。

少しでもわれが動こうとすると、そやつは同じくらいぎっちり和我れを締め付ける。どうすることもできない。今までの半生にもたくさんの力持ちに出会ったが、このように青く弱々しい顔色をしている者の力強さを、たった今われは知る。驚いてしまった。

892 何者か知らないが、われに対する遠慮もない言動に怒りの気持ちが湧いてくる。

その上、どこかへこのようにわれを連れて行こうとするのは、人間なのか魔神なのか、まこと不思議でならない。

第2節 アイヌラックルとフレマウボ

909 行きに行くうち、沖人の海と陸人の海が接する潮目に着くと、海の湧き水が出る穴から真っ逆さまに潜っていった。渦巻く潮に逆らって潜っていく音がブクブク。

そうやって潜って行くうちにどこへかにストンと着地した。

924 捕まえられていても目だけは開いているから、自ずからわが目に入ってきたのは、まさかまたそんなものを見ようとは思わなかったのに、美しい国、その国土の上はどこまでも平らかで、流れ下る大河がキラキラと輝いている。

936 ああ驚いた!何という魚なのであろうか。この大河には、黄金の中から現れたかのように上の方を泳ぐ魚群は天日に焦げ、下の方を泳ぐ魚群は川底の石で磨れるかのように、たくさんの魚が充ち満ちていた。

それらの魚群がウヨウヨうごめくその上空一帯には、名も知らぬ鳥の大群が輪

を描いて、追いつ追われつギャーギャー鳴き騒いでいる。

大河にそって戦さの跡戦いの痕跡がごちゃごちゃ続いていた。見覚えのない初めて出会ったこやつは人間なのか魔神なのか? 死骸が累々と並んでいる。今こそ、いわゆる海の冥界に連れてこられたのだということをわれは知った。

われを抱えた化け物は、河の中流にスウッと下降した。

その間にも、激しい戦さでたくさんの神が死んで行く音が絶え間なく続いている。

そのすぐそばに、男はわれを投げ落とした。

992 転がってなんかいられない。押さえつけた小枝がぱっと撥ね返るさながらにわれは跳ね起きた。辺りを眺めれば、どこにいる者を討とうとするのか、虫がわき返って蠢くさながらの大軍だ。

軍団のすぐかたわらに、何者か、身体は見えないのに、ただ刀ばかりがキラリキラリ動いて見える。靄の中をわが眼力でもって二度三度と散らし見ても、霊力が強いらしく、なかなか人の姿に見えなかったが、やっと見えた。

1011 靄の中には驚くべし、噂に聞いていたアイヌラックルわが小兄、もっと年上のように人が言っていたように思われたのに、一才ほどわれより年上らしい年少の若者だった。金糸銀糸で刺繍した衣服をかさね着している。金具つきの皮帯を胴に巻き、神授の刀の鞘尻はこじりが焦げていて、霊光が氷の色をなして輝いていた。裾の燃える春楡の厚司を上着に着て、その上一帯には霊光がピカピカ放射

していた。金の兜の緒をきつく締め、兜の縁から高貴なお顔が射し昇る太陽のように、われに照り返す。あごひげはまだ充分生え揃ってはいない。勇者にちががなく、勇者の顔付きでその顔色はいかにも強そうだ。戦いなるものの、その真上に散らばって行った。

1057 そのすぐそばで戦っている者を、わが眼力で散らし見ると、人がいうところのフレマウポー赤禿の神雄、どこからどこまで、あまりにも素晴らしい神のような姿である者が、同じように戦いなるものの、その真上に散らばって行く。

われを抱えてきた何者ともわからぬ男も、ふらつきながらも戦いなるものの真上に散らばって行く。

アイヌラックルの小兄はわれに目をとめ、わが身を包む何重もの霧の中心をかき散らしていた。長い間そうやっていたあげく、これほどの神が何びとを目撃したというのか、顔色がさっと青ざめた。

1095 わがひとつ手前に伏し目して、跳び回りながら、略式の会釈をわれに交わす。その上で言葉なるものの声音こわねが響いてこうあるには、
「おおかわいそうに!長い間、わが弟殿、国を司る神は、少年の頃から方々の海を經巡って、戦さばかり戦いばかりの辛く厳しい日々を送ったと聞いている。

しかし、われが、何かと手枷てかせとなる邪魔や忙しさにかまけていて、苦境にある汝のもとに一度たりとも救援に駆けつけないうちに戦さが終わってしまい、汝がトミサンベチ・シヌタブカに戻ったことをわれは聞いて、いつか訪ねようと考えていた。

そうしている間に、別々に己の領分を支配すべきものが、神と魔神なのであったが、極悪の海の魔神が人間界の女性に手を出した。

人間界に困難が生じたら知らん顔もできないから、小東村の人々の頼みをわれは引き受けた。

フレマウポー赤禿の神雄を誘ってこれなる海の冥界にやって来て見たら、村のまん中に立つ岩屋、岩柵、すっぽりと蓋ふたが被っている窓も戸もない館だ。神でも魔神でも人間でも侵入できた者は一人もいない。

戦さなら、長くても短くても、われがたった一人で皆殺しにはできるが、海の冥界のまん中にある館には小東姫と山川姫が箱に閉じ込められている。

海の冥界王の館に討ち入ったならば、われではかなわないと思う。確信もって頼める者は汝以外にない。しかし、このような緊急時に、汝を呼ぶ方法をわれは知らなかった。

1201 それゆえ、まず先に誰でも振り向く者、われらが手造りの神、シナシナたわむ草人形は、神の勇士であったから、戦いながらわれが大急ぎで造って、汝をここに呼んできて貰ったのだ。重き神、おそろしき神は、ほんとうにわが願いを叶えてくれたのだなあ。

小東姫が略奪されただけでも、あんなに腹が立ったのに、今日また汝の妻、たぐいまれなる巫女もさらわれたとは!やっぱり汝こそ館に討ち入るべき勇士なのでありますぞ。

1233 さあさあ、妻を盗まれて、今はもはや人間界には身内なき、後顧の憂いなき男

になったのだから、海の冥界で存分の働きをするがよいぞ。わが弟殿、国を司る神よ。うんとふんばるのですぞ」
とアイヌラックルの小兄はわれを激励した。

1244 そう言われて、やっとわれを連れてきたのは、アイヌラックル手造りの草人形レワレワックルであったことがわかった。道理で力持ちであったのだなあ。言葉だけにしろ、最初にわれを怒らせる言動をしたので、あんなにもわれは腹を立てたのだった。小兄に言われて、われは草人形である重き神のほうをじっと見る。草人形は振り向いて笑みを浮かべた。われは上へ向けた両掌を前へ出し、ゆったり上下させながら彼に礼拝した。アイヌラックルのほめたたえる声が遠くから聞こえてきた。
「かくのごとく、勇士というもの、首領というものが神の礼儀作法、大将の礼儀作法をわきまえているとまことにいいものであるわい」

第4章 海の冥界

第1節 海の冥界王

1288 それから辺りを眺めてみた。この大いなる世界は、どこまでもその上一帯がずっと平らかだ。

国土のまん中に、ぽつんと孤立した低い山があった。中腹まで黒いもやがたなびいている。

孤峯の上に、鳥が木の枝に止まるさながらに、われはフワリと飛び下りた。

うち見れば、アイヌラックルが言ったように、岩屋と岩柵が重なり立っていた。蓋がスッポリかぶさっているみたい

な館で、窓や戸がない。何度もこの大館をぐるぐる巡ってみたが、犬が出入りする穴どころか鼠穴すらない。たまげてしまった。

どんな魔神だか知らないが、そやつだけはこの館に出入りできるのだから腹が立つ。

ここにおいて、わが着物がよれよれによじれてきて、露出したわが肌が陽光のようにあたりに輝いた。われは愛刀をさっと抜き放ち、地面に頭を突き刺してパッと地中に潜り込んだ。土の中で、館の入り口だと検討つけた箇所から頭を突き入れたところ、音もなく館の内土間に顔が突き出た。

驚いた！この大きな屋敷の内部は真っ暗で、まっ黒な霧の中に炬火だけがピカーッと光っていた。それで瞳を凝らして見ると、右座にいるのは何者なのだろうか。

1366 小山が手を生やし脚を生やしているみたいいな、岩の大男。顔なるものは、崩れおちた崖のよう。鼻なるものは、傾きかかる山の峰をスパッと切りとって、鼻の穴は大きな洞窟が二つ並んでいるみたいだ。目なるものは満月ほどの大きさで、岩の胴体にはかい權ほどもある大太刀を差している。こやつの急所は、どこなのだろうか。

大地の表から裏まで見通して、神だの人間だのを魔神が数え上げているものがあるらしい。

片足は横座の隅まで達し、片足は下座の隅まで達しているかのようだ。右脚の上に大きな本を置き、開けて読みながら、左手の指を折り曲げ折り曲げ、何か

1331

1366

小声でブツブツつぶやいている。

1415

その後ろでは、ぐるぐる巻きに縛られた巨大な箱が、上座から下座へとズルズル這い回っていた。ああかわいそうに！山川姫わが妻と小東姫が箱の中にいて動かししているのがよくわかった。だがどうすることもできない。館の内部はこしゃくにも美しく飾られていた。

第2節 海の妖魔コシンブク

1440

横座には白い霧の小山がどっしり座っていた。霧の中をわが眼力で見通したら、真っ白な若者が、白い小袖をかさね着して、白い太刀を帯下に差している。白い兜の紐の緒をキリリと締めて、兜の縁から顔の光が白い稲妻のようにピカッピカッと閃いていた。

岩男の顔を覗き込みつつ、もの言う喉元美しく響いて、事態を憂う言葉はこうであった。

「申し上げます。海の冥界王である神雄よ！わが申すことをよーく聞かれよ。神は神同士、魔神は魔神同士、人間は人間同士で結婚するものであって、人間界の村で、平和に暮らし合っていた小東姫、人間の女性を貴方さまが拐かして来て自分の棲み家に隠した。ゆくゆくは自分の妻にしようとの魂胆でありましょうが、らちもないことを考えたものでありますな。

さあさ、村の神の子よ！国の神の子よ！憐れみの心をもって、今すぐにも人間の女たちを人間界に戻してあげてください。

小東姫一人を拐かわしただけでも、小東人(ポンチュプカびと)には巫術者がたくさんいるから、アイヌラックルの神

雄に救援を頼んだ。アイヌラックルはフレマウポー赤禿の神雄と一緒に海の冥界にやって来て、大昔から平穏な村であったのに、今われらの同族を斬り殺しているようなのです。

それだけでも心配で、どうしたらせめてわが身だけでも助かり得るかと考えていたところ、とんでもないことに、昔からその行動がもて余されている者、あのトミサンベチ・シヌタプカのポイヤウンベの妻までも貴方さまは略奪した。

1550

アイヌラックル一人だけでも、あんなにもまあ恐ろしいのに、シヌタプカのポイヤウンベまでが貴方さまを追いかけたなら、われら二人とも何で助かることができましょう。死ぬにしても、国土とともに村とともに、われらは無惨な死に方をするでありましょう。一刻も早く人間の女人たちをお返しなされ。そのことを相談するために、われはやって来たのであります。」

と言って、白装束の若者は大男の眼前に顔をつき出した。

すると海の冥界王は、海中の岩穴に潮が流れ込んで反響するような声でこう言った。

「やかましいやい！これまた美しい顔をした妖魔の大将よ！あまりにも意気地なく弱過ぎる言いようだな。

1602

わしが勝手に、心底その精神が気に入った人間の女をここに連れて来たのが原因で、アイヌラックルが海の冥界をめちやくちやに荒らしたとしても、これなるわが館に侵入することはできないのであるぞ。

ポイヤウンベというただ普通の人間

が、どうして妻が拐かされたことが解ると言うのだ？ たとい解ったとしても、この海の冥界にさえ到達することはできないであろう。万が一、ここまで来たとしても、これなるわが屋敷に入ることはできないことなのだぞ。わしには何ひとつ恐れるものはないのだ。」

と彼は言って、また指を折り曲げ折り曲げ、人間数えなるものに精を出している。

白装束の若者一妖魔族の首領は非常に立腹して、

1645 「こりゃあ驚いた！ わが仕える神雄よ！ 守り神を失い、運がつきるようなとんでもないことをおっしゃるものですな。トミサンベチ・シスタプカの、人間と言っても神以上で、その行動を皆が手余しながらも黙認している者だといわれているお方に、理不尽な挑戦をすることは。さあさあ一刻も早く人間の女たちを戻すよう考え直してください」

「しゃらくさい！ ポイヤウンベ、トイヤウンベのくそ野郎。くされ人間、悪い人間の血統、たんなる普通の男が、どうやってわが館に入って来るもんだか知らんが、うるせいやい！ イライラするわい！ 妖魔の大將はいつまでグズグズ言ってるんだ」

とそう言った。

第3節 魔神との戦い

1696 今こそわれはこの痛罵、槍で突くがごとく刀で斬るがごとく、わがのと奥リンリンと響かせてこのように言う。

「何をぬかすか！ 極悪の魔神、大悪神どもよ！ 死にたくて、くたばりたくて言っているのか？ 人間から言われても忌々し

いのに、いかなる理由なのか、海の冥界王、異界の悪の帝王、極悪魔神めが、生意気にもトミサンベチの神居に忍び込んで、わが妻を略奪して行った。その上で何をいまさら言っているのか。

いざいざ。ポイヤウンベ、憎むべき人間の血統、汚れた人間の血統が、海の冥界まで妻のあとを追いかけて来たぞ。われにかかって来い！ もし、汝がこのポイヤウンベに負けたら、生涯の間生き恥をさらしてやるぞ。ポイヤウンベの戦いぶりをば、よくと見るがよい！」

われがそう言ってやったら、二人の魔神は今ようやくわれに気がついて、わが身にまとう濃い霧を眼力でかき散らす。

客座にいた妖魔族の首領はわれをじっと観察した。そやつ顔色死人のようにさっと青ざめ、身体じゅうわなわな震えた。そのあげく、炬ぶちの板の背後でポトポト滴る泡となり、床の上でパッと消えて見えなくなった。

われは鳥のように舞い上がり、わが手元パッと光る。気がせい^{あるじ}ていたから、主の座である右座にいた海の冥界王の首もいっしょに斬り落とし、その後ろにあったグルグル巻きの箱を、まるで体重が軽い子供のように持ち抱えた。

1778 1791 出口を探ると、どうやら幾重にも重なっている岩の扉であった。われ六重の扉をパッと開け外へ飛び出した。渾身の力で、この大館の屋根のてっぺんを蹴飛ばし、踏みしだく。これなる大岩屋が、柵とともに崩れ落ち、粉々に散るその音が、国土の底に長々と鳴り轟く。海の冥界王が六重の黄泉の国へ真逆さまに沈んで行く音ゴボゴボゴボ。

1822 海の冥界王が、この国土の東端に頭をもたげようとすれば、急いで行ってわれは力いっぱい上から踏みつける。黄泉の国に入っていく音がグブグブグブ。その途中でまた国土のはるか西端に顔を出せば、われ頭の上から踏みつける。何十回何百回、とうとう、魔物ばかりが住むじめじめした冥界まで踏みつけてやった。その途中、たくさんの神が死ぬ音も行き交いながら沈んで行く。その音のあと、空がパッと明るく晴れた。

第4節 山川姫と小東姫の救出

1849 いつものとおおり、わが憑神たちがわが頭上にゴロゴロという音を響かせ、竜巻の風先に大粒のあられ、大粒の雨を降りそそぐ。

1861 そのうち、アイヌラックルたちの戦う物音が激しく高まってきた。われは大箱を小脇に抱え、アイヌラックルのすぐそばに、鳥が木の枝に止まるようにスーッと降りた。アイヌラックルとフレマウポ、シナシナたわむ草人形の神雄たち三人がいっせいに振り向いて、ニコニコ笑いかけた。

アイヌラックルは、自分の鼻をつかみ自分の口をおさえて、われを褒め称える声の末尾をあげながら、
「ほんとにまあ！ わが弟殿、国を司る神よ！立派な血筋が濃く流れている人であったから、いい仕事をしたんだなあ。憑神ともども、たまげた働きぶりであったなあ」
とわれの無事を慶んでくれた。

1903 そこでわれは、大箱を縛っている紐を刀で斬り、上蓋を払い落とした。箱の中には、おおかわいそうに！山川姫がたっ

た一枚の肌着だけをまもって神のようなお姿でいた。

上蓋から落ちたものを見ると、話に聞いていた小東姫が、光りやもやのせいでよく見えにくかったが、わが妻よりほんのすこし年上らしい。何とまあ、ずばぬけた美貌をそなえていただろうか。片方の肩の上から日光の虹、もう一方の肩の上から半輪の虹が射して頭上で交叉している。美しい髪が頭にフサフサかぶさっており、その下に神々しいお顔がちゅうてん冲天にある月のように照りはえている。どう表現しようもないほど美しいお方が、一枚の肌着だけを身につけている。外に出るやいなや、小東姫は慎み深くかしまった。それからのど奥を美しく響かせ、泣きながらこう言った。

「申し上げます。陸人の神々たちよ。ただ噂に聞くだけでもおそ畏れ多いことでありますのに、わたくしのために黄泉の国まで救いに来て下さったことをまことに感謝いたしまする。

今のわたくしは、たった一枚の肌着を着ただけで、裸同然です。お返しするものも持ち合わせておりませぬ。人間界の村へわたくしが戻ったならば、わが育ての兄が、よきよう取り計らってくれるであります。

ほんとにまあ、つたない巫術で身を守っているわたくしが、海の冥界王に魔界の国まで連れて来られて、口惜しがっていたのですが、幸いにも、神雄たちがいらして下さったおかげでわたくしは助かったのでございますねえ」

と彼女は言って涙にかきくれた。

それをみて、わが妻山川姫も泣きなが

1960

2017

赤海亀になる

ら、
「わたくしの巫術よりも、海の冥界王の
霊力が強すぎて、わたくしもほんとに恥
ずかしい思いをしましたわ」
とさんざん罵^{ののし}った。われは言葉をつくし
て妻をなだめ、アイヌラックルは小東姫
を慰めた。

第5章 帰郷

第1節 ポイヤウンベ、停戦を提案す

2043 その間も、村のあちこちで、非戦闘員
である女子供の泣き叫ぶ声が騒がしく起
こっていた。それを聞いて、われは不憫
になった。そこでわれは喉を美しくよ
じらせ、節をつけてこう奏上した。

2061 「申し上げます。アイヌラックルのわが
小兄、お偉いお方よ、わが言うことをよ
く聞いてくださりたまえ。海の冥界王で
ある極悪の神が人間国土に悪さをしか
けて、小東姫とわが妻山川姫を略奪して
箱の中に閉じこめたが、今はもう二人と
も、われが無事に奪還した。極悪の神も
その棲み家ごと、じめじめした六重の黄
泉の国へ蹴落としてやった。

ふつうの村人たちは無関係なのに、海
の冥界王たった一人が悪行をしたからと
いって、この国全部を跡形もなくわれら
が絶やしてしまうのはいかがなものか？
今から人間界へわれらが戻っては悪かる
うや」

とわれが言ったところ、アイヌラックル
もすぐに心をやわらげ、
2115 「そうじゃな。まことにまことに汝の言
うとおりであるぞ。わしもそのように
思ったのだが、まずは汝の指図に従おう
としていたところ、いいあんばいに汝が

言ってくれた。今の言葉は、首領の見事
な裁量として神々も好む決断である」
とわれを賞賛した。

「ならばこれから戻ることしよう。わ
れらが手造りの草人形、神の勇士は、わ
しが立てる幣の東端から上らせよう」
と言って刀を鞘に納めた。神雄たちもみ
な刀を鞘に納めた。そこで戦闘はパタリ
と止んだ。地上地下シーンとして、何の
音も何の声もない。

まず先に、アイヌラックルが川づたい
2158 に下る風に身をまかす。ぴったり続いて
われらが手造りの神、草人形の重き神も
あとを追う。その背後にフレマウポ―赤
禿の神雄がびたりと続く。

そのすぐ後ろにわれが従い、われの背
中にわが妻山川姫がつき従い、その後ろ
に小東姫がついて来る。川づたいにわれ
らが降りていく音が轟々とひびく。

やがて海の湧き水が出る穴のからわれ
2182 らはパッと飛び出した。人間界の海は海
面が明るく輝いていた。美しく風いだ海
面が明るく光っている。海鳥の潜って餌
をあさる声々がそうぞうしい。まことに
気持ちよくおもしろい。

われらが飛ぶ耳元に風がうなる。

第2節 別れ

今ははや、トミサンベチ・シヌタプカ
2199 が眼前に高々とせりあがって来た。中腹
まで黒いもやがたなびいている。

白波立つ領域にわれらが達すると、ア
2207 イヌラックルが波打ち際に降り立った。
われらに振り向き喉奥を美しく響かせて
こう言った。

「これこれ、わが弟殿、国を司る神よ。わ
が申すことをよく聞きたまえ。平和時に

やって来たものであるならば、トミサンベチの山城に立ち寄って、二三日休み、いいことでも悪いことでも、なごやかに話したいものであるが、わしが呼んだ神、位の高き神も同伴している。汝が救い出してくれた沖の国の小東姫はわしが送って行き、戦いの状況をすべて話してしまっただ後で、わしは、ゆっくりと穏やかな訪いを神々とともにするつもりだ。そのときこそ、本当に親身な対面をしよう。盛大な宴会を開き食事しながら、正式な挨拶を交わそうぞ。ひとまずここでお別れいたす。」

といいながら、アイヌラックルはわが手を撫でさすった。類まれなる勇士が目元をうるませている。われも後ろを向いてこっそり涙をぬぐった。

2282 わが妻山川姫と小東姫の二人も、ただ一枚の肌着を身にまとっている姿だったが、お互いの頭から腕にかけて撫で合い、

「遅くならうとも、いつの日かきっとまたお会いできるでしょうよ」と泣きながら、何度も別れがたい様子をくりかえしている。

フレマウポー赤禿の神雄は、高く低くわれに礼拝した。草人形の神雄も微笑みを浮かべてわが手を高く持ち上げつつ、われに礼拝した。

2315 おお可哀相に！小東姫、神のごとき淑女、沖の国の若い娘は、われを振り向いて、何か言いたげにしていたが、自分が肌着一枚の姿だということに気付くと、慎み深い女性だから、自分の後を振り向いて、そっと顔の涙をぬぐっている。

かわいそうになあ！海の冥界王の邪心

のせいで、若い娘が恥ずかしい思いをしたのであったから、われは内蔵がかきむしられるように切なく、気道も塞がれて息が詰まる思いをした。

まず先に、アイヌラックルが天空高く飛び上がった。あとの三人が次々と昇って行く音が轟々とひびき、別れていった。わが心は別れの悲しみで死にそうになる。

第3節 再びシヌタブカで

われは、妻の肩をつかまえ、しっかり抱きかかえた。ひとつ飛びでシヌタブカの神居の煙出し窓から入って、横座の上にドングリがポトリと落ちるさながらに降り立った。

台座の上にわれは音もなくスウッと行き、

「愛しの妻よ、わが心臓よ」

と言って、わが妻をつよく抱きしめた。

「わが君さまあ〜」

妻は高く叫んだ。わが衣のすそをかき寄せ、泣きながらこう言った。

「ほんとにまあ、凡庸に生れついた取り柄のないわたくしでしたが、何か術をかけられたみたいに熟睡していて、とんでもない海の冥界王に誘拐されるまで、ちっとも知らずに眠りこんでいたとは、思い返すとほんとに恥ずかしく、きまりが悪い。わが君さまがいなかったなら、海の冥界王がどんななかにかまあ、わたくしを一人で弄んだものか？ 淑女の中の淑女であるわたくしであったのに、もう少しで危ういところでしたが、神の加護によって再び神居に帰って来られたのですわねえ」

と言って自分の生還を慶んだ。われが妻

2350

2371

2379

2413

赤海亀になる

の無事を言祝ぐと、お返しに妻もわれを言祝いだ。

- 2418 あまりにも空腹で今にも死にそうだ。
妻は美しい着物で身なりを整え、水滴を滴らせながら手を洗い、心をこめて煮炊きした。鍋が煮えると火から下ろしてよそった。それを見て、われは炉端へ出て行き、右座にいるわが妻の上座側に座った。
舶来の上等なお椀を、舶来の上等なお膳に載せて、妻はわれに高盛飯を捧げた。われは受け取って食べる。彼女も食べた。食事しながら、虚実取り混ぜた冗談やあることないこと、わが妻は取りとめなくおしゃべりし、われはニコニコ笑って聞いていた。

- 2457 おおあわれ、アイヌラックルの小児を思い出すと泣きたくなり、わが心も死んでしまいそうだ。雑事を片づけてしまって、さあ一刻も早く、神のわが兄のもとへ行きたいなあ! とここまで。

Hure echinke ane

赤海亀になる

第1章

略奪

1.1 シヌタプカのポイヤウンベ 夫妻

p. 1

1 Chituye amset

チトゥイエ アムセツ
切られる 寝台
切り設けた台座

2 Kani amset ka ta

カニ アムセツ カ タ
黄金 寝台 上 (場所)
こがねの台座の上で

3 Kimunnaiummat*¹

キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫 (キムンナイウンマツ)

4 kamui katkemat

カムイ カツケマツ
神 婦人
神の淑女

5 an-tureshipo

アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻を

6 a-shiupsorsam-*²

ア・シウツソロサム・
我・ふところのそば
わがそばに

7 nere kane

ネレ カネ
である (同時)
侍らせて

8 a-shikoruye

ア・シコルイエ
我・撫でる
われ妻を撫でさすり

9 kamui sannan ka ta

カムイ サンナン カ タ
神 顔 上 (場所)
その美しい顔のおもてへ

10 an-echopnure.

アネチョプヌレ.
我・接吻する
われ接吻した。

11 Ineapkus

イネアプクス
何と
なんとまあ

12 enubetne wa

エヌベツネ ワ
喜ぶ (接続)
嬉しがって

13 iki nankor a.

イキ ナンコラ.
する だろう か
妻はそうしただろうか。

14 Tu mina itak

トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
いくつもの戯言ざれごと

*¹ kim-un-nayun-mat <山・にある・川(という村)・に住む・女性>

*² si-upsor-sam-ne-re <自分の・懐・わき・横・になら・せる>

赤海亀になる

- 15 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
たくさんの冗談口を
- 16 i-tasare,
イ・タサレ,
我・返す
たたき、
- 17 itasa bakno
イタサ バクノ
返す まで
返礼として
- 18 a-sannan ka ta
ア・サンナン カ タ
我・顔 上 (場所)
わが^{かおも}顔面に
- 19 i-echopnure.
イ・エチョプヌレ.
我・接吻する
接吻を返した。
- 20 Eminahaukan
エミナハウカン
笑い声の末尾
嬉しがつて笑う妻の声の末尾が
- 21 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
美しくひびく。
- 22 Otu henkuror
オトゥ ヘンクロロ
二つの うなづくこと
にこにこ笑いながら
- 23 ore henkuror
オレ ヘンクロロ
三つの うなづくこと
おうおうと何度もものうなづきを
- 24 a-koanukar.
ア・コアナカラ.
我・に置く
われは妻にあたえる。
- 25 Kunne hene
クンネ ヘネ
夜 も
夜も
- 26 tokap hene
トカプ ヘネ
昼 も
昼も
- 27 a-uomina-^{*3}
ア・ウオミナ・
我ら・笑い声を
われらは台座から笑い声を
- 28 echiu kane.
エチウ カネ.
刺す (同時)
あげて暮らしていた。
- 29 Konepkeukata!
コネプケウカタ!
何ということか
ああなんということか、
- 30 konepkashita!
コネプカシタ!
何としたことか
ああかわいそうに、
- 31 tu rur ekari
トゥ ルル エカリ
二つの 海 回る
たくさんの海をめぐり
- 32 re rur ekari
レ ルル エカリ
三つの 海 回る
いくつもの海をまわって
- 33 tumi ne yakka
トゥミ ネ ヤッカ
戦い である (譲歩)
戦いのなかでも
- 34 senne saure
センネ サウレ
(否定) 軽輩の
とくに激しい戦さが
- 35 i-kohobuni ko,
イ・コホブニ コ,
我・立ち上がる (条件)
われに向かって起こると、

^{*3} u-o-mina-eciw <互いに・そこから・笑い・
を刺す>

- 36 **Kimunnaiummat**
 キムンナイウムマツ
 (人名)
 山川姫
- 37 **an-tureshipo**
 アン・トゥレシポ
 我・妹
 わが妻
- 38 **ene okai**
 エネ オカイ
 このように ある
 まだあんなに
- 39 **pon matkachi**
 ポン マッカチ
 小さい 少女
 少女のような若さなのに
- 40 **i-eirbakno**
 イ・エイリバクノ
 我・一緒に
 われと一緒に
- 41 **yupke p hene**
 ユプケ プ ヘネ
 強い もの も
 激しい戦も
- 42 **saure p hene**
 サウレ プ ヘネ
 軽輩の もの も
 ゆるい戦も
- 43 **i-arkamkashi**
 イ・アラカムカシ
 我・身の上
 われとひとつ肌身の上に
- 44 **otasashke shiri**
 オタサシケ シリ
 苦勞を分かちあう 様子
 痛みを分け合っていたこと、
- 45 **okkai rametok**
 オクカイ ラメトク
 男 勇者
 男子の勇者でも
- 46 **an-ekasure shiri**
 アネカスレ シリ
 凌ぐ 様子
 かなわない様子であったことを
- 47 **an-eshikarun ko**
 アネシカルン コ
 我・思い出す (条件)
 思い出すと、
- 48 **a-shiksut konna**
 ア・シクスツ コンナ
 我・日元 は
 わがまなじりから
- 49 **kobuyuisse kane.**
 コブユイセ カネ.
 湿らせる (同時)
 ジワツと涙があふれ出る。
- 50 **Tanepo konna**
 タネポ コンナ
 たった今 こそ
 今やっと
- 51 **tumunchi utur**
 トウムンチ ウトゥル
 戦争 間
 戦いの合間
- 52 **rorumbe utur**
 ロルムベ ウトゥル
 戦闘 間
 戦さの合間の
- 53 **a-eshini p ne kusu**
 ア・エシニ プ ネ クス
 我・休む もの である (理由・目的)
 休戦時になったから
- 54 **oainu sakno**
 オアイヌ サクノ
 人 無くて
 他にだれひとりいない
- 55 **sama shik sakno**
 サマ シク サクノ
 そば 目 無くて
 水入らずで
- 56 **an-tureshipo tura**
 アン・トゥレシポ トウラ
 我・妹 ともに
 わが妻と
- 57 **ouse tun a-ne wa**
 オウセ トウン ア・ネ ワ
 ただ (だけ) 二人 我・である (接続)
 二人つきりで

p. 2

赤海亀になる

- 58 ram oshi wano
ラム オシ ワノ
心 中(?) から
心ゆくまで
- 59 utashpa kane
ウタシパ カネ
互いに (同時)
かわるがわる
- 60 tu pirika itak
トゥ ピリカ イタク
二つの 良い 言葉
たくさんのお思いやりの言葉
- 61 re pirika itak
レ ピリカ イタク
三つの 良い 言葉
いくつものねぎらいの言葉を
- 62 a-usannankurka-^{*4}
ア・ウサンナンクルカ・
我ら・互いの顔の上に
お互いに
- 63 obirasa kane.
オビラサ カネ.
裾を広げる (同時)
かけ合った。
- 64 Ramma kane
ラムマ カネ
いつも (同時)
いつもいつも
- 65 katkoro kane
カッコロ カネ
振舞う (同時)
平穩無事に
- 66 shini-an
シニ・アン
休む・一人
休らいで
- 67 uweneusar-an kane.
ウウェネウサラ・アン カネ.
話し合いをする・我ら (同時)
われらは楽しく語り合っていた。
- 68 Uturu ta
ウトウル タ
間 (場所)
その間に
- 69 an-tureshipo
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻は
- 70 pirika shuke
ピリカ シュケ
良い 炊事する
うまい飯炊き
- 71 koyairikta-
コヤイリクタ・
みずから高く
にかいがいしく
- 72 ante kane.
アンテ カネ.
あらしめる (同時)
いそしんだ。
- 73 Ibe-an ko
イベ・アン コ
食事する・我 (条件)
食べ終わると
- 74 orowa sui
オロワ スイ
(始点) 再び
それからまた
- 75 hotke-an kane.
ホッケ・アン カネ.
寝る・我 (同時)
われらは寝た。
- 76 Sunke ashbe
スンケ アシベ
嘘 あること
虚実取り混ぜた冗談や
- 77 sone ashbe
ソネ アシベ
らしく あること
あることないこと
- 78 an-tureshipo
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻は

^{*4} a-u-sannan-kurka-o-birasa <われらは・互いに・顔・上・そこに・ひろげる>

- 79 **eibaroka-**
エイバロカ・
しゃべり続ける
取りとめもなく
- 80 **tata kane.**
タタ カネ。
ここ (同時)
おしゃべりした。
- 81 **Makan okai i**
マカン オカイ イ
どのように ある こと
あるところでは
- 82 **a-eiomina-**
ア・エイオミナ・
我・笑ってみせる
われは妻に笑って
- 83 **ushi kane,**
ウシ カネ,
ところ (同時)
みせ、
- 84 **makan okai i**
マカン オカイ イ
どのように ある こと
あるところでは
- 85 **a-iohetche**
ア・イオヘツチェ
我・相づちを打つ
妻に相づち打ったり
- 86 **a-iyohumse-**
ア・イヨフムセ・
我・氣勢をあげる
フムツと気合いを
- 87 **echiu kane**
エチウ カネ
刺す (同時)
かけたりしながら
- 88 **okai-an.**
オカイ・アン。
いる・我
われら楽しく暮らしていた。
- 89 **Tokap an ko**
トカプ アン コ
昼 ある (条件)
昼になると
- 90 **kamui ewaki**
カムイ エワキ
神 住まい
この神居の
- 91 **upsororke**
ウプソロロケ
懐の中
うちじゅうに
- 92 **kunne urar**
クンネ ウララ
黒い 霧
黒い霞
- 93 **retar urar**
レタラ ウララ
白い 霧
白い霞が
- 94 **eetushnatki.**
エエトウシナツキ。
満ちる
いっぱい満ちあふれた。
- 95 **Kunne an ko**
クンネ アン コ
夜 ある (条件)
夜ともなれば
- 96 **ikor nubek**
イコロ スベク
宝物 光
宝刀の光
- 97 **tomi nubek**
トミ スベク
財宝 光
財宝の光が
- 98 **tokap shikush ne**
トカプ シクシ ネ
昼 日差し として
日光のように
- 99 **chise uporo**
チセ ウプソロ
家 内部
家じゅう
- 100 **eemaknatara.**
エエマクナタラ。
輝いている
に輝きわたる。

赤海亀になる

- 101 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
まことに心地よく
- 102 an-uwesuye kane.
アヌウェスイエ カネ.
我・思う (同時)
さわやかな気分だ。
- ## 1.2 妻の失踪
- 103 Shine an anchikar ta
シネ アン アンチカラ タ
一つの ある 晩 (場所)
ある夜中のこと
- 104 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・である (接続)
われら二人は
- 105 pirika mokor
ピリカ モコロ
良い 眠る
ぐっすりと眠り
- 106 i-annoibakar.
イ・アンノイバカラ.
我ら・熟睡する
こんでいた。
- 107 Ohonno hetapne
オホンノ ヘタプネ
しばらく これ
長い間だったか
- 108 setakno hetapne
セタクノ ヘタプネ
短時間に これ
短い間だったか
- 109 mokor-an aine
モコロ・アン アイネ
眠る・我ら (接続)
眠っていて
- 110 hunakbakita
フナクバキタ
あるとき
ふと
- 111 a-yaishikarun.
ア・ヤイシカルン.
我・正気に返る
目が覚めた。
- 112 Tap koeramno*5
タプ コエラムノ
これ 同時に
それと共に
- 113 rikunsui enka un
リクススイ エンカ ウン
煙出しの穴 上 (方向)
煙出し窓の上空で
- 114 Kimunnaiummat
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫の
- 115 chish rimimse
チシ リミムセ
泣く 泣き叫ぶ
泣き叫ぶ
- 116 ehautum konna
エハウトゥム コンナ
声 は
その声音が
- 117 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
響き渡った。
- 118 Kurkashike
クルカシケ
上
さうしながら
- 119 itakomare
イタコマレ
言う
言葉を挿み
- 120 ene okai i:—
エネ オカイ イ:・・・
このように ある こと
こう言った。
- 121 “Koninkarkusu!
“コニンカラクス!
いざいざ
「もしもーし!

*5 原綴 koiramno。ko-eramno「<と・いっしょに>すぐに(金 I 279)、それと共に(研 642)、といっしょに(金 I 11)、と共に(金 I 12)」tap koeramno「それと共に」(研 643)

- 122 pon a-kor yubi!
 ポン ア・コロ ユビ!
 小さい 我・もつ 兄
 わが^{きみ}君さまやーい。
- 123 Ne moshiri koro be
 ネ モシリ コロ ベ
 どこ 国土 持つ もの
 どこの国の
- 124 ne kotan koro be
 ネ コタン コロ ベ
 どこ 村 持つ もの
 どこの村の者がが
- 125 setatekbashte*⁶
 セタテクバシテ
 盗みさる
 犬が物を盗んで逃げるみたいに
- 126 i-y-ekarkar na!
 イ・イエカラカラ ナ!
 我・する ぞ
 わたくしをさらったのですよう。
- 127 Oro tunashno
 オロ トゥナシノ
 所 早く
 即刻
- 128 i-kotuye yan!" ari
 イ・コトゥイエ ヤン!" アリ
 我・切る (命令) (引用)
 斬り殺して下さりませえ」と
- 129 hawash chiki,
 ハワシ チキ,
 言われる (条件)
 妻が言ったから、
- 130 inu newa
 イヌ ネワ
 聞く であって
 ただ聞いただけ
- 131 a-ki p ne koroka
 ア・キ プ ネ コロカ
 我・する もの である (逆接)
 なのであったけれど
- 132 nekona shino
 ネコナ シノ
 どのように まことに
 なにをどう
- 133 iki-an a yakka
 イキ・アン ア ヤッカ
 する・我 完了 (譲歩)
 自分がしたかも
- 134 an-eramishkare.
 アネラミシカレ.
 我・わからない
 解らないほどカーツと頭にきた。
- 135 Semkorachi
 セムコラチ
 まるで (する) ように
 聞こえたと同時に
- 136 amset ka ta
 アムセツ カ タ
 寝台 上 (場所)
 台座の上で
- 137 Kimunbe ottom
 キムンベ オットム
 熊 力 (?)
 山熊のようないきおいで
- 138 a-shikaikire
 ア・シカイキレ
 我・伸びをする
 大きな伸びをして
- 139 a-matkosanu.
 ア・マッコサヌ.
 我・パッと立ち上がる
 パッと立ち上がった。
- 140 I-erupshike wa
 イ・エルプシケ ワ
 我・正面 から
 わが頭の方にあった

*⁶ seta-tek-paste/i-ekarkar <犬の手を走らせる/我に～をする>犬が物を盗んで逃げるようにかっさらう。seta tek bashte/EEKARKARAN na.「犬の手を馳せて(脚注:犬の逃げるように早く逃げる)/汝と走ろうよ。」(金 VI 130) “ne kotan kor be/ne moshir kor be/setatekpashte/i-y-ekarkar na./I-resu yubi/ortunashno/i-kotuye yan!/I-koraikie yan!” ari 《萱野訳》「『どこの国の者/どこの村の者/私を攫って/逃げ出した。/私の兄よ、/急いで来て/この者を斬り/殺してえー』と (教 II 22)

赤海亀になる

- 141 **etor kot kosonte** *p. 4*
 エトロ コツ コソソテ
 木鈴 持つ 小袖
 鈴が下がっている小袖を
- 142 **a-shikurkasam-**
 ア・シクルカサム・
 我・自らの上
 自分の身体の上
- 143 **obirasa.**
 オビラサ.
 裾を広げる
 にさっと開いて身にまとう。
- 144 **Uwokkanikut**
 ウウオクカニクツ
 金のベルト
 ぜんまい飾りが下がる金の帯
- 145 **a-tumamkosaye**
 ア・トゥマムコサイエ
 我・胴に巻く
 を胴に巻き、
- 146 **kabarbe kasa**
 カバラベ カサ
 薄造りの物 笠
 渡来の上質な兜の
- 147 **kasa ran tubep**
 カサ ラン トゥベブ
 笠 下がる 紐
 その垂れ緒を
- 148 **an-eyaisannanka-**
 アネヤイサンナンカ・
 我・みずからの顔
 自分の顔に
- 149 **yubu kane,**
 ユブ カネ,
 強める (同時)
 しっかりと締め、
- 150 **kamuiranketam**
 カムイランケタム
 神授の刀
 神から降ろされた太刀を
- 151 **a-kutbokechiu,**
 ア・クツボケチウ,
 我・帯に差す
 帯下に差入れ、
- 152 **rikunsui ka**
 リクンスイ カ
 煙出しの穴 上
 煙出し窓を
- 153 **a-yaibosore.**
 ア・ヤイボソレ.
 我・抜ける
 われは通り抜けた。
- 154 **Inkar-an ko**
 インカラ・アン コ
 見る・我 (条件)
 見渡せば
- 155 **beken nisat**
 ベケン ニサツ
 明るい 朝
 しののめが
- 156 **kunne nisat**
 クンネ ニサツ
 黒い 朝
 あかつきと
- 157 **okutekari**
 オクテカリ
 なる
 入れ替わって
- 158 **kane shiran.**
 カネ シラン.
 (同時) 有様である
 朝が来たようだ。
- 159 **Kamuinishka un**
 カムイニシカ ウン
 天空の上 (方向)
 天空で
- 160 **sui ari korachi**
 スイ アリ コラチ
 再び (引用) 同時に
 また先ほどと同様に
- 161 **an-tureshipo**
 アン・トゥレシポ
 我・妹
 わが妻が
- 162 **hotuiba.**
 ホトゥイバ.
 叫ぶ
 大声で呼ばわった。

- 163 **Kamuinishka**
カムイニシカ
天空の上
天空へ
- 164 **toyanramsura**
トヤンラムスラ
全力で
いきなり
- 165 **a-korikoshma.**
ア・コリコシマ.
我・飛び上がる
われは飛び上がった。
- 166 **A-turenkamui**
ア・トゥレンカムイ
我・憑き神
わが憑神
- 167 **utarorke**
ウタロロケ
たち
たちも
- 168 **uweomanno**
ウエオマンノ
しだいに
相次いで
- 169 **kamuinishka**
カムイニシカ
天空の上
天空
- 170 **kohumbushba.**
コフメブシバ.
音がたつ
へごうごうと音を響かせる。
- 171 **Hontomota sui**
ホントモタ スイ
途中で 再び
その途中でまた
- 172 **kaibok ka un**
カイボク カ ウン
海面 上 (方向)
波打ち際で
- 173 **sui arbutanki**
スイ アラベウタンキ
再び 激しい危急の叫び
再び彼女が危急の叫び声を
- 174 **ekususuye.**
エクススイエ.
不意に放つ
振り絞った。
- 175 **Kaibok ka ta**
カイボク カ タ
海面 上 (場所)
波打ち際に
- 176 **chikap reu shiri**
チカプ レウ シリ
鳥 (鳥が) とまる 様子
鳥が木の枝にとまるその様
- 177 **a-shikobayar.**
ア・シコバヤラ.
我・見せかける
さながらにわれは舞い降りる。
- 178 **Rabokita**
ラボキタ
間に
その間に
- 179 **tane shiribeker.**
タネ シリベケレ.
今 夜が明ける
すっかり夜が明けた。
- 180 **Inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
眺めても
- 181 **nepka isam.**
ネプカ イサム.
何か いない
何ごともない。
- 182 **Kaibok ka ta**
カイボク カ タ
海面 上 (場所)
波打ち際で
- 183 **chiashtushtekka-an kane**
チアシトウシテッカ・アン カネ
立ちつくす・我 (同時)
じいっと突っ立ち
- 184 **atuiba bakno**
アトウイバ バクノ
海の東端 まで
海東端から

赤海亀になる

- 185 **atuikesh bakno**
 アトウイケシ バクノ
 海の西端 まで
 海面の西端まで
- 186 **an-uwambare**
 アヌワムバレ
 我・調べる
 われは調べまわし
- 187 **a-shikewente.**
 ア・シケウエンテ.
 我・目をこらす
 目で突き壊すほど見調べた。
- 188 **Kamuinishka**
 カムイニシカ
 天空の上
 天空を
- 189 **neita bakno**
 ネイタ バクノ
 どこに まで
 すみずみまで
- 190 **a-shikkankari**
 ア・シクカンカリ
 我・目を動かす
 きよろきよろ
- 191 **an-uwambare.**
 アヌワムバレ.
 我・調べる
 見調べた。
- 192 **Ki p ne koroka**
 キ プ ネ コロカ
 する もの である (逆接)
 そうしたところで
- 193 **konep urar hene**
 コネプ ウララ ヘネ
 何 霧 も
 何のもやも
- 194 **nishkur hene**
 ニシクル ヘネ
 雲 も
 雲の影も
- 195 **chikap hene**
 チカプ ヘネ
 鳥 も
 鳥すらも
- 196 **nekon ka**
 ネコン カ
 どのように も
 何も
- 197 **ponno ka**
 ポンノ カ
 少し も
 少しも
- 198 **a-oyamokte**
 ア・オヤモクテ
 我・不思議に思う
 不審に思う
- 199 **kane ambe**
 カネ アムベ
 (同時) あること
 思うものは
- 200 **shirutba shiri**
 シルツバ シリ
 寄ってくる 様子
 近寄ってくる様子も
- 201 **moimoike shiri**
 モイモイケ シリ
 動く 様子
 動く気配も
- 202 **somo a-nukara.**
 ソモ ア・ヌカラ.
 (否定) 我・見る
 見えない。
- 203 **Wen iyoyamokte**
 ウエン イヨヤモクテ
 悪い 不思議に思う
 非常に変な
- 204 **a-ki kane.**
 ア・キ カネ.
 我・する (同時)
 気がする。
- 205 **Ohanakusu!**
 オハナクス!
 もしや
 まさか
- 206 **atanan ainu**
 アタナン アイヌ
 ただの 人間
 普通の人間が

p. 5

- 207 **Kimunnaiummat**
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫
- 208 **ekira ko**
エキラ コ
拐かす (条件)
^{かどわ}
を拐かしたのではあるまい。
- 209 **Shisak nubur mat**
シサク ヌブル マツ
またとない 霊力 女
あのだぐいまれなる巫女が
- 210 **monbokashte p**
モンボカシテ プ
劣る もの
かなわない敵
- 211 **newa kusu**
ネワ クス
であって (理由・目的)
だとしても
- 212 **sonno tap nahun**
ソンノ タプ ナフン
真に これ たった今
ほんにたった今
- 213 **eteun hawehe ash**
エテウン ハウエヘ アシ
こっちへ 声 立つ
こっちへその声が出た
- 214 **kuni a-ramu rok be,**
クニ ア・ラム ロク ベ,
ように 我・思う (完了) もの
と思ったのに、
- 215 **neun terke wa**
ネウン テレケ ワ
どこに 跳ねる (接続)
もうどこかに跳んで
- 216 **neun baye wa**
ネウン バイエ ワ
どこに 行く (接続)
行ってしまった
- 217 **shiran chiki,**
シラン チキ,
有様である (条件)
ようなので、
- 218 **shiyoro keutum**
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚いて
- 219 **a-yaikore.**
ア・ヤイコレ.
我・もつ
しまった。
- 220 **Ainu hetapne**
アイヌ ヘatapネ
人間 これ
人間なのか
- 221 **kamui hetapne**
カムイ ヘatapネ
神 これ
神なのか
- 222 **chishimemokka**
チシメモッカ
挑発される
挑戦する
- 223 **newa ne yakka**
ネワ ネ ヤッカ
であって として (譲歩)
にしても
- 224 **orsaureko**
オロサウレコ
とんでもなく
並々ならぬ挑発を
- 225 **i-y-ekarkar ruwe**
イ・イエカラカラ ルウェ
我・する 跡
仕掛けてきたということ
- 226 **okai chiki**
オカイ チキ
ある (条件)
だから
- 227 **irushka ne ya**
イルシカ ネ ヤ
怒る である (疑問)
腹が立つの
- 228 **nep ne ya**
ネプ ネ ヤ
何 である (疑問)
何の

赤海亀になる

- 229 **enewaboka**
エネワボカ
どうにも
どう
- 230 **iki-an i ka**
イキ・アニ カ
する・我 こと も
しようも
- 231 **oarar isam.**
オアララ イサム.
全く 無い
ない。
- 232 **A-einkar kuni p**
ア・エインカラ クニ プ
我・〜で見る はずの もの
わがまなこは
- 233 **tu pon nochiu ne**
トゥ ボン ノチウ ネ
二つの 小さい 星 として
二つの星のごとく
- 234 **uweutuisam-**
ウウエウトウイサム・
並んで
顔の左右に
- 235 **unte kane.**
ウンテ カネ.
あらしめる (同時)
並んでキラキラ光っている。

第2章

逃走神

2.1 ポイヤウンベ、赤海亀に変身す

- 236 Arherebashi
アラヘレバシ
沖へ
はるか沖を
- 237 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 (展開)
眺めたら
- 238 rabokita
ラボキタ
間に
ちょうどそのとき
- 239 arherebashi wa
アラヘレバシ ワ
沖へ から
はるか沖合から
- 240 pon reba chip
ボン レバ チブ
小さい 沖の獵 舟
小さな交易船が
- 241 tu so ush*¹ kane
トゥ ソ ウシ カネ
二つの 平面 ある (同時)
波をかきわけ (?)

- 242 kotbok*² riri
コッボク リリ
前 波
舳先にあたる波が
- 243 tososatki.
トソサッキ.
ザザアとする
ザアザアザア。
- 244 Yan shiri konna
ヤン シリ コンナ
上陸する 様子 は
やって来る様子は
- 245 ai tune shiri
アイ トゥネ シリ
矢 糸筋のように 様子
まるで矢が飛び

*² 金田一筆録、日高・沙流、鍋沢ワカルバ所伝の金田一訳では、Nea poro chip/…/kotpar konna/kotososatki. 「件の大舟も/…/舳先に(あたる浪)/ざあざあざあ。」(金 VIII 83)で kotpar であるが、金成マツ筆録の萱野訳では、Pon reba chip/kaya hon kese/tokse kane/kotbok riri/tososatki. 「風を受けた帆は/順風満帆/船の後に(分解訳:kotbok riri <陰波>)/起きる波は音を立てている。」(教 XVI 27) Yan shiri konna/kotbok riri/kotososatki. 「来るようすは/舳先の波を(分解訳:kotbok riri <前波>)/蹴立てるように」(教 24-96)となっている。kotbok は～の直前という意味であるから、riri 波の直前に当たる波という意味であろう。

*¹ 不詳。so us <二つの滝をつける>たくさん滝がついているように(?) 用例なし。

赤海亀になる

- 246 op tune shir
 オブ トゥネ シリ
 槍 糸筋のように 様・
 槍が飛んでいく
- 247 ekannayukar.
 エカンナユカラ.
 ようである
 それさながらだ。
- 248 Tunash yan be
 トゥナシ ヤン ベ
 素早い 上陸する もの
 急いで行くもの
- 249 kimatek yan be
 キマテク ヤン ベ
 慌てる 上陸する もの
 あわてて行くもの
- 250 sone kusu
 ソネ クス
 らしく (理由・目的)
 にちがいない
- 251 irukaine*³ ko
 イルカイネ コ
 しばらく経つ (条件)
 たちまち
- 252 i-koehanke
 イ・コエハンケ
 我・ほど近い
 われからごく近い
- 253 kambe kurka
 カムベ クルカ
 水面 上
 波の上を
- 254 echararse.
 エチャララセ.
 滑り落ちる
 サーツとすべって行く。
- 255 Shirki chiki*⁴
 シリキ チキ
 そうする (条件)
 それを見て
- 256 neptapteta
 ネプタプテタ
 何ということか
 なんともかんとも
- 257 irushka-an ko
 イルシカ・アン コ
 怒る・我 (条件)
 われは腹が立ってきて、
- 258 rabokita
 ラボキタ
 間に
 そのうち
- 259 hemanta tapne
 ヘマンタ タプネ
 何 これである
 何かこう
- 260 ekimattek be
 エキマッテク ベ
 狼狽する もの
 焦っている者が
- 261 a-kor kotani
 ア・コロ コタニ
 我・もつ 村
 わが村の
- 262 repkehe
 レプケヘ
 沖合
 沖合を
- 263 ehoyuppa shiri
 エホユブパ シリ
 疾走する 様子
 走り去っていく様子
- 264 okai chiki,
 オカイ チキ,
 ある (条件)
 だから、
- 265 'pon iramokkapo
 'ポン イラモッカポ
 小さい いたずら
 『ちよっとからかって
- 266 a-ki kusu ne' ari
 ア・キ クス ネ' アリ
 我・する (理由・目的) である で
 やろう』と

*³ 原綴 iruraine

*⁴ 原綴 chiko

- 267 yainu-an kusu,
ヤイヌ・アン クス,
考える・我 (理由・目的)
思っ、
- 268 taban pon reba*⁵chip
タバ ン ポン レバチア
これ・ある 小さい 交易船
この小さな船の
- 269 kotboki ta
コツボキ タ
前 (場所)
舳先に
- 270 otu babiror
オトゥ バビロロ
二つの 密かな呪文
密かに二口
- 271 ore babiror
オレ バビロロ
三つの 密かな呪文
三口呪文を
- 272 a-yaikoturi,
ア・ヤイコトゥリ,
我・長く述べる
われはぶつぶつ唱え、
- 273 atui asam
アトゥイ アサム
海 底
海の底に
- 274 a-korauoshma awa,
ア・コラウオシマ アワ,
我・入る (展開)
パッと潜ったところ、
- 275 kanantano kane
カナタノ カネ
変に (同時)
何となく変に
- 276 an-an wa kusu
アナン ワ クス
いる・我 (接続) (理由・目的)
なったので
- 277 a-yaitumam ka
ア・ヤイトゥマム カ
我・自分の身体 上
わが身体を
- 278 uwambare awa,
ウワムバレ アワ,
見て調べる (展開)
見たら、
- 279 senne nak sui
センネ ナク スイ
(否定) (?) 再び
まさかまた
- 280 an-an kuni
アナン クニ
いる・我 ように
そうなるとは
- 281 a-ramu rok i
ア・ラム ロク イ
我・思う (完了) こと
思わなかったのに
- 282 shiboro hure echinke
シボロ フレ エチンケ
大きな柱 赤い 亀
巨大な赤海亀に
- 283 a-ne kane.
ア・ネ カネ.
我・である (同時)
われはなっていた。
- 284 Iyainumare!
イヤイヌマレ!
驚いた
驚くべし。
- 285 Kambe kurka
カムベ クルカ
水面 上
波の上に
- 286 a-koshibusu ko
ア・コシブス コ
我・に現れ出る (条件)
浮き上がると
- 287 a-nubeki
ア・ヌベキ
我・の光
わが発する光は
- 288 hure imeru
フレ イメル
赤い 光
赤い稲光

p. 6

*5 原綴 riba

赤海亀になる

- 289 **shiunin imeru**
シウニン イメル
青い 光
青い稲光
- 290 **retar imeru**
レタラ イメル
白い 光
白い稲光となって
- 291 **uweshimaka.**
ウエシマカ.
盛んに光る
明るく輝いた。
- 292 **Atuiso kurka**
アトゥイソ クルカ
海面 上
海面は
- 293 **chup kiyai ne**
チュブ キヤイ ネ
日 光 として
月光のように
- 294 **eakaiakai*6**
エアカイアカイ
不詳
ピカピカ煌めいている。
- 295 **Rabokita**
ラボキタ
間に
その間にも
- 296 **tap i-tuisam ne**
タップ イ・トゥイサム ネ
これ 我・傍 へ
わがすぐそばを
- 297 **pon reba chip**
ボン レバ チブ
小さい 沖の獵 舟
小さな交易船が
- 298 **echararse.**
エチャララセ.
滑り落ちる
滑るように進んでいく。
- 299 **Inkar-an awa**
インカラ・アン アワ
見る・我 (展開)
見れば
- 300 **chip upsotta**
チブ ウブソッタ
舟 懐に
船の中に
- 301 **pon urar*7 tapkop**
ボン ウララ タブコブ
小さい 霧 小山
小さな霞の小山が
- 302 **shinep nanta a**
シネブ ナンタ ア
一つ 舳 座る
ひとつは船首に座り
- 303 **shinep umta a kane**
シネブ ウムタ ア カネ
一つ 舳 座る (同時)
ひとつは船尾に座っている。
- 304 **Chibo ne kuni p**
チボ ネ クニ プ
舟を漕ぐ である はずの もの
船を漕いでいる者が
- 305 **kohokushhokush*8**
コホクシホクシ
前後に倒れる
体を前後へ倒して櫓を漕ぎながら
- 306 **a-nubeki**
ア・ヌベキ
我・の光
わが体から発する光
- 307 **koshikraiba.**
コシクライバ.
目撃する
に目をとめた。

*6 kamui nupeki/chup chise ne/kemka imeru/eakai-akai/maknatara. 「神々しい光輝/月の輪のよう/真赤な閃光が^がびかびか(脚注: eakai-akai は e-ukai-ukai <相折れ合う>か)明るかった。」(金 VII 105~6)の用例がある。

*7 原綴 unarar

*8 「chip-o <舟・乗る>舟を漕ぐ。ko-hokush <に・仆れる>。舟を漕ぐために前後に仆れるように動いて見える。」(金 I 335)

- 308 **Homatpa ruiba p**
ホマツパ ルイバ プ
驚く 激しい もの
二人は非常に驚いた
- 309 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
である もの である (理由・目的)
ものだから
- 310 **chip atte.**
チブ アツテ.
舟 たたせる
船の帆を降ろして停泊した。
- 311 **Rabokita**
ラボキタ
間に
その間に
- 312 **arshiokamkino**
アラシオカムキノ
知らないふりをする
わざと
- 313 **a-ki p ne kusu,**
ア・キ プ ネ クス,
我・する もの である (理由・目的)
したことなのだが、
- 314 **atuiba un wa**
アトウイバ ウン ワ
海の東端 (方向) から
海の東端から
- 315 **atuikesh un wa**
アトウイケシ ウン ワ
海の西端 (方向) から
海の西端へ
- 316 **moire herori**
モイレ ヘロリ
遅い 頭を沈める
ゆっくりと頭を沈め
- 317 **a-koyaikurka-**
ア・コヤイクルカ・
我・みずからの上
水面下に潜って
- 318 **oma kane.**
オマ カネ.
ある (同時)
みせた。
- 319 **Makan ne ko**
マカン ネ コ
どのように である (条件)
ときどきは
- 320 **kambe kurka**
カムベ クルカ
水面 上
波の上に
- 321 **an-oshibusu.**
アノシブス.
我・現れ出る
浮き上がる。
- 322 **Nei korachi**
ネイ コラチ
その 同時に
するとたちまち
- 323 **atuiso kurka**
アトウイソ クルカ
海面 上
海上が
- 324 **makkemakke.**
マクケマクケ.
ピカピカする
ピッカピッカ照り輝いた。
- 325 **Pon reba chip**
ポン レバ チブ
小さい 沖の猟 舟
小さな交易船の
- 326 **bishkanike**
ビシカニケ
周囲
まわりを
- 327 **an-echararse koro**
アネチャララセ コロ
我・流れ下る (同時)
われは泳ぎまわりながら
- 328 **inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 329 **iyainumare!**
イヤイヌマレ!
驚いた
驚くべし。

赤海亀になる

- 330 Pon ainu pon kuru*⁹
 ポン アイヌ ポン クル
 小さい 人間 小さい 人
 まだ年若き人
- 331 tun bish
 トゥン ビシ
 二人 浜
 二人が
- 332 imeru kusu
 イメル クス
 光 (理由・目的)
 光のせいで
- 333 urar kusu
 ウララ クス
 霧 (理由・目的)
 もやのせいで
- 334 a-nukar boka
 ア・ヌカラ ボカ
 我・見る さえ
 われにはよく見え
- 335 ewen kane okai be
 エウエン カネ オカイ ベ
 よくない (同時) ある もの
 にくい者たちが
- 336 kani kosonte
 カニ コソソテ
 黄金 小袖
 金糸銀糸で刺繍した小袖を
- 337 nenaimine
 ネナイミネ
 同じ様な衣裳
 中から外まで
- 338 arutomechui,
 アルトメチウ,
 身にまとう
 かさね着して、
- 339 uwokkanikut
 ウウオクカニクツ
 金のベルト
 金具つきの皮帯を
- 340 tumamkosaiba,
 トゥマムコサイバ,
 胴に巻く
 胴に巻き、
- 341 kamuiranketam
 カムイランケタム
 神授の刀
 神授の刀を
- 342 kutbokechui,
 クツボケチウ,
 帯に差す
 帯下にさし、
- 343 kani pon kasa
 カニ ポン カサ
 黄金 小さい 笠
 美しい兜
- 344 kasa rantubep
 カサ ラントゥベブ
 笠 垂れた紐
 その兜の緒を
- 345 eyaisannanka-
 エヤイサンナンカ・
 みずからの顔
 顔に
- 346 yupba kane.
 ユプバ カネ.
 締める (同時)
 キリリと締めていた。
- 347 Kasa kepsam ta
 カサ ケプサム タ
 笠 端 (場所)
 兜の縁から
- 348 kamui sannanu
 カムイ サンナヌ
 神 顔
 りりしい顔が
- 349 shukushtoi kunne
 シュクシトイ クンネ
 日差しの塊 ように
 昼の光のように
- 350 komaknatara.
 コマクナタラ.
 輝いている
 照り輝やいている。

p. 7

*⁹ ポナイヌ ポンクル pon-aynu pon-kur「<小・人 小・人>わかき小人。この pon'小' はすべてうつくしくいふ云ひ方 (atomte itak) であると」(研 W483)

- 351 **Irbe sone**
 イリベ ソネ
 兄弟姉妹 らしく
 兄弟らしく
- 352 **shine shikbui**
 シネ シツプイ
 一つの 目つき
 同じ様な目つき
- 353 **shine rachiu**
 シネ ラチウ
 一つの 眉
 同じ様な眉つきを
- 354 **ukoturba p,**
 ウコトゥルバ プ,
 長く伸ばし合う もの
 している者、
- 355 **oar anakne**
 オアラ アナクネ
 全く は
 まったくもって
- 356 **ainu anak**
 アイヌ アナク
 人間 は
 人間では
- 357 **somo ne kotomno**
 ソモ ネ コトムノ
 (否定) である ように
 ないように
- 358 **iramu-an.**
 イラム・アン.
 思う・我
 思われる。
- 359 **Rametok sone**
 ラメトク ソネ
 勇者 らしく
 勇者にちがいない
- 360 **rametok ibor**
 ラメトク イボロ
 勇者 顔色
 勇者の顔つきで
- 361 **eibottumu**
 エイボットウム
 顔色
 その顔色が
- 362 **shinnai kane.**
 シンナイ カネ.
 違った (同時)
 傑出している。
- 363 **Shinki rui be**
 シンキ ルイ ベ
 疲れる 激しい もの
 非常に疲れているので
- 364 **obittano**
 オビッタノ
 皆
 二人とも
- 365 **konubopbe ta**
 コヌボプベ タ
 脂汗 (場所)
 脂汗を
- 366 **rikan kane.**
 リカン カネ.
 湿っている (同時)
 浮かべている。
- 367 **Shine ikinne**
 シネ イキンネ
 一つの 列として
 いっせいに
- 368 **i-kurkashike**
 イ・クルカシケ
 我・上
 われの方を
- 369 **uwambare**
 ウワムバレ
 見て調べる
 じいっと見守り
- 370 **kanibor ka ta**
 カニボロ カ タ
 顔色 上 (場所)
 その顔色を
- 371 **koraikosamba.**
 コライコサムバ.
 蒼ざめる
 さっと変えた。
- 372 **Huihuinawano**
 フイフイナワノ
 隅々まで
 すみずみまで

赤海亀になる

- 373 **i-uwambare kane**
 イ・ウワムバレ カネ
 我・調べる (同時)
 われをじっと見ながら
- 374 **otu sanashke**
 オトウ サナシケ
 二つの 手
 両手を高く差し出し
- 375 **ore sanashke**
 オレ サナシケ
 三つの 手
 掌を上に向けて静かに上下し
- 376 **ukaenoiba**
 ウカエノイバ
 折り曲げる
 合掌して
- 377 **tekrikikur-**
 テクリキクル・
 手を高く
 両手の五指の指頭を
- 378 **bumba kane**
 ブムバ カネ
 上げる (同時)
 摩り合わせ
- 379 **i-koonkami.**
 イ・コオンカミ・
 我・拝礼する
 われに拝礼した。
- 380 **Kurkashike**
 クルカシケ
 上
 そのうえで
- 381 **kiyanne kotom**
 キヤンネ コトム
 年長である ようである
 年長らしく
- 382 **a-ramu ike**
 ア・ラム イケ
 我・思う こと
 思われるほうが
- 383 **itakomare**
 イタコマレ
 言う
 言うには
- 384 **ene okai i:—**
 エネ オカイ イ:・・・
 このように ある こと
 こうであった。
- 385 **“Usaine tap sui!**
 “ウサイネ タプ スイ!
 (呼びかけ) これ 再び
 「これはしたり。
- 386 **Iyoshserkere!**
 イヨシセレケレ!
 恐るべきことだ
 おどろいたなあ。
- 387 **Saure am be**
 サウレ アム ベ
 軽輩の ある もの
 少しばかりの
- 388 **baretoko*10**
 バレトコ
 前兆
 前兆ではなく
- 389 **hoshki** **kush tapne!**
 ホシキ クシ タプネ!
 先に 通る これである
 大変な事が起ころうとしているのか!
- 390 **Monak yaikip-**
 モナク ヤイキプ・
 そうでなくても 難を逃れる
 せつかくわれらが難を
- 391 **niukesh-an kusu**
 ニウケシ・アン クス
 しかねる・我 (理由・目的)
 逃れて

- 392 **ainu moshiri**
アイヌ モシリ
人間 国土
人間界
- 393 **kanna moshiri**
カンナ モシリ
上 国土
この世に
- 394 **a-koshibushba awa,**
ア・コシブシバ アワ,
我ら・に現出する (展開)
現れ出でたのに、
- 395 **rabokita**
ラボキタ
間に
ちょうどその時
- 396 **to at pon wa kusu***11
ト アッ ポン ワ クス
日 全く 小さい (接続) (理由・目的)
日はたくさんあるのに
- 397 **tanto koekarino**
タント コエカリノ
今日 巡り合わせて
今日という日に限って
- 398 **hure echinke kamui**
フレ エチンケ カムイ
赤い 亀 神
赤海亀の神
- p. 389 **pase kamui**
パセ カムイ
重い 神
位高き神が
- 400 **i-shikunnukare wa***12
イ・シクヌカレ ワ
我・姿を現す (接続)
われらにご自分の姿を現し
- 401 **ene shirki i ta an?**
エネ シリキ イ タ アン?
このように そうする こと (場所) ある
なさったというのか?
- 402 **Hushkotoiwano**
フシコトイワノ
以前から
昔から
- 403 **kamui ubashkuma**
カムイ ウバシクマ
神 言い伝え
神話に
- 404 **ambe tap ne.**
アムベ タブ ネ.
あること これ である
あるのはこうだ。
- 405 **Hure echinke kamui**
フレ エチンケ カムイ
赤い 亀 神
赤海亀の神が
- 406 **ikoyaikurusere**
イコヤイクルルセレ
出現する
人前に自分の姿を現した
- 407 **ko anakne**
コ アナクネ
(条件) は
となったならば
- 408 **ramma a-nomi p ne yak**
ラムマ ア・ノミ プ ネ ヤク
いつも 我・祀る もの である ということ
いつも酒や供物を捧げて祀るものだと

*10 sawre anpe/par-etoko-hoski kusu <たいした
ことがない 事実/口・の前・先 (=前触れ、前
兆) として>。Saure ampe/par-etoko/hoski
kusu/ene shiran i/tampe ne ya? 「軽やかなる
ことの/起り来むとする/前じるしとて (脚
注: 少しばかりの事の前徴ではなく、大
變な事が起らんとするものなるべし)/か
くあらんこと/なるべしや。」(研 644~5)
saure ambe/baretoko hoshki kusu/newa ene
ambe/ek i ta an?《萱野訳》「この様子はちょっ
とやそこの前触れでなく(教 III 56)、何か
大変なことが起きる前兆ではないのだから
か(教 26-11)」

*11 「日はたくさんあるのに、今日にかぎって
の意。《知里波説》日数がないものではない
のに今日自分が事を起こそうとする日に来
たものだ」(金 III 293)

*12 shikunnukare ← si-kur-nukare <自身の・影、
姿、体・~を見・せる>自分の姿をあらわ
す。原綴 Ishishikun nukare

赤海亀になる

- 409 a-ye. Yakka
ア・イエ. ヤッカ
言われる しかし
言われている。しかし
- 410 aokai utara anakne
アオカイ ウタラ アナクネ
我 たち は
われらは
- 411 konep ainu a-ne wa
コネプ アイヌ ア・ネ ワ
何 人間 我・である (接続)
人間だからとて
- 412 bayekai-an i ka
バイエカイ・アニ カ
旅する・我ら こと も
歩き回っているの
- 413 somo ne awa,
ソモ ネ アワ,
(否定) である (展開)
ではないから、
- 414 nekona
ネコナ
どのように
何と
- 415 an-esanniyo ko*13
アネサンニヨ コ
我・思案する (条件)
考えて
- 416 pirika kusu
ピリカ クス
良い (理由・目的)
いいのが
- 417 ene shirki i ta an?
エネ シリキ イ タ アン?
このように する こと (感嘆) ある
この現象なんだ?
- 418 Koninkar kusu!
コニンカラ クス!
さて (理由・目的)
申し上げます。
- 419 Hure echinke kamui
フレ エチンケ カムイ
赤い 亀 神
赤海亀の神
- 420 pase kamui
パセ カムイ
重い 神
位の高き神
- 421 inau kamui*14
イナウ カムイ
木幣 神
人間の幣を受け取る善き神よ。
- 422 somo a-ye yakka
ソモ ア・イエ ヤッカ
(否定) 我・言う (譲歩)
われらが話さなくても
- 423 konep ne yakka
コネプ ネ ヤッカ
何 である (譲歩)
何事でも
- 424 obitta
オビッタ
皆
すべて
- 425 e-eraman
エ・エラマン
汝・知る
おわかりになっている
- 426 nankoro yakka
ナンコロ ヤッカ
だろう しかし
でありましょうが
- 427 a-ye hawe taban na.
ア・イエ ハウエ タバン ナ.
我・言う 声 これ・ある ぞ
あえて申し上げます。
- 428 Aokai utar anakne
アオカイ ウタラ アナクネ
我 たち は
われらは

2.2 逃走神の弁明

*13 “Nekona/aesanniyo ko/pirkap ta an?” ari[『いか様に/考えさだめて/よからんか』と] (研645)

*14 inau uk kamui「<人間の幣を受ける 神> = 善神」(金 II 210) のことか

- 429 atui boknashiri
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界から
- 430 kira-an wa
キラ・アン ワ
逃げる・我 (接続)
逃げて
- 431 arki-an ruwe ne.
アラキ・アン ルウェ ネ.
来る・我 跡 である
来たのであります。
- 432 Atui boknashiri ari
アトウイ ボクナシリ アリ
海 冥府 (引用)
海の冥界と
- 433 itak-an yakka
イタク・アン ヤッカ
言う・我 (譲歩)
言っても
- 434 shine ir kamui batek
シネ イリ カムイ バテク
一つの 一連の 神 のみ
同じ一つの一族の神だけが
- 435 ekotankoro ushi
エコタンコロ ウシ
居住する ところ
そこに住んでいる所
- 436 somo ne.
ソモ ネ.
(否定) である
ではありません。
- 437 Pirika kamui hene
ピリカ カムイ ヘネ
良い 神 も
善神だの
- 438 wen kamui hene
ウエン カムイ ヘネ
悪い 神 も
悪神だの
- 439 shinubur kamui hene
シヌブル カムイ ヘネ
神威強い 神 も
まことに靈威の強い神だの
- 440 shiban kamui hene
シバン カムイ ヘネ
神威弱い 神 も
靈威の弱い神だの
- 441 usaine usaine
ウサイネ ウサイネ
(呼びかけ) (呼びかけ)
いろいろさまざまな
- 442 buri koro
ブリ コロ
行い 持つ
性癖のある
- 443 kamui utar
カムイ ウタラ
神 たち
神たちが
- 444 turanno
トゥランノ
ともに
いっしょに
- 445 uwekotankoro an wa,
ウウェコタンコロ アン ワ,
住み合う ある (接続)
暮らし合っていて、
- 446 tu makan shir wa
トゥ マカン シリ ワ
二つの 奥 所 から
昔から
- 447 re makan shiri wano
レ マカン シリ ワノ
三つの 奥 様子 から
今まで変わりなく
- 448 nepka
ネプカ
何か
何も
- 449 ashitoma p ka isam
アシトマ プ カ イサム
怖ろしい もの も 無い
恐れるものもない
- 450 nep a-eramubekamam be ka
ネプ ア・エラムベカマム ベ カ
何 我・苦勞する もの も
何の心配事も

赤海亀になる

- 451 isamno
イサムノ
無く
無く
- 452 shinnai kamui a-ne wa
シンナイ カムイ ア・ネ ワ
違った 神 我・である (接続)
異なる神族であるわれらも
- 453 iyorot-an wa
イヨロツ・アン ワ
仲間入りする・我 (接続)
皆に交じって
- 454 okai-an awa,
オカイ・アン アワ,
いる・我 (展開)
暮らしていたところ、
- 455 atui boknashiri
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界
- 456 moshiri noshke ta
モシリ ノシケ タ
国土 真中 (場所)
その世界のまん中で
- 457 tumunchi nitne
トゥムンチ ニツネ
戦争 悪い
戦いの魔神
- 458 ashtoma wen kamui
アシトマ ウェン カムイ
恐ろしい 悪い 神
恐ろしい悪神が
- 459 atui boknashiri
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界を
- 460 ebunkine*15 wa
エブンキネ ワ
守る (接続)
支配して
- 461 an ruwe ne.
アン ルウェ ネ.
ある 跡 である
いました。
- 462 Nep kamui hene
ネプ カムイ ヘネ
何 神 も
何神でも
- 463 nitne kamui hene
ニツネ カムイ ヘネ
悪い 神 も
魔神でも
- 464 atui boknashiri
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界の
- 465 esabane
エサバネ
支配する
王である
- 466 nitne kamui
ニツネ カムイ
悪い 神
魔神が
- 467 ewak chise orun
エワク チセ オルン
住む 家 (方向)
住まう家に
- 468 ahun eashkai be
アフン エアシカイ ベ
入る できる もの
入れる者は
- 469 shinen ka
シネン カ
一人 も
一人も

*15 e-punki-ne 「<そこに・奉行、守護、見張り・になる> (金 I 317)、そこに見張りをする (金 I 67) 参考: punki = punkio <見張り、監視する、見守ること、見守る人> もと邦語、蝦夷奉行、松前奉行の‘奉行’のアイヌ

語化 (金 I 67)、『見張り』『番兵』というが、本来は、蝦夷奉行、松前奉行が江戸時代の後半に置かれるようになってから、その bugyo がアイヌ語化して punkiyo となってアイヌに kyo という音がないので、punkiyo また punki とまでなつて存しているもの (金 I 19)」「【他動詞】<〜で・守護者・である>〜を守る、(国)を治める、〜の番をする、〜を看護する」(田 112)

- 470 **isam ruwe ne.**
イサム ルウェ ネ.
いない 跡 である
いないのです。
- 471 **Atui boknashiriumbe**
アトゥイ ボクナシリウムベ
海 冥府に住む人
海の冥界王が
- 472 **somo ka un**
ソモ カ ウン
(否定) 上 ある
まさか
- 473 **ainu moshiri un**
アイヌ モシリ ウン
人間 国土 (方向)
人間界に
- 474 **irara kuni**
イララ クニ
悪戯する ように
悪さをしようとは
- 475 **a-ramu rokwa,**
ア・ラム ロクワ,
我・思う (完了) + (接続)
思わなかったのに、
- 476 **tap nahun**
タップ ナフン
これ たった今
たった今
- 477 **arekushkonna**
アレクシコンナ
突然
だしぬけに
- 478 **atui boknashiri**
アトゥイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界に
- 479 **haushitaiki.**
ハウシタイキ.
騒ぎ声がつ
大騒ぎが起きました。
- 480 **Tambe kusu**
タムベ クス
これ (理由・目的)
それゆえ
- 481 **a-obittano**
ア・オビッタノ
我・すべて
われらすべてが
- 482 **hosarba-an**
ホサラバ・アン
振り返る・我ら
振り向いて
- 483 **inkar-an awa,**
インカラ・アン アワ,
見る・我 (展開)
見たところ、
- 484 **ainu moshiri un**
アイヌ モシリ ウン
人間 国土 (方向)
人間界に住む
- 485 **Ainurakkuru**
アイヌラックル
(文化神の名)
アイヌラックルの
- 486 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄と
- 487 **Huremaupo**^{*16}
フレマウポ
(伝説上の人名)
フレマウポ^{あかはげ}—赤禿の
- 488 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄が

p. 10

*16 porop anchiki/huikeneike/itak kusu
ruwe/oarar isam./Anakkikorka/sapa
mekkashike/huremaupo/homaritara/ieunu na
「大きな躰ながら(脚注: poro-p <大きい・
のに>、anchiki <なれども、なのに>)/
どこもかしこも/非を言うべき点/さらに無
い。/しかれども/頭のとんがりの上/赤禿が
(脚注: hure mau-po <赤い 浜梨・(指小辞)
>頭のはげのことをいう)/うっすり/くいこ
んでいて」(金 II 43[日高沙流・ヤイプニレ
所伝カムイオイナ])

赤海亀になる

- 489 bokna moshiri
ボクナ モシリ
下方の 国土
黄泉の国を
- 490 koatchorauki,
コアツチャウキ,
向かう
襲撃し、
- 491 atui boknashiri
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界に
- 492 a-bakrototo*¹⁷ kusu
ア・バクロトト クス
我・攻撃する (理由・目的)
火を放った。(?)
- 493 Shirikip*¹⁸ ka
シリキップ カ
不詳 も
わけも
- 494 a-uwerambetek*¹⁹ hine,
ア・ウエラムベテック ヒネ,
人々・わからない (接続)
わからないでいるうちに、
- 495 tane eashiri
タネ エアシリ
今 それこそ
今ようやく
- 496 wen kimak hau
ウエン キマク ハウ
悪い 驚く 声
驚きあわて騒ぐ声^が
- 497 utomshitaiki.
ウトムシタイキ.
かちあう
村のあちこちから聞こえて来ました。
- 498 Oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
どうやら
- 499 atui boknashiri
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界を
- 500 ebunkine
エブンキネ
守る
支配している
- 501 arwen kamui
アラウエン カムイ
ひどい 神
極悪の神
- 502 arwen bito
アラウエン ビト
ひどい 人
極悪のお人^が
- 503 atui boknashiri ta
アトウイ ボクナシリ タ
海 冥府 (場所)
海の冥界で
- 504 yaikotomka p
ヤイコトムカ プ
ふさわしい もの
自分にふさわしい女性を
- 505 hunara yakka
フナラ ヤッカ
探す (譲歩)
探しても
- 506 shinep ka isam.
シネプ カ イサム.
一つ も いない
一人も見つからない。
- 507 Tambe kusu
タムベ クス
これ (理由・目的)
そこで

*¹⁷ a-pak-rototo <我・火の爆ねる音・(反復形語尾)>。「= a-nui-e-shitaiki <我・焰・にて・撃つ>火のはねるように我わあわあさわぐ《平賀サダモ説》」(金 V 86) kotan pa wano/apakrototo/akotametaye, 「郷のしもから我攻めかけ/我刀を引く、」(金 IV 142) kotanpa wano/a-kotametaye/a-bakrototo/iki-an awa, 《萱野訳》「村の上端から斬りはじめて/めちゃめちゃに斬って行くと」(教 22-65)

*¹⁸ shiriki-p <そういう様をする・こと> (?)

*¹⁹ a-u-w-erambetek <人々、皆は・互いに・(挿入音)・~をわからない、~を知らない>

- 508 **ainu moshiri**
 アイヌ モシリ
 人間 国土
 人間界
- 509 **kanna moshiri**
 カンナ モシリ
 上 国土
 地上の世界を
- 510 **uwambare awa**
 ウワムバレ アワ
 見て調べる (展開)
 じいっと見調べたところ
- 511 **tuima kane**
 トウイマ カネ
 遠い (同時)
 遙かなる
- 512 **Ponchupkaunkuru**
 ポンチュプカウクル
 小東人
 小東村の人(ポンチュプカウクル)は
- 513 **yayirwaki koro**
 ヤイリワキ コロ
 兄弟がいない 持つ
 男兄弟は自分一人で
- 514 **shine turesh ne.**
 シネ トウレシ ネ.
 一つの 妹 である
 妹が一人いた。
- 515 **Nei menoko**
 ネイ メノコ
 その 女
 その女性
- 516 **tap eashiri**
 タプ エアシリ
 これ それこそ
 こそ
- 517 **yaikotomka.**
 ヤイコトムカ.
 ふさわしい
 自分にふさわしいと思った。
- 518 **Tambe kusu**
 タムベ クス
 これ (理由・目的)
 そこで
- 519 **shine anchikatta**
 シネ アンチカッタ
 一つの 夜に
 ある晩
- 520 **ainu moshiri**
 アイヌ モシリ
 人間 国土
 人間界に
- 521 **oshibusu wa**
 オシブス ワ
 現れ出る (接続)
 浮き上がって来て
- 522 **Ponchupkaummat**
 ポンチュプカウマツ
 小東の女人
 小東姫(ポンチュプカウマツ)を
- 523 **tekebashte**
 テケバシテ
 拐かす
 かどわかし
- 524 **eikka wa**
 エイクカ ワ
 盗む (接続)
 略奪して
- 525 **suyop oro**
 スヨプ オロ
 箱 所
 箱の中
- 526 **omare wa**
 オマレ ワ
 置く (接続)
 に入れて
- 527 **ewak ushike ta**
 エワク ウシケ タ
 住む ところ (場所)
 その住まいに
- 528 **wa an i ka**
 ワ アニ カ
 (接続) ある ことも
 隠して(?) いることも
- 529 **an-erambetek.**
 アネラムベテク.
 人々・知らない
 皆は知らなかった。

赤海亀になる

- 530 **Ponchupkaummat**
 ポンチュプカウマツ
 小東の女人
 小東姫が
- 531 **ooman moshiri**
 オオマン モシリ
 行く 国土
 さらわれて行った国
- 532 **ooman kotan**
 オオマン コタン
 行く 村
 拐かされて行った村も
- 533 **a-koturainu.**
 ア・コトゥライヌ.
 皆・共に見失う
 皆にはわからなかった。
- 534 **Nuburbe atte**
 ヌブルベ アツテ
 霊力の強い者 たたせる
 呪術者がたくさんいた
- 535 **kone p ne kusu**
 コネ プ ネ クス
 である 物 である (理由・目的)
 ものだから
- 536 **atui boknashiri wa**
 アトゥイ ボクナシリ ワ
 海 冥府 から
 海の冥界から
- 537 **a-ikka i**
 ア・イクカ イ
 人・盗む こと
 盗まれたことを
- 538 **ainu bito*²⁰ utar**
 アイヌ ビト ウタラ
 人間 人 たち
 長老たちは
- 539 **ramnukare.**
 ラムヌカレ.
 巫覡する
 巫術で見通した。
- 540 **Tap orowa**
 タプ オロワ
 これ (始点)
 しかし
- 541 **atui boknashiri un**
 アトゥイ ボクナシリ ウン
 海 冥府 (方向)
 海の冥界まで
- 542 **ikoahun wa**
 イコアフン ワ
 討ち入る (接続)
 討ち入って
- 543 **atui boknashiri**
 アトゥイ ボクナシリ
 海 冥府
 海の冥界を
- 544 **ebunkine**
 エブンキネ
 守る
 見張っている
- 545 **nitne kamui**
 ニツネ カムイ
 悪い 神
 極悪の神を
- 546 **raike orowa**
 ライケ オロワ
 殺す (始点)
 殺してから
- 547 **Ponchupkaummat**
 ポンチュプカウマツ
 小東の女人
 小東姫を
- 548 **uk wa hoshibi kuru**
 ウク ワ ホシビ クル
 取る (接続) 帰る 人
 取り戻して来るお方が
- 549 **a-erambetek. Aine**
 ア・エラムベテク. アイネ
 人々・知らない (接続)
 分からない。そこで

p. 11

*²⁰ **aynu-pito**「<人間の長者・邦語のひとつと似た語であるが、アイヌ語では殆ど神 **kamui** と同義語に用ゐられる> 神人と連ねる時のやうに人か神かとたゞへていふ語 (研 W318)、神の如き人 (研 W424、研 W450)、神のやうなる人 (研 W46)、この神人 (研 W515)

- 550 **tusu ari**
トウス アリ
霊能力 で
巫術や
- 551 **nuburu ari**
ヌブル アリ
霊力 で
霊力でもって
- 552 **Ainurakkuru**
アイヌラックル
(文化神の名)
アイヌラックルの
- 553 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄に
- 554 **tap eashiri**
タップ エアシリ
これ それこそ
こうしてようやく
- 555 **a-otuwashi kusu**
ア・オトゥワシ クス
頼りにされる (理由・目的)
白羽の矢が立てられ
- 556 **a-nishuk awa,**
ア・ニシュク アワ,
招かれる (展開)
人々が依頼したところ、
- 557 **ramuoshma wa**
ラムオシマ ワ
同意する (接続)
彼は承諾して、
- 558 **Huremaupo**^{*21}
フレマウポ
(伝説上の人名)
フレマウポ—赤禿の
- 559 **kamui rametok tura wa**
カムイ ラメトク トウラ ワ
神 勇者 ともに (接続)
神雄と連れ立って
- 560 **atui boknashiri**^{*22} **ta**
アトウイ ボクナシリ タ
海 冥府 (場所)
海の冥界に
- 561 **arki ruwe ne rok okai.**
アラキ ルウェ ネ ロク オカイ.
来る 跡 である (完了) ある
やって来たのであった。
- 562 **Batek ne yakka**
パテク ネ ヤッカ
のみ である (譲歩)
それだけでも
- 563 **ashtoma kusu**
アシトマ クス
恐ろしい (理由・目的)
大事件だから
- 564 **kamui ukohawash i yupke.**
カムイ ウコハワシ ユアケ.
神 皆で話すこと 強い
神々の議論が激しかった。
- 565 **Rabokita sui**
ラボキタ スイ
間に 再び
その間にまた
- 566 **ukuran**
ウクラン
昨晚
ゆうべ
- 567 **atui boknashiri**
アトウイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界の
- 568 **esabane**
エサバネ
支配する
王である
- 569 **arwen kamui**
アラウエン カムイ
ひどい 神
極悪の神が

*21 原綴 hure Huremaupo

*22 原綴 atuibokshiri

赤海亀になる

- 570 **ainu moshiri***23
 アイヌ モシリ
 人間 国土
 人間界に
- 571 **koshibusu wa**
 コシブス ワ
 出現する (接続)
 浮き出て行って
- 572 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチ
- 573 **Shinutapka ta**
 シヌタプカ タ
 (地名) (場所)
 シヌタプカの
- 574 **ponran kamui***24
 ポンラン カムイ
 幼少の 神
 若き神の
- 575 **ante machi**
 アンテ マチ
 あらしめる 妻
 連れ添う妻
- 576 **sokar machi**
 ソカラ マチ
 傍に仕える 妻
 かしづく妻を
- 577 **setatekbashte**
 セタテクバシテ
 盗みさる
 犬が物を盗んで逃げ走るみたいに
- 578 **ekarkar wa**
 エカラカラ ワ
 する (接続)
 かすめとって
- 579 **Ponchupkaummat**
 ポンチュエプカウムマツ
 小東の女人
 小東姫
- 580 **turanno**
 トウランノ
 とともに
 と一緒に
- 581 **okake ta**
 オカケ タ
 あと (場所)
 後で
- 582 **utushte wa kor**
 ウトウシテ ワ コロ
 相妻にする (接続) 持つ
 二人妻にしよう
- 583 **kuni ramu wa**
 クニ ラム ワ
 ように 思う (接続)
 と思つて
- 584 **tu menoko**
 トウ メノコ
 二つの 女
 二人の女性を
- 585 **suyop oro**
 スヨブ オロ
 箱 所
 箱の中に
- 586 **omare wa**
 オマレ ワ
 置く (接続)
 入れて
- 587 **an ruwe tap sui**
 アン ルウエ タブ スイ
 ある 跡 これ 再び
 いることもまた
- 588 **kamui utara**
 カムイ ウタラ
 神 たち
 神々は
- 589 **ramnukare.**
 ラムヌカレ.
 巫覡する
 見通した。

*23 原綴 ainu moshi

*24 ← ponram-kamuy <幼少の・神>。Inkar kusu/Shinutapka ta/ponram kamui 「いでや/シヌタプカなる/若き神よ。」(研 935)《萱野訳》「トミサベチ/大平原上の/子供の神(教 XIX 37、38)、トミサベチ/大平原上の/ボンラムの神(教 XIX 70)、トミサベチ/大平原上/ボンラ神」(教 XIX 6)

- 590 Tu makan shir wa
トゥ マカン シリ ワ
二つの 奥 所 から
昔から
- 591 re makan shiri wano
レ マカン シリ ワノ
三つの 奥 様子 から
今まで
- 592 buri yupke
ブリ ユプケ
行い 強い
気性の激しい
- 593 ainu bito ari
アイヌ ビト アリ
人間 人 (引用)
神のごとき人と
- 594 a-borose yakka
ア・ボロセ ヤッカ
よばれる (譲歩)
称されてはいても
- 595 burihi sama
ブリヒ サマ
その行い そば
その行状が
- 596 a-eanasap be
ア・エアナサフ ベ
人々・持てあます もの
持てあまされてもいる
- 597 kamui rametok
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄(ポイヤウンベ)が、
- 598 oikkeu sakno
オイッケウ サクノ
原因 無くて
理由もなく
- 599 omoto sakno
オモト サクノ
元 無くて
理不尽にも
- 600 neino ante machi
ネイノ アンテ マチ
ように あらしめる 妻
そのように連れ添う妻
- 601 sokar machi
ソカラ マチ
傍に仕える 妻
かしづく妻が
- 602 a-tekebashte i
ア・テケバシテ イ
人々・拐かす こと
略奪されたことを
- 603 eramam be
エラマム ベ
知る もの
知ったもの
- 604 ne koanakne
ネ コアナクネ
である (条件)
ならば
- 605 atui bokna moshiri
アトゥイ ボクナ モシリ
海 下方の 国土
海の冥界は
- 606 tanne yakka
タンネ ヤッカ
長い (譲歩)
長かれ
- 607 takne yakka
タクネ ヤッカ
短い (譲歩)
短かれ
- 608 oar oar ponno ka
オアラ オアラ ポンノ カ
全く 全く 少し も
まったく少しも
- 609 ramne p^{*25} sone.
ラムネ フ ソネ.
安泰である もの らしく
無事であるはずがない。
- 610 Tambe kusu
タムベ クス
これ (理由・目的)
それゆえに

*25 ramne「まるままの」(語法)「【自動詞】(こわれずに、いたまらずに)ちゃんとそのままである」(田556)《萱野訳》「こわれずに」(教XII 74)

赤海亀になる

- 611 **shinnai moshiri**
シンナイ モシリ
違った 国土
異なる国
- 612 **shinnai kotan**
シンナイ コタン
違った 村
異なる村
- 613 **eyayobebep***26
エヤヨベベパ
不詳
を名乗る (?)
- 614 **shinnai kamui**
シンナイ カムイ
違った 神
出自が異なる神で
- 615 **a-ne a koroka,**
ア・ネ ア コロカ,
我・である 完了 (逆接)
われらはあつたが、
- 616 **tan te wano**
タン テ ワノ
この これ から
これから
- 617 **ainu moshiri**
アイヌ モシリ
人間 国土
人間界
- 618 **a-kokira wa**
ア・コキラ ワ
我ら・に逃げる (接続)
に逃げて行って
- 619 **neitaka**
ネイタカ
どこにも
どこか
- 620 **kimun iwor**
キムン イウォロ
山の奥地 奥地
山奥の
- 621 **iworso ka ta hene**
イウォロソ カ タ ヘネ
奥地 上 (場所) も
狩り場にも
- 622 **nuinak-an yakne**
ヌイナク・アン ヤクネ
隠れる・我ら (条件)
隠れていたならば
- 623 **ishitoma sakno**
イシトマ サクノ
恐ろしい気がする 無くて
恐ろしいこともなく
- 624 **hotashnu sakno**
ホタシヌ サクノ
びくびくする 無くて
おびえることもなく
- 625 **yaibarooiki**
ヤイバロオイキ
自分を養う
糊口を
- 626 **eashkai-an ari**
エアシカイ・アン アリ
できる・我ら (引用)
しのげると
- 627 **yainu-an wakusu**
ヤイヌ・アン ワクス
考える・我 (接続)
思ったから
- 628 **a-aki a-tura wa**
ア・アキ ア・トゥラ ワ
我・弟 我・連れる (接続)
わが弟を連れて
- 629 **kira-an.**
キラ・アン.
逃げる・我
われは逃げ出した。
- 630 **Kimatek bayekai**
キマテク バイエカイ
慌てる 行き来する
あわてふためき

*26 不詳。eyayobebep ← e-yay-opeope-p <それについて・自身を・名乗る・者> (?) 《萱野訳》「別の村/別の国/で生まれた者 (分解訳: e-yay-opepe-p <そこで・自身・紹介・もの> (教 III 123), <それ・自身・たどる・もの> (教 IV 105), <それ・氏素性・もの> 氏素性の違う者 (教 XVI 152)」参考: 「opeope」細々と案内する、一々云つてきかず」(研 W355)「名乗ってきかず、名宣る。説明してきかせる」(久 188)

- 631 **terke bayekai**
 テレケ バイエカイ
 跳ねる 行き来する
 跳ぶように走って
- 632 **a-ki shiri ne awa,**
 ア・キ シリ ネ アワ,
 我・する 様子 である (展開)
 逃げているところに、
- 633 **koekarino**
 コエカリノ
 巡り合わせて
 ちょうどこの日に限って
- 634 **pase kamui**
 パセ カムイ
 重い 神
 重き神が
- 635 **shikunnukare**
 シクヌカレ
 出現する
 われらにご自分の姿を現
- 636 **e-i-y-ekarkar shiri**
 エ・イ・イエカラカラ シリ
 汝・我・する 様子
 されたこと
- 637 **ene okai tambe ne ya?**
 エネ オカイ タムベ ネ ヤ?
 このように ある これ である (疑問)
 なのでありませんか?
- 638 **Kamui ubashkuma**
 カムイ ウバシクマ
 神 言い伝え
 神々の故事来歴譚に
- 639 **ene okai i**
 エネ オカイ イ
 このように ある こと
 このようにあること
- 640 **kone p ne kusu**
 コネ プ ネ クス
 である 物 である (理由・目的)
 だから
- 641 **e-nomi-an**
 エ・ノミ・アン
 汝・祀る・我ら
 われらは貴方様を祀るために
- 642 **e-ramante-an**
 エ・ラマンテ・アン
 汝・獲る・我ら
 貴方様を捕らえ
- 643 **kusu ne.**
 クス ネ,
 (理由・目的) である
 ましょう。
- 644 **Kimatek bayekai**
 キマテク バイエカイ
 慌てる 行き来する
 逃避行
- 645 **bayekai tuika ta**
 バイエカイ トウイカ タ
 行き来する 上 (場所)
 の途中
- 646 **kone p ne kusu**
 コネ プ ネ クス
 である 物 である (理由・目的)
 であるから
- 647 **inau ari batek**
 イナウ アリ バテク
 木幣 で のみ
 木幣だけは
- 648 **e-nomi-an**
 エ・ノミ・アン
 汝・祀る・我ら
 捧げることが
- 649 **eashkai koroka,**
 エアシカイ コロカ,
 できる (逆接)
 できますが、
- 650 **oshiroma ushike**
 オシロマ ウシケ
 落ち着く ところ
 落ち着き先が
- 651 **naa a-erambetek kusu**
 ナア ア・エラムベテク クス
 まだ 人々・知らない (理由・目的)
 まだわかりませぬゆえ
- 652 **tonoto anakne**
 トノト アナクネ
 酒 は
 御神酒は

赤海亀になる

- 653 isam kusu ne na.”
 イサム クス ネ ナ.”
 無い (理由・目的) である ぞ
 ありませぬぞ」
- 654 Itak kane
 イタク カネ
 言う (同時)
 彼はそう言って
- 655 chirikibuni
 チリキブニ
 起き上がる
 立ち上がり
- 656 chip asam wa
 チブ アサム ワ
 舟 底 から
 船底から
- 657 rebaop etaye wa
 レバオプ エタイエ ワ
 銚 引っ張る から
 銚を引っ張り出して
- 658 shirokani kiteop
 シロカニ キテオプ
 白銀 銚
 銀色の銚先を
- 659 otu eotarare.
 オトゥ エオトラレ.
 二つの 突き刺す
 数回空中にしごいた。
- 660 Opsar kese
 オプサラ ケセ
 槍尾 末端
 銚の柄の末端に
- 661 kani itoat
 カニ イトアツ
 黄金 紐
 金色の糸紐
- 662 haitush ekotekar
 ハイトゥシ エコテカラ
 葶麻繊維の縄 結びつける
 イラクサ縄を結び、
- 663 otu babiror
 オトゥ バビロロ
 二つの 密かな呪文
 口の中で数々の呪文

- 664 ore babiror
 オレ バビロロ
 三つの 密かな呪文
 幾つもの呪文を
- 665 i-koturikar
 イ・コトゥリカラ
 我・延べる
 唱えてから
- 666 i-koopsuye.
 イ・コオプスイエ.
 我・槍を振る
 われに銚を撃った。

2.3 ポイヤウンベ、逃走神を殺す

- 667 Rauki mina
 ラウキ ミナ
 密かに 笑う
 腹の中でおかしがり
- 668 rauki sapse
 ラウキ サプセ
 密かに 笑う
 心の中でくすくす
- 669 an-uwesuye.
 アヌウエスイエ.
 我・思う
 われは笑った。
- 670 I-koopsura orun
 イ・コオプスラ オルン
 我・投擲する (方向)
 われ目指して投げられた
- 671 kani kite
 カニ キテ
 黄金 銚先
 金色の銚を
- 672 a-teksaikari,
 ア・テクサイカリ,
 我・つかむ
 しっかりと手でつかみ、
- 673 atui asam
 アトゥイ アサム
 海 底
 海底へ

- 674 a-korauoshma.
ア・コラウオシマ.
我・入る
われはパッと深く突進した。
- 675 Orowano
オロワノ
(始点)
さすれば
- 676 pon reba chip
ポン レバ チブ
小さい 沖の鯨 舟
小さな船も
- 677 atui tum beka
アトウイ トウム ベカ
海 中 で
海中を
- 678 an-ehoyubu.
アネホユブ.
我・走る
走る。
- 679 Tu okkaipo
トゥ オクカイポ
二つの 男の子
二人の若者は
- 680 homatba rui be
ホマツバ ルイ ベ
驚く 激しい もの
非常に驚いた
- 681 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
である もの である (理由・目的)
ものだから
- 682 hese hawe*27
ヘセ ハウエ
息をする 声
荒々しい息づかいの声
- 683 shinka hawe
シンカ ハウエ
雄叫び 声
おたけびの音が
- 684 utomshitaiki.
ウトムシタイキ.
かちあう
ぶつかり合う。
- 685 Orowano
オロワノ
(始点)
それから
- 686 kani haitush
カニ ハイトゥシ
黄金 蕁麻繊維の縄
金色のイラクサ縄を
- 687 tekkokarba
テクコカラバ
抱き寄せる
手に幾重にも巻きつけて
- 688 tush ani*28. Orowano
トゥシ アニ. オロワノ
縄 手に持つ (始点)
われは握った。そうして
- 689 atuiba un wa
アトウイバ ウン ワ
海の東端 (方向) から
海の東端から
- 690 atuiakesh un wa
アトウイケシ ウン ワ
海の西端 (方向) から
海の西端まで
- 691 a-ki hoyubu.
ア・キ ホユブ.
我・する 走る
われは走った。
- 692 An-ekisarsut
アネキサラスツ
我・耳元
わが耳元に
- 693 maukururu.
マウクルル.
風が渦巻く
風が巻き起こる。

p. 14

*27 shinka hawe の対句はふつう humse hawe <フ・という声を出す その声> である。Ar kamiashi hese hawe/shinka kawe/utomshitaiki. 《萱野訳》「化け物がだんだんと息づかいが荒くなって (分解訳:hese hawe <息声>/shinka hawe <息声>)」(教23-24)

*28 原綴 tusani

赤海亀になる

- 694 **Aine aine**
 アイネ アイネ
 (接続) (接続)
 そのうち
- 695 **a-turen kamui**
 ア・トゥレン カムイ
 我・憑く 神
 わが憑神も
- 696 **i-enkashike**
 イ・エンカシケ
 我・上
 頭上で
- 697 **ohumebushba,**
 オフメブシバ,
 音を立てる
 ゴウゴウと雷音を発し、
- 698 **tu shupne rera**
 トゥ シュアネ レラ
 二つの 渦になっている 風
 いくつもの竜巻
- 699 **re shupne rera**
 レ シュアネ レラ
 三つの 渦になっている 風
 たくさんの旋風が
- 700 **atuiso kurka**
 アトゥイソ クルカ
 海面 上
 海面に
- 701 **chiesurure.**
 チエスルレ.
 覆う
 渦巻き吹き降りる。
- 702 **Irukaitom ta**
 イルカイトム タ
 しばらくのうち (場所)
 たちまちのうちに
- 703 **bokna atui**
 ボクナ アトゥイ
 下方の 海
 海の底が
- 704 **chikannare**
 チカンナレ
 上の方になる
 海面まで持ち上げられ
- 705 **kanna atui**
 カンナ アトゥイ
 上 海
 海面は
- 706 **chiboknare.**
 チボクナレ.
 下の方になる
 海底まで低く沈む。
- 707 **Rupne kaibe**
 ルプネ カイベ
 大きい 白波
 大浪
- 708 **nokan kaibe**
 ノカン カイベ
 幼い 白波
 小波が
- 709 **ukaetososhke,**
 ウカエトソシケ,
 打ち碎ける
 重なり合って碎け散り、
- 710 **bokna moshiri**
 ボクナ モシリ
 下方の 国土
 黄泉の国も
- 711 **kanna moshiri**
 カンナ モシリ
 上 国土
 人間界も
- 712 **koturimimse.**
 コトゥリミムセ.
 響き渡る
 音を立てて揺れ動く。
- 713 **Kamui ne okai be**
 カムイ ネ オカイ ベ
 神 として ある もの
 神である若者たちは
- 714 **tane anakne**
 タネ アナクネ
 今 は
 とうとう
- 715 **shinki ekot.**
 シンキ エコツ.
 疲れる 死ぬ
 疲れきって死んだ。

- 716 **Atui boknashiri**
 アトゥイ ボクナシリ
 海 冥府
 海の冥界に
- 717 **chip turano**
 チブ トウラノ
 舟 一緒に
 船といっしょに
- 718 **an-ekirukara.**
 アネキルカラ.
 我・ひっくり返す
 われは沈めてやった。
- 719 **Kambe kurka**
 カムベ クルカ
 水面 上
 波の上に
- 720 **a-koshibusu**
 ア・コシブス
 我・に現れ出る
 われは浮きあがり
- 721 **an-an i nepkoro**
 アナニ ネパコロ
 いる・我 こと ように
 常住の場所であるかのように
- 722 **an-an kane.**
 アナン カネ.
 いる・我 (同時)
 波間に浮いていた。
- 723 **Okutchi urar**
 オクッチ ウララ
 たちこめる 霧
 濃いもや
- 724 **urar tumu**
 ウララ トウム
 霧 中
 もやの中に
- 725 **a-yayomare,**
 ア・ヤヨマレ,
 我・みずから入れる
 われは身を入れ、
- 726 **atuiso ka ta**
 アトゥイン カ タ
 海面 上 (場所)
 海面で
- 727 **chiashtushtekka-an**
 チアシトウシテッカ・アン
 立ちつくす・我
 じいっと動かず
- 728 **chiashrubushka-an kane.**
 チアシルブシカ・アン カネ.
 凍りつく・我 (同時)
 凍りついたように動かなかった。
- 729 **Neita an kotan**^{*29}
 ネイタ アン コタン
 どこに ある 村
 どこにある村
- 730 **neita an moshiri**
 ネイタ アン モシリ
 どこに ある 国土
 どこにある国を
- 731 **a-borse katu**
 ア・ボロセ カトゥ
 よばれる 様・
 指して名づけられたのが
- 732 **atui boknashiri ne wa,**
 アトゥイ ボクナシリ ネ ワ,
 海 冥府 である (接続)
 海の冥界なのか、
- 733 **atui boknashiri**
 アトゥイ ボクナシリ
 海 冥府
 海の冥界の
- 734 **esabane**
 エサバネ
 支配する
 王である
- 735 **tumunchi nitnei**
 トウムンチ ニツネイ
 戦争 魔神
 戦いの魔神^{*30}が
- 736 **Kimunnaiummat**
 キムンナイウムマツ
 (人名)
 山川姫

^{*29} 原綴 kota

^{*30} 殺戮者、殺人鬼

赤海亀になる

p. 15

- 737 **an-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻
- 738 **shisak nubur mat**
シサク ヌブル マツ
またとない 霊力 女
たぐいまれなる巫女を
- 739 **i-koeikka hawe**
イ・コエイクカ ハウエ
我・盗む 声
盗んでいったということ
- 740 **okai chiki**
オカイ チキ
ある (条件)
だから
- 741 **enewapoka**
エネワボカ
どうにも
もうどう
- 742 **iki-an i ka**
イキ・アニ カ
する・我 こと も
しようも
- 743 **isam kane.**
イサム カネ.
無い (同時)
ない。
- 744 **Uneno ainu**
ウネノ アイヌ
同じ 人間
自分と同じ人間が
- 745 **i-y-ekarkar i**
イ・イエカラカラ イ
我・する こと
そうしたの
- 746 **newa ne yakka**
ネワ ネ ヤッカ
であって である (譲歩)
であつても
- 747 **a-toineramu p,**
ア・トイネラム プ,
我・強く思う もの
忌々しいのに、
- 748 **koneptapteta!**
コネプタプタ!
何ということ
なんとまあ
- 749 **annitne kamui**
アンニツネ カムイ
極悪である 神
極悪の魔神が
- 750 **chikomateikka wa**
チコマテイクカ ワ
妻盗みする (接続)
自分の妻を盗んで来た
- 751 **hawash chiki,**
ハワシ チキ,
言われる (条件)
そうだから、
- 752 **eboso kusu**
エボソ クス
突き抜ける (理由・目的)
なるほど
- 753 **an-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻が
- 754 **hoshihi ruwe ka**
ホシビ ルウェ カ
帰る 跡 も
戻ってくるのも
- 755 **moire ruwe okai awa,**
モイレ ルウェ オカイ アワ,
遅い 跡 ある (展開)
遅くなるのであろうから、
- 756 **sone makan**
ソネ マカン
らしく どのように
ほんとにどんなにか
- 757 **an-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻が
- 758 **iyunin sakno**
イユニン サクノ
苦痛 無くて
苦しみも無く

- 759 or habunno
オロ ハブunno
所 静かに
無事に
- 760 an wa hetapne! ari
アン ワ ヘタツネ! アリ
ある (接続) これ (引用)
しているかと
- 761 a-yainu chiki,
ア・ヤイヌ チキ,
我・考える (条件)
思えば、
- 762 nisomap keutum
ニソマップ ケウトウム
心配する 心
気がかりで
- 763 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
ならない。

第3章

助っ人

3.1 レワレワツクル

- 764 **Rabokita sui**
 ラボキタ スイ
 間に 再び
 そのうちにまた
- 765 **arhorebashi**
 アラホレバシ
 沖から
 はるか沖から
- 766 **kanakatkor be** *1
 カナカッコロ ベ
 どんな姿の もの *****
 何者かが
- 767 **yan shir konna**
 ヤン シリ コンナ
 上陸する 様・は
 やって来る様子が
- 768 **ramamatki.**
 ラママッキ.
 ふらふらとする
 まっしぐら。
- 769 **Shirki chiki**
 シリキ チキ
 そうする (条件)
 それを見て
- 770 **tu nishte urar**
 トウ ニシテ ウララ
 二つの かたい 霧
 何重もの濃いもや
- 771 **re nishte urar**
 レ ニシテ ウララ
 三つの かたい 霧
 幾重もの濃いもやを
- 772 **a-shiokarire,**
 ア・シオカリレ,
 我・めぐらせる
 自分の回りに張り巡らし、
- 773 **tu rera mau ne**
 トウ レラ マウ ネ
 二つの 風 風 として
 風の気となって
- 774 **re rera mau ne**
 レ レラ マウ ネ
 三つの 風 風 として
 吹き上がり
- 775 **ouse nishkan**
 オウセ ニシカン
 ただ (だけ) 雲の上
 ひとむらの雲の上に
- 776 **an-oush oush.**
 アノウシ オウシ.
 我・座る 座る
 乗っかっていた。
- 777 **Iki-an rabokita**
 イキ・アン ラボキタ
 する・我 間に
 そうしている間に
- 778 **ine hemanta**
 イネ ヘマンタ
 (接続) どこ 何
 何者なのか

*1 原ノートにはここの行末にも **yan** があるが
 不要。

赤海亀になる

- 779 **atuiso kurka**
 アトウイソ クルカ
 海面 上
 海面を
- 780 **echararse**
 エチャララセ
 滑り落ちる
 走り滑る
- 781 **semkorachi arki p**
 セムコラチ アラキ プ
 まるで (する) ように 来る もの
 ようにやって来たものを
- 782 **a-nukar kusu,**
 ア・ヌカラ クス,
 我・見る (理由・目的)
 見ると、
- 783 **shine sattek ainu**
 シネ サツテク アイヌ
 一つの やせた 男
 一人の やせ細った男で
- 784 **iboro ka**
 イボロ カ
 顔色 上
 顔色も
- 785 **rerek kane.**
 レレク カネ.
 やつれる (同時)
 青く沈んでいる。
- 786 **Ki p ne koroka**
 キ プ ネ コロカ
 する もの である (逆接)
 そのようにしているが
- 787 **kani kosonte**
 カニ コソンテ
 黄金 小袖
 金糸銀糸で刺繍した小袖を
- 788 **arutomechui.**
 アルトメチウ.
 身にまとう
 襲ね着ている。
- 789 **Tumsak shiri ne ya**
 トウムサク シリ ネ ヤ
 元気がない 様子 である (疑問)
 弱っているのか
- 790 **taanun wa**
 タアヌン ワ
 こちら から
 あちらへ
- 791 **toonun wa**
 トオヌン ワ
 そちらへ から
 こちらへと
- 792 **eneyotneyot kane.**
 エネヨツネヨツ カネ.
 ふらつく (同時)
 ふらふらよるめいている。
- 793 **Orota hoshkino**
 オロタ ホシキノ
 そこで 先に
 そこで最初に
- 794 **ash-an a i ta**
 アシ・アン ア イ タ
 立つ・我 完了 こと (場所)
 われが立っていた所に
- 795 **shireba ko**
 シレバ コ
 到着する (条件)
 着くと
- 796 **ekeshne**
 エケシネ
 あちらこちら
 あちこち
- 797 **chihosarire kor*2,**
 チホサリレ コロ,
 振り返る (同時)
 振り返って見て、
- 798 **senne ka sui**
 センネ カ スイ
 (否定) も 再び
 まさかまた

*2 原 綴 **chihosarirekore. ekeshne/taanun wa/toonun wa/chihosarirean ko**, 「かなたこなたを (脚注: この一語は次の二語の註釈的な副詞であって、ない方がよいくらい)/こちらへ/そちらへ (脚注: **taan-i** <そこ>、**toon-i** <あそこ>に **un** <へ>のついた形で、早く言うとき **taan-un**、**toon-un** とひびく)/われふりかえると」 (金 II 80)

- 799 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
あんなに弱々しかった者が
- 800 tumashnu
トゥマシヌ
元気になる
そんなに力強く
- 801 niwen hau koro kuni
ニウェン ハウ コロ クニ
猛々しい 声 持つ ように
猛々しい声を出すとは
- 802 a-ramu rok i,
ア・ラム ロク イ,
我・思う (完了) こと
思わなかったのに、
- 803 tan arka itak
タン アラカ イタク
この 痛い 言葉
これなる荒々しい言葉を
- 804 ebarsere
エバラセレ
広げる
浴びせて
- 805 ene okai i:—
エネ オカイ イ:・・・
このように ある こと
こう言うには、
- 806 “Ponyaumbe
“ポンヤウムベ
小さな本土人
「ポイヤウンベが
- 807 tap i-kotbok ta
タップ イ・コツボク タ
これ 我・ちょっと前 (場所)
今われの直前に
- 808 teta ash wa an awa,
テタ アシ ワ アン アワ,
ここで 立つ (接続) ある (展開)
ここに立っていたはずなのに、
- 809 neun oman wa
ネウン オマン ワ
どこに 行く (接続)
どこに行って
- 810 taa shiran
タア シラン
ここに 有様である
これこのように
- 811 oha kochi an
オハ コチ アン
空の その跡 ある
奴が居た跡がある
- 812 ruwe ta an?
ルウェ タ アン?
跡 (感嘆) ある
んだ?
- 813 Taa naa
タア ナア
ここに まだ
ほらまだ
- 814 Ponyaumbe huraha
ポンヤウムベ フラハ
小さな本土人 の匂い
ポイヤウンベの匂い
- 815 ainu huraha
アイヌ フラハ
人間 の匂い
人間の匂いが
- 816 a-eramanno
ア・エラマンノ
我・分かっている
確かに
- humi an ko するのに、
- 817 neun oman wa
ネウン オマン ワ
どこに 行く (接続)
どこに行って
- 818 ene shiran i
エネ シラニ
このように 有様である こと
しまった
- 819 tambe ne ya?” ari
タムベ ネ ヤ?” アリ
これ である (疑問) (引用)
「というのか」と
- 820 hemanta ainu
ヘマンタ アイヌ
何 男
何者かは

赤海亀になる

- 821 **yaikoitak kane**
 ヤイコイタク カネ
 独り言を言う (同時)
 独り言を言って
- 822 **ekeshne**
 エケシネ
 あちらこちら
 あちこち
- 823 **chihosarire.**
 チホサリレ.
 振り返る
 振り向いて見ている。
- 824 **Inu ne wa**
 イヌ ネ ワ
 聞く である (接続)
 ただ聞いて
- 825 **a-ki p ne koroka**
 ア・キ プ ネ コロカ
 我・する 物 である (逆接)
 いただけなのに
- 826 **turush kinra ne**
 トウルシ キンラ ネ
 激しい 狂気 として
 凶暴な怒りが
- 827 **i-kohetari.**
 イ・コヘタリ.
 我・起きる
 われに湧き上がってきた。
- 828 **A-temka konna**
 ア・テムカ コンナ
 我・手元 は
 わが手元
- 829 **barkosanu,**
 バラコサヌ,
 光る
 ピカリと光り
- 830 **yupke tamkur**
 ユプケ タムクル
 強い 太刀影
 激しい太刀を
- 831 **a-koterkere.**
 ア・コテレケレ.
 我・とばす
 われ振りとはす。
- 832 **Iki-an awa**
 イキ・アン アワ
 する・我 (展開)
 そうしたところ、
- 833 **senne nak sui**
 センネ ナク スイ
 (否定) (?) 再び
 よもやまた
- 834 **ar kamiashi**
 アラ カミアシ
 全く 化物
 大化け物が
- 835 **katkoro kuni**
 カッコロ クニ
 振舞う ように
 そのように振る舞うとは
- 836 **a-ramu rok i,**
 ア・ラム ロク イ,
 我・思う (完了) こと
 思わなかったのに、
- 837 **a-yupke suye p**
 ア・ユプケ スイエ プ
 我・激しい 揺する 物
 わが激しくふるう
- 838 **tamkurboki**
 タムクルボキ
 太刀影の下
 太刀の下に
- 839 **koheboki,**
 コヘボキ,
 頭を下げる
 身をかがめ、
- 840 **beken rera ne**
 ベケン レラ ネ
 明るい 風 として
 ひとひらの軽風の如く
- 841 **i-bishkanike**
 イ・ビシカニケ
 我・周囲
 わが周りを
- 842 **echararse**
 エチャララセ
 滑り落ちる
 すべりぬけた

p. 17

- 843 yak a-ramu,
ヤク ア・ラム,
ということ 我・思う
と思ったとたん、
- 844 i-raukotabu
イ・ラウコタブ
我・つかむ
わが肩をつかみ
- 845 i-eshikari
イ・エシカリ
我・つかまえる
しっかりわれをおさえ
- 846 kamuiranketam
カムイランケタム
神授の刀
神授の太刀
- 847 turanno
トゥランノ
ともに
とともに
- 848 bitpo kishma*³
ビットポ キシマ
小石 抱える
小石づかみに
- 849 i-y-ekarkar.
イ・イエカラカラ.
我・する
われを捕まえた。
- 850 Kinra mau ne
キンラ マウ ネ
狂気 風 として
狂うばかりの怒りが
- 851 i-kohetari.
イ・コヘタリ.
我・起きる
さらに湧き上がる。
- 852 Montum kiror
モントウム キロロ
腕の力 力
腕いっぱい力
- 853 ikkeu kiror
イクケウ キロロ
元 力
渾身の力を
- 854 a-yaikosanke
ア・ヤイコサンケ
我・産む
自らしぼり出し
- 855 shimatu-an
シマトウ・アン
立ち上がる・我
われが立ち上がろう
- 856 kusu ne awa,
クス ネ アワ,
(理由・目的) として (展開)
としたら、
- 857 ponno poka
ボンノ ポカ
少し さえ
ほんの少しも
- 858 moimoike poka
モイモイケ ポカ
動く さえ
動くことさえ
- 859 an-eaikap.
アネアイカフ.
我・できない
できない。
- 860 Hese buira
ヘセ ブイラ
息をする 孔
気道も
- 861 an-i-koseshke.
アニ・コセシケ.
我・ふさがれる
塞がれ息も詰まる。
- 862 Orowano
オロワノ
(始点)
それから
- 863 ene yan shiri
エネ ヤン シリ
このように 上陸する 様子
さっきやって来た

*³ pit-po-kisma <簾や蓆を編む時に小石へ糸を縛って垂らしたものを彼方此方へおろして編んでゆく、その小石・(指小辞)・抑える、つかむ、つかまえる>ござ織りの重り石をつかむような掴みかた。

赤海亀になる

- 864 an a i korachi
アン ア イ コラチ
ある 完了 こと ように
と同じように
- 865 orhetopo
オロヘトポ
もと来た方へ
すぐ折り返し
- 866 arherebashi wa
アラヘレバシ ワ
沖へ から
はるか遠くの沖合へ
- 867 i-amba kane
イ・アムバ カネ
我・抱きかかえる (同時)
われを抱き抱えて
- 868 ek hum konna
エク フム コンナ
来る 音 こそ
行く音が
- 869 keurototke.
ケウロトツケ.
響く
轟々と響き渡る。
- 870 Ponnoka
ボンノカ
少しも
少しでも
- 871 moimoike-an
モイモイケ・アン
動く・我
われが動
- 872 kusu ne ko,
クス ネ コ,
(理由・目的) である (条件)
こうとすると、
- 873 neino
ネイノ
ように
おなじくらい
- 874 i-toikoyubu
イ・トイコユブ
我・きつく締める
われをぎっちり締り付け
- 875 enewapoka
エネワポカ
どうにも
どう
- 876 iki-an i ka
イキ・アニ カ
する・我 こと も
することも
- 877 oarar isam.
オアララ イサム.
全く 無い
まったくできない。
- 878 Tane bakno
タネ バクノ
今 まで
今までの
- 879 shukup tuika ta
シュクフ トウイカ タ
成長する 上 (場所)
半生には
- 880 tumkoro kuni p
トゥムコロ クニ プ
元気になる はずの もの
力持ちや
- 881 okirashnu kuni p
オキラシヌ クニ プ
力が強い はずの もの
大力の者に
- 882 boronno
ボロンノ
たくさん
たくさん
- 883 a-koekari p ne koroka,
ア・コエカリ プ ネ コロカ,
我・出会う もの である (逆接)
出会ったものだが、
- 884 tap korachi
タップ コラチ
これ ように
このように
- 885 rerek kane
レレク カネ
やつれる (同時)
青く沈んでいて

- 886 tumsak ibor
トウムサク イボロ
元気がない 顔色
弱々しい顔色
- 887 koro kane am be
コロ カネ アム ベ
持つ (同時) ある もの
をしている者の
- 888 kirorashnu humi
キロラシヌ フミ
力が強い 気配
力強いようすを
- 889 tanepo a-yaiamkire.
タネポ ア・ヤイアムキレ.
たった今 我・知る
たった今知らされた。
- 890 Shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚いて
- 891 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
しまった。
- 892 Ne kotan koro be
ネ コタン コロ ベ
どこ 村 持つ もの
どこの村の
- 893 ne moshiri koro be
ネ モシリ コロ ベ
どこ 国土 持つ もの
どこの国の者が
- 894 re turano
レ トウラノ
三つの 一緒に
今までの三者ともども
- 895 i-amkir kane,
イ・アムキリ カネ,
我・覚えがある (同時)
われを知っていて、
- 896 itak ne yakka
イタク ネ ヤッカ
言う である (譲歩)
言う言葉だけにしても
- 897 chiekosomo-
チエコソモ・
(否定)
おそれ
- 898 yaikatanu
ヤイカタヌ
畏れはばかる
はばかりもせず
- 899 i-y-ekarkar hawe
イ・イエカラカラ ハウエ
我・する 声
われに仕掛けた言動に
- 900 irushka keutum
イルシカ ケウトウム
怒る 心
怒りの気持ち
- 901 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・もつ
湧いてきた。
- 902 Kashikobakta
カシコバクタ
その上に
その上
- 903 neun tapne
ネウン タフネ
どこに これである
どこかへこのように
- 904 i-ekira*⁴ shiri okai
イ・エキラ シリ オカイ
我・拐かす 様子 ある
われを連れて行こうとするのは
- 905 ainu he okai
アイヌ ヘ オカイ
人間 (疑問) ある
人間なのか
- 906 nitne kamui he okai
ニツネ カムイ ヘ オカイ
悪い 神 (疑問) ある
魔神なのか
- 907 shino
シノ
まことに
まこと

*⁴ 原綴 Iekire

赤海亀になる

- 908 iyoyamokte-an kane.
イヨヤモクテ・アン カネ。
不思議に思う・我 (同時)
不思議でならない。

3.2 アイヌラックルとフレマウポ

- 909 Ek aine
エク アイネ
来る (接続)
行くうちに
- 910 rebunkuru atui
レブンクル アトゥイ
沖の人 海
沖人の海と
- 911 yaunkuru atui
ヤウンクル アトゥイ
内地人 海
陸人の海が
- 912 uweush i ta
ウウェウシ タ
隣接する ところ (場所)
接する潮目の所に
- 913 ek ko orowa
エク コ オロワ
来る (条件) (始点)
着くと、そこから
- 914 atui shimbui
アトゥイ シムブイ
海 泉
海の湧き水が出る穴に
- 915 ar enbuinano
アラ エンブイナノ
全く 頭を下にして
まっさかさまに
- 916 korauoshma.
コラウオシマ。
下方へ入る
ぐっと潜っていった。
- 917 Tasa buira
タサ ブイラ
返す 孔
向かってくる渦潮に

- 918 shitasare*⁵
シタサレ
自分に逆らって行かせる
逆らって
- 919 ahun hum konna
アフン フム コンナ
入る 音 は
潜っていく音が
- 920 koebururuse.*⁶
コエブルルセ。
不詳
ブクブクブク。(?)
- 921 Aine aine
アイネ アイネ
(接続) (接続)
そうやって潜って行くうちに
- 922 ine hunak ta
イネ フナク タ
どこ どこ (場所)
どこへかに

*⁵ Atui-rut-tum ta/tu ota-
pirpir/ashitasare/omanno cheprup/cheprup
pake/achoyupu. 「海の潮のたゞ中に/数多の
砂の渦巻を/われあとへ返しつゝ、(脚注：tasa
交叉す、tasare 交叉さす、shi-tasare <自身
に・交叉・さす>即ち交叉する、自身に返
さす、即ち、返す)/遅くゆく魚群/魚群のま
つさきを/我駆けたりけり (脚注：魚群の先
頭になつて駆ける)。」(研 W384)

*⁶ 不詳。ko-e-pur-pur-se <一緒に・そこで・ゴ
ゴボゴボ、ズプリという・音を出す> (?) 参
考：pur「ゴボッという音」(地 102)、プセ pur-
se「<擬声語根、ズプリ・という>【自動詞】
ずぶりとぬかる、(竿などが)ずぶりと入っ
ていく」(地 103)「puruse, プルセ, 噴水スル。
v.t. To blow out(as water). Purupuruse, プル
プルセ, 湧き出ル. v.i. To gush forth.(with a
sound) as water.」(B403)、purpur-ke「【自動
詞】<(擬音擬態の語根の重複)・(自動詞形
成語尾)>(泉の水が)ブクブク湧き出る」
(田 549)、rur mushishka/koeburburke/tuwan
ibakkar/rewan ibakkara/oshirotatpa.[海水に
むせて/ゴボゴボしながら(注：ko-e-burburke
<潮水・と共に・それで・ゴボゴボという
>)/たぐさんの悪口/いくつもの悪口/を吐き
散らす。] (教 34-173)

- 923 **chitursere.** *7
チトゥルセレ。
ポタッと落ちる *****
ストーンと着地した。
- 924 **Shikbone kusu***8
シクボネ クス
目である (理由・目的)
目だけは開いているから
- 925 **inkar-an ko,**
インカラ・アン コ,
見る・我 (条件)
わが目に入ってきたのは、
- 926 **senne ka sui**
センネ カ スイ
(否定) も 再び
まさかまた
- 927 **inkar-an kuni**
インカラ・アン クニ
見る・我 ように
そんなものを見ようとは
- 928 **a-ramu rok i,**
ア・ラム ロク イ,
我・思う (完了) こと
思わなかったのに、
- 929 **pirika moshiri**
ピリカ モシリ
良い 国土
美しい国
- 930 **moshiriso kurka**
モシリソ クルカ
国土の上 上
その国土の上は
- 931 **neita bakno**
ネイタ バクノ
どこに まで
どこまでも
- 932 **teshnatara.**
テシナタラ。
平らである
滑らかで平らである。
- 933 **Tan boro bet**
タン ボロ ベツ
この 大きい 川
この大河が
- 934 **san ruwe konna**
サン ルウェ コンナ
くだる 跡 は
流れ下るようすは
- 935 **komaknatara.**
コマクナタラ。
輝いている
キラキラと輝いている。
- 936 **Iyainumare!**
イヤイヌマレ!
驚いた
ああ驚いた!
- 937 **Konep chep**
コネプ チェプ
何 魚
何という魚
- 938 **ne nankor a?!**
ネ ナンコラ?!
である だろう か
なのであろうか。
- 939 **Tan boro bet**
タン ボロ ベツ
この 大きい 川
この大河

*7 **ci-turse-re** <自身を・ストーンと落と・させる
> = **turse.** **kash aba otta/a-po tonoke/boro**
bakkai/ehotukutu kane/chitursere. 《萱野訳》
「仮小屋の戸へ/私の息子/妹をおぶり/腰を曲
げて/入って来た (分解訳: **chi-turse-re** <そ
れ・落とす・さす>)。』(教 XVIII108)

*8 **sik-po-ne-kusu/inkar-an** <目・(指小辞・で
ある・から/見る・我は>。 **shikpo ne**
kusu/inkar-an ike 「見るともなしに/我が打
見るところ (脚注: 物を見る目だから、見る
ともなく、強いて見ようとして見たではな
いが、ふと見たら、の意)、『(研 73) **shikp ne**
kusu/inkar-an ko, 「見るとも無くおのづと/
我見しに、』(研 838) **Shikpo ne kusu/inkar-**
an shiri 「目だけあけ居れば/わが見しは (脚
注: 目だから見たら斯く斯くしてゐた。軀
は倒れて動けないけれど、目だけは開いて
あるから、それが目にはいつて見えたのは、
の意)』(研 W599) **shikpo ne kusu/homanno**
nepkoro/inkar-an ko 《萱野訳》「目だけは/か
すかに/見えるので/辺りの様子を/そっと見
ると』(教 VIII117)

赤海亀になる

p. 19

- 940 **kurkashike**
 クルカシケ
 上
 一帯は
- 941 **kani tum wa**
 カニ トウム ワ
 黄金 中 から
 黄金の中から
- 942 **a-busu apkoro**
 ア・ブス アブコロ
 人々・押し出す ように
 現れたかのような
- 943 **okai chep,**
 オカイ チェブ,
 ある 魚
 たくさんの魚、
- 944 **kanna rubihi**
 カンナ ルビヒ
 上 群れ
 上の方を泳ぐ魚群は
- 945 **shikush chire**
 シクシ チレ
 日差し 焼ける
 天日に焦げ
- 946 **bokna rubihi**
 ボクナ ルビヒ
 下方の 群れ
 下の方を泳ぐ魚群は
- 947 **ota shiru**
 オタ シル
 砂 こする
 川底の石にこすれる
- 948 **semkorachi.**
 セムコラチ.
 まるで (する) ように
 かにように充ち満ちていた。
- 949 **Chep ne kuni p**
 チェブ ネ クニ プ
 魚 である はずの もの
 それらの魚群が
- 950 **moyoike kane**
 モヨイケ カネ
 うごめく (同時)
 ウヨウヨうごめく
- 951 **kurkashike**
 クルカシケ
 上
 その上空一帯には
- 952 **hemanta chikap**
 ヘマンタ チカプ
 何 鳥
 名も知らぬ鳥の
- 953 **inne saye**
 インネ サイエ
 大勢である 群れ
 大群が輪を描いて
- 954 **euwenoshba**
 エウウエノシバ
 追いかける
 追いつ追われつ
- 955 **uhawepopo.**
 ウハウエポポ.
 ガヤガヤ騒ぐ
 ギャーギャー鳴き騒いでいる。
- 956 **Bet turashi**
 ベツ トウラシ
 川 沿って
 大河にそって
- 957 **tumunchi oka**
 トウムンチ オカ
 戦争 あと
 戦さの跡
- 958 **rorumbe oka**
 ロルムベ オカ
 戦闘 あと
 戦いの痕跡が
- 959 **chiteriteri.**
 チテリテリ.
 泥だらけになる
 ごちゃごちゃと続いていた。
- 960 **Sem shikbuye**
 セム シクブイエ
 土間 瞳
 その目つきに
- 961 **a-amkir kuni p**
 ア・アムキリ クニ プ
 我・覚えがある はずの もの
 見覚えがないこの者は

- 962 **ainu heokai?**
 アイヌ ヘオカイ?
 人間 なのか
 人間なのか
- 963 **nitne kamui heokai?**
 ニツネ カムイ ヘオカイ?
 悪い 神 なのか
 魔神なのか
- 964 **raichebihi**
 ライチェビヒ
 その死骸
 死骸が
- 965 **chibiratekka.**
 チビラテッカ.
 広がっている
 累々と並んでいる。
- 966 **Tanepo konna**
 タネポ コンナ
 たった今こそ
 今こそ
- 967 **a-ye rok okai**
 ア・イエ ロク オカイ
 言われる (完了) ある
 いわゆる
- 968 **atui boknashiri ta**
 アトウイ ボクナシリ タ
 海 冥府 (場所)
 海の冥界に
- 969 **i-tura-an**
 イ・トゥラ・アン
 我・伴う・人々
 連れてこられた
- 970 **ruwe ne i**
 ルウェ ネ イ
 跡 である こと
 のであることを
- 971 **an-eraman.**
 アネラマン.
 我・わかる
 われは知った。
- 972 **I-ani a kamiashi**
 イ・アニ ア カミアシ
 我・抱きかかえる 完了 化物
 われを抱えた化け物は
- 973 **bet hontomo**^{*9}
 ベツ ホントモ
 川 途中
 河の中流に
- 974 **kotuiikosanu.**
 コトウイコサヌ.
 消える
 スウッと下降した。
- 975 **Rabokita**
 ラボキタ
 間に
 その間に
- 976 **saure rametok**
 サウレ ラメトク
 軽輩の 勇者
 たいしたことがない勇士
- 977 **utaroroshmap**
 ウタロロシマフ
 仲間
 の手下
- 978 **ne wa ne yakne**
 ネ ワ ネ ヤクネ
 である (接続) である (条件)
 ならば
- 979 **kotom korokaiki,**
 コトム コロカイキ,
 ようである (逆接)
 いいのだが、そうではなく
- 980 **shino rametok**
 シノ ラメトク
 まことに 勇者
 まことに強い勇士の
- 981 **utaroroshmap**
 ウタロロシマフ
 仲間
 仲間
- 982 **kone p ne kusu**
 コネ プ ネ クス
 である もの である (理由・目的)
 だから
- 983 **tane eashiri**
 タネ エアシリ
 今 それこそ
 いまこそほんとうに

^{*9} 原綴 ontomo

赤海亀になる

- 984 **bet hontom un** p. 20
 ベツ ホントム ウン
 川 途中 (方向)
 河の流域に
- 985 **tu kamui rai hum**
 トウ カムイ ライ フム
 二つの 神 死ぬ 音
 たくさんの神が死ぬ音
- 986 **re kamui rai hum**
 レ カムイ ライ フム
 三つの 神 死ぬ 音
 いくつもの神が死ぬ音が
- 987 **arukesure.**
 アルケスレ.
 続く
 絶え間なく続いている。
- 988 **Nei tuisama ta**
 ネイ トUISAMA タ
 その 傍ら (場所)
 そのすぐそばに
- 989 **hemanta am be**
 ヘマンタ アム ベ
 何 ある もの
 その何やらわからぬ者が
- 990 **tan rik beka**
 タン リク ベカ
 この 高所 で
 高いところから
- 991 **i-eyapkiri.**
 イ・エヤヅキリ.
 我・投げる
 われを投げ落とした。
- 992 **Hachiri boka**
 ハチリ ボカ
 落ちる さえ
 転がってなんか
- 993 **a-ewenitara.**
 ア・エウエニタラ.
 我・できない
 いられない。
- 994 **Chahebita**
 チャヘビタ
 小枝が撥ね起きる
 抑えた小枝がぱつと撥ね返る
- 995 **a-shikobayar**
 ア・シコバヤラ
 我・見せかける
 さながらに跳ね起きて
- 996 **inkar-an ko,**
 インカラ・アン コ,
 見る・我 (条件)
 辺りを眺めれば、
- 997 **neita am be**
 ネイタ アム ベ
 どこに ある もの
 どこにいる者を
- 998 **koiki kuni p**
 コイキ クニ プ
 攻撃する はずの もの
 討とうとするのか
- 999 **kikir basushke**
 キキリ バスシケ
 虫 湧く
 虫がわき返って蠢く
- 1000 **ekannayukar.**
 エカンナユカラ.
 ようである
 さながらの大軍だ。
- 1001 **Num teksama**
 ヌム テクサマ
 集団 すぐそば
 軍団のすぐかたわらに
- 1002 **kanak okai be**
 カナク オカイ ベ
 誰 ある もの
 何者かの
- 1003 **heru tam kuri**
 ヘル タム クリ
 ただの 刀 影
 身体は見えずして刀だけが
- 1004 **chishikaibare.**
 チシカイバレ.
 ひらめく
 キラリキラリ動いて見える。
- 1005 **Urar tumu**
 ウララ トウム
 霧 中
 もやの中を

- 1006 **a-shikechari**
 ア・シケチャリ
 我・目で散らす
 わが眼力でもって
- 1007 **naani tu sui**
 ナアニ トゥ スイ
 まさに 二つの 回
 二度
- 1008 **naani re sui**
 ナアニ レ スイ
 まさに 三つの 回
 三度と散らし見ても
- 1009 **ainu kat ne**
 アイヌ カツ ネ
 人間 姿 として
 なかなか人の姿にして
- 1010 **a-kar eaikap aine**
 ア・カラ エアイカプ アイネ
 我・する できない (接続)
 見られなかったが
- 1011 **urar tum ta**
 ウララ トウム タ
 霧 中 (場所)
 もやの中には
- 1012 **iyainumare!**
 イヤイヌマレ!
 驚いた
 驚くべし、
- 1013 **a-ye rok okai**
 ア・イエ ロク オカイ
 言われる (完了) ある
 噂に聞いていた
- 1014 **Ainurakkuru**
 アイヌラックル
 (文化神の名)
 アイヌラックル
- 1015 **pon a-kor yubi**
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・もつ 兄
 わが小兄、
- 1016 **boro kuru hetapne**
 ボロ クル ヘタプネ
 大きい 人 これ
 もっと年上のように
- 1017 **a-ye kuni**
 ア・イエ クニ
 言われる ように
 人が言っていたと
- 1018 **a-ramu rokwa,**
 ア・ラム ロクワ,
 我・思う (完了) + (接続)
 思っていたのに、
- 1019 **tampa teta**
 タムパ テタ
 今年 ここで
 一才ほど
- 1020 **i-turkasuno***10
 イ・トゥルカスノ
 我・以上
 われより年上
- 1021 **chishikupka**
 チシクパカ
 成長する
 らしい
- 1022 **ponainu ponkuru,**
 ポナインヌ ポンクル,
 若い人 若い人
 年少の若者が、
- 1023 **kani kosonte**
 カニ コソソテ
 黄金 小袖
 金糸銀糸の刺繍衣を
- 1024 **nenaimine**
 ネナイミネ
 同じ様な衣裳
 中から外まで
- 1025 **arutomechiu.**
 アルトメチウ.
 身にまとう
 かさね着している。
- 1026 **Uwokkanikut**
 ウウオクカニクツ
 金のベルト
 金具つきの皮帯を
- 1027 **tumamkosaiba,***11
 トウムムコサイバ,
 胴に巻く
 胴に巻き、

*10 原綴 *ir kasu no*

赤海亀になる

- 1028 **kamuiranketam***12
カムイランケタム
神授の刀
神授の刀の
- 1029 **shirka kese**
シリカ ケセ
鞘 末端
鞘尻は
- 1030 **ouhui kane***13
オウフイ カネ
裾焦げる (同時)
こじりが焦げている
- 1031 **kamui nubeki**
カムイ スベキ
神 光
霊光が
- 1032 **konru tom ne**
コンル トム ネ
氷 色 として
氷色で
- 1033 **komaknatara.**
コマクナタラ.
輝いている
輝いていた。
- 1034 **Imi shirka ta**
イミ シリカ タ
着物 鞘 (場所)
着衣のおもてには
- 1035 **ouhui nikap attush***14
オウフイ ニカプ アットウシ
裾焦げる ハルニレ 厚司
裾の焦げた春楡の厚司を
- 1036 **imikanere,**
イミカネレ,
上に着る
上着に着成し、
- 1037 **kurkashike**
クルカシケ
上
その上一帯に
- 1038 **tu kamui chupki**
トゥ カムイ チュプキ
二つの 神 光
たくさんの霊光
- 1039 **re kamui chupki**
レ カムイ チュプキ
三つの 神 光
いくつもの霊光が
- 1040 **eshimaka.**
エシマカ.
輝く
ピカピカ放射していた。
- 1041 **Kani pon kasa**
カニ ボン カサ
黄金 小さい 笠
金の兜
- 1042 **kasa rantubep**
カサ ラントゥベプ
笠 垂れた紐
兜の緒を
- 1043 **yaikoyubu**
ヤイコユブ
締める
きつく締め

*11 原綴 tumkosaiba

*12 原綴 kamuranketam

*13 アイヌラックルの服装に関する描写には、**ouhui shirka/eun ibetam/shirka tanne/teshpa kane/konru tomne/ratki kane**、「こじりの焦げた鞘/それへ差してある霊刀が/鞘長に/そりを打たせて/氷の色をなして/下がって居り、」(金 I 285) というものもある。

*14 **o-uhuy-nikap-attus**「<尻、裾・火が燃える・楡の皮・厚司>裾から火焰が燃え上がる。楡の厚司は一説に、裾の焦げた厚司とも。**o-uhui shirka**(鞘尻に焔の燃え立つ刀鞘、或いは鞘尻の焦げた鞘)とともに、アイヌラックル特有の服装として、常套的に叙べられ

る。蓋し、春楡 **chikisani** 媛を母として生まれ出たと伝えられるアイヌラックルの出自を示す特徴であるとともに、火を天上からもたらしたとか、初めて火を鑽り出して、人間に火の使用を知らせたなどと伝えられる文化神アイヌラックル(アエオイナカムイ)の性格を示すものであろう。知里真志保氏は、この扮装に対して、アイヌラックル(オキクルミ)を巫者のする見地から、説を立てていられる」(聖 66)。金田一はこれを「オイナカムイ独特の着衣」とし、裾の焦げた赤織の厚司とか裾の燃える春楡の厚司と訳している。萱野訳は「裾の所に炎が燃え立つアットウシ」(教 24-16)

p. 21

- 1044 **kasa kepsam ta**
 カサ ケプサム タ
 笠 端 (場所)
 兜の縁から
- 1045 **kamui sannanu**
 カムイ サンナヌ
 神 顔
 高貴なお顔が
- 1046 **hetuku chup ne**
 ヘトゥク チュプ ネ
 頭を出す 日 として
 射し昇る太陽のように
- 1047 **i-nantasare.**
 イ・ナンタサレ.
 我・返す
 われに照り返す。
- 1048 **Rekmamatu**
 レクママトウ
 あごひげ
 あごひげは
- 1049 **chiearhaitare.**
 チエアラハイタレ.
 全く負わない
 まだ充分生え揃ってはいない。
- 1050 **Rametok sone**
 ラメトク ソネ
 勇者 らしく
 勇者にちがいがなく
- 1051 **rametok iboro**
 ラメトク イボロ
 勇者 顔色
 勇者の顔つき
- 1052 **eibottumu**
 エイボットウム
 顔色
 でその顔色は
- 1053 **koniunatara.**
 コニウナタラ.
 こわばらせている
 いかにも強そうだ。
- 1054 **Tamani ne kuni p**
 タamani ネ クニ プ
 斬り合い である はずの もの
 戦いなるものの
- 1055 **kokurka konna**
 コクルカ コンナ
 上 こそ
 その真上に
- 1056 **charke*15 kane.**
 チャラケ カネ.
 散らばる (同時)
 散らばって行く。
- 1057 **Tuisama ta**
 トウイサマ タ
 傍ら (場所)
 そのすぐそばで
- 1058 **tumikoro kuni p**
 トウミコロ クニ プ
 戦う はずの もの
 戦っているものを
- 1059 **a-kourarchari**
 ア・コウララチャリ
 我・霧を散らす
 われが眼力で散らし
- 1060 **inkar-an ko,**
 インカラ・アン コ,
 見る・我 (条件)
 見ると、
- 1061 **a-ye manu**
 ア・イエ マヌ
 言われる という
 人がいう
- 1062 **Huremaupo**
 フレマウポ
 (伝説上の人名)
 フレマウポ—赤禿の
- 1063 **kamui rametok**
 カムイ ラメトク
 神 勇者
 神雄

*15 charke 「【自動詞】散る, syn.patke. 《B》charge, v.t. and adj. to be scattered. syn. apatu. (研 W498)、散らかる (金 I 200)」「散らばる。鈴などがチャラッと鳴る」(語法)類似的の文例に、tane eashiri/tumi ne kunip/kokurka konna/charke kane. 「いまこそ/戦いなるものの/その真上に (脚注: ko-kurka konna <その真上 (助詞) >)/散らかった。」(金 I 200)がある。

赤海亀になる

- 1064 **huihuinawano**
 フイフイナワノ
 隅々まで
 どこからどこまで
- 1065 **a-reka kashba**
 ア・レカ カシバ
 我・ほめる 甚だしい
 あまりにも素晴らしい
- 1066 **kamui shiri ne**
 カムイ シリ ネ
 神 様子 である
 神のような姿で
- 1067 **okai be**
 オカイ ベ
 ある もの
 ある者が
- 1068 **arikorachi**
 アリコラチ
 同じように
 同じように
- 1069 **tumi ne kuni p**
 トウミ ネ クニ プ
 戦い である はずの もの
 戦いなるものの
- 1070 **kokurka konna**
 コクルカ コンナ
 上 こそ
 その真上に
- 1071 **charke kane.**
 チャラケ カネ.
 散らばる (同時)
 散らばって行く。
- 1072 **I-ani wa ek a**
 イ・アニ ワ エク ア
 我・抱きかかえる (接続) 来る 完了
 われを抱えて来た
- 1073 **hemanta ainu**
 ヘマンタ アイヌ
 何 男
 何者かわからぬ男も
- 1074 **taanun wa**
 タアヌン ワ
 こちら から
 こちらから
- 1075 **toonun wa**
 トオヌン ワ
 そちらへ から
 あちらへと
- 1076 **eneyot kane**
 エネヨツ カネ
 不詳 (同時)
 ふらつきながら
- 1077 **rewan*16 kane**
 レワン カネ
 不詳 (同時)
 (?)
- 1078 **tumi ne kuni p**
 トウミ ネ クニ プ
 戦い である はずの もの
 戦いなるものの
- 1079 **kokurka konna**
 コクルカ コンナ
 上 こそ
 その真上に
- 1080 **charke kane.**
 チャラケ カネ.
 散らばる (同時)
 散らばって行く。
- 1081 **Pon a-kor yubi**
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・もつ 兄
 アイヌラックルの小兄は
- 1082 **i-koshikraiba,**
 イ・コシクライバ,
 我・見る
 われに目をとめた。
- 1083 **tu urar ikkeu**
 トウ ウララ イクケウ
 二つの 霧 元
 何重ものもやの元
- 1084 **re urar ikkeu**
 レ ウララ イクケウ
 三つの 霧 元
 幾重ものもやの中心を
- 1085 **i-kocharikar.**
 イ・コチャリカラ.
 我・払う
 かき散らした。

*16 不詳。

- 1086 **Hushkotoiwano**
フシコトイワノ
以前から
長い間
- 1087 **iki aine,**
イキ アイネ,
する (接続)
そうやっていたあげく、
- 1088 **ene an kamui**
エネ アン カムイ
このように ある 神
これほどの神
- 1089 **ene an bito**
エネ アン ビト
このように ある 人
これほどのお方が
- 1090 **konep kamuye**
コネプ カムイエ
何 神
何神を
- 1091 **konep bitoho**
コネプ ビトホ
何 人
何びとを
- 1092 **koshikraiba p,**
コシクライバ プ,
目撃する もの
目撃したというのか、
- 1093 **kaniboro ka ta**
カニボロ カ タ
顔色 も (場所)
顔色が
- 1094 **raikosamba.**
ライコサムバ.
青ざめる
さっと青ざめた。
- 1095 **i-tukaripo**
イ・トゥカリポ
我・手前
わがひとつ手前に
- 1096 **koshikerana-**
コシケラナ・
目を低く
目を伏せ
- 1097 **atte kane,**
アツテ カネ,
たたせる (同時)
て、
- 1098 **terke tuika ta**
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 (場所)
跳び回る最中に
- 1099 **wenno wenno**
ウエンノ ウエンノ
悪く 悪く
略式の
- 1100 **i-erankarap.**
イ・エランカラプ.
我・挨拶する
会釈をわれに交わす。
- 1101 **Kurkashike**
クルカシケ
上
その上で
- 1102 **itak ne manu p**
イタク ネ マヌ プ
言葉 である という もの
言葉なるものの
- 1103 **ehautum konna**
エハウトゥム コンナ
声 は
^{こわね}
声音が
- 1104 **tununitara**
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響いて
- 1105 **ene okai i:—**
エネ オカイ イ:・・・
このように ある こと
こうあるには、
- 1106 **“Konepkeukata!**
“コネプケウカタ!
何ということか
「あああわれな!
- 1107 **konepkashita!**
コネプカシタ!
何としたことか
おおかわいそうに!

赤海亀になる

- 1108 **Hushkotoiwano**
フシコトイワノ
以前から
長い間
- 1109 **pon ram orwano**
ボン ラム オロワノ
小さい 低い (始点)
まだ幼い頃から
- 1110 **a-ak tonoke**
ア・アク トノケ
我・弟 殿
わが弟殿
- 1111 **moshiri koro kamui**
モシリ コロ カムイ
国土 持つ 神
国を司る神は
- 1112 **tu rur ekari**
トゥ ルル エカリ
二つの 海 回る
方々の海をまわり
- 1113 **re rur ekari**
レ ルル エカリ
三つの 海 回る
あちこちの海を越えて
- 1114 **tumunchi batek**
トゥムンチ バテク
戦争 のみ
戦さばかり
- 1115 **rorumbe batek**
ロルムベ バテク
戦闘 のみ
戦いばかりの
- 1116 **eritne shikup**
エリツネ シクプ
つらい 成長する
つらく厳しい日々を
- 1117 **e-ki hawean. Yakka**
エ・キ ハウエアン. ヤッカ
汝・する 言う しかし
送ったそうだ。しかし
- 1118 **hemanta tapne**
ヘマンタ タプネ
何 これである
何かと

- 1119 **a-tekeiyokok***17
ア・テケイヨコク
我・足手まとい
わが手かせとなる邪魔や
- 1120 **monkoan batek**
モンコアン バテク
忙しい のみ
忙しさばかりに
- 1121 **a-ki aine**
ア・キ アイネ
我・する (接続)
かまけていて
- 1122 **chikoipirikare***18
チコイピリカレ
よくなること
汝の苦境を好転

*17 原綴 Atekeiyok。teke-i-y-ok-ok <その手・それに、物に・(挿入音)・ひっかかる・(重複)>。「盗スル。v.i. To commit a theft.」(B495) inan hempara/nep aehomatup/an yakka/tekeiyokok/koisamno「いつなるとき/何災難が/降って湧いても/手足まといのもの/ないように」(金 III 47) neun tapne/rutek ne shiri/tekeiyokok sakno/okai yakka/ashtomap tapne/tumi ne awa/rorunbe ne awa, [どんなにまあ/何も持たずに/足手まといになるものなしに/いても/まあ恐ろしいものが/戦さであり/戦いであったのに、] (教 II 53) shinen-nebo a-ne wa/tekeiyokok/sakno neyakne/tan te wano/kamui moshiri un/oman-an eashkai koroka,《萱野訳》「一人だけで/足手まといが/無いでなら/今から/神の国へ/帰れるが」(教 III 106)

*18 ci-ko-i-pirka-re <(名詞句をつくる接頭辞、~のこと・~に対して・人を・よくなら・せる)>。tumunchi hene/senne saure/e-koash yakka,/chikoipirikare/e-ekarkar-an./shinen ka/kashi chiopash/e-ekarkar ka/somoki kusu/nekon tapne/e-irushka humi/okai ya? yakka《萱野訳》「戦争に/明け暮れて/いたけれど/誰一人として/助けには/行かなかった。/そのことで/きつときつと/怒っていたと/思うけれど」(教 XVI 127) chikoibirkare/a-ki kusu/tumunchi kurka/koikaobash/somo a-ki i/rushka kusu/shine itak boka/chikonishku wa/i-y-ekarkar/ruwe heokai?[その状況を好転/する

- 1123 e-ekarkar-an kusu
エ・エカラカラ・アン クス
汝・する・我 (理由・目的)
させるために
- 1124 arshino poka
アラシノ ポカ
一度 さえ
一度たりとも
- 1125 kashichiobash
カシチオバシ
救援すること
救援に
- 1126 e-ekarkar-an ka
エ・エカラカラ・アン カ
汝・する・我 も
駆けつけも
- 1127 somoki aine
ソモキ アイネ
しない (接続)
しないうちに
- 1128 tumi suikere
トゥミ スイケレ
戦い 終わる
戦さが終わり
- 1129 wembe suikere
ウエムベ スイケレ
悪いもの 終わる
戦争が終結
- 1130 e-ki wa
エ・キ ワ
汝・する (接続)
して
- 1131 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ
- 1132 Shinutapkaishi
シヌタブカシ
シヌタブカ
シヌタブカに
- 1133 e-kohekomo i hene
エ・コヘコモ イ ヘネ
汝・に戻る こと も
汝が戻ったことだのを
- 1134 a-nu kusu,
ア・ヌ クス,
我・聞く (理由・目的)
われは聞いたから、
- 1135 hembara ka
ヘムバラ カ
いつ も
いつか
- 1136 chikoshinewe
チコシネウエ
訪問
訪問
- 1137 e-ekarkar-an kuni
エ・エカラカラ・アン クニ
汝・する・我 ように
しようと
- 1138 a-ramu awa,
ア・ラム アワ,
我・思う (展開)
考えていたら、
- 1139 rabokita
ラボキタ
間に
そうしている間に
- 1140 shinnai shinnai
シンナイ シンナイ
違った 違った
別々に
- 1141 kotan koro kuni p
コタン コロ クニ プ
村 持つ はずの もの
村を支配するはずのもの
- 1142 moshiri koro kuni p
モシリ コロ クニ プ
国土 持つ はずの もの
国を支配すべきものが
- 1143 kamui hene
カムイ ヘネ
神 も
神々や

よう(?)/戦場/に我が助けに駆けつけ/なかつたことを/怒って/一言も/口をきいて(?)/くれない(?)/のかな?] (教 32-250)

赤海亀になる

p. 23

- 1144 nitne kamui
ニツネ カムイ
悪い 神
魔神
- 1145 hene ne awa,
ヘネ ネ アワ,
も である (展開)
であったのだが、
- 1146 arwen kamui
アラウエン カムイ
ひどい 神
極悪の神
- 1147 arwen bito
アラウエン ビト
ひどい 人
極悪のお人が
- 1148 irara.
イララ.
悪戯する
手を出した。
- 1149 Tambe kusu
タムベ クス
これ (理由・目的)
それゆえ
- 1150 i-nishuk-an ko,^{*19}
イ・ニシュク・アン コ,
我・招かれる (条件)
人々から依頼されて、
- 1151 ainu moshiri ta
アイヌ モシリ タ
人間 国土 (場所)
人間界に
- 1152 a-erannak be
ア・エランナク ベ
我・心配する もの
心配事や
- 1153 hokamba p an ko
ホカムバ プ アン コ
難しい もの ある (条件)
難しいことがあったら
- 1154 somo a-ekottanu ka
ソモ ア・エコッタヌ カ
(否定) 我・関わる も
知らん顔も
- 1155 eaikap kusu
エアイカプ クス
できない (理由・目的)
できないから
- 1156 a-ramuoshma wa.
ア・ラムオシマ ワ.
我・同意する (接続)
われは引き受けた。
- 1157 Huremaupo
フレマウポ
(伝説上の人名)
フレマウポ—赤禿の
- 1158 kamui rametok
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄を
- 1159 a-shiren wa
ア・シレン ワ
我・誘う (接続)
誘って
- 1160 taban atui boknashiri ta
タバン アトゥイ ボクナシリ タ
これ・ある 海 冥府 (場所)
これなる海の冥界に
- 1161 arki-an wa
アラキ・アン ワ
来る・我 (接続)
やって来て
- 1162 inkar-an awa,
インカラ・アン アワ,
見る・我 (展開)
見たら、
- 1163 kotan noshki eash
コタン ノシキ エアシ
村 真中 で立つ
村のまん中に立つ
- 1164 shuma chise
シュマ チセ
石 家
岩屋
- 1165 shuma chashi
シュマ チャシ
石 チャシ
岩の柵

*19 原綴 Inushuk anko

- 1166 buta un chise,
 ブタ ウン チセ,
 蓋 ある 家
 蓋つきの館、
- 1167 burai ka sak
 ブライ カ サク
 窓 も 欠く
 窓もなく
- 1168 aba ka sak chise.
 アバ カ サク チセ.
 簾戸 も 欠く 家
 戸もない館。
- 1169 Kamui hene
 カムイ ヘネ
 神 も
 神でも
- 1170 nitne kamui hene
 ニツネ カムイ ヘネ
 悪い 神 も
 魔神でも
- 1171 ainu hene
 アイヌ ヘネ
 人間 も
 人間でも
- 1172 orun ahun
 オルン アフン
 (方向) 入る
 そこに入ることが
- 1173 eashkai be
 エアシカイ ベ
 できる もの
 できた者は
- 1174 shinen ka isam.
 シネン カ イサム.
 一人 も いない
 一人もいない。
- 1175 Taban tumunchi
 タバン トウムンチ
 これ・ある 戦争
 これなる戦さなら
- 1176 tanne hene
 タンネ ヘネ
 長い も
 長くても
- 1177 takne yakka
 タクネ ヤクカ
 短い (譲歩)
 短くても
- 1178 buinepo
 ブイネポ
 ひとりぼっち
 たった一人で
- 1179 a-tuiba
 ア・トゥイバ
 我・切る
 われが斬り
- 1180 a-ronnu
 ア・ロンヌ
 我・殺す
 われが殺すことは
- 1181 eashkai koroka,
 エアシカイ コロカ,
 できる (逆接)
 できるが、
- 1182 atui bokna moshiri
 アトゥイ ボクナ モシリ
 海 下方の 国土
 海の冥界の
- 1183 moshiri noshke ta
 モシリ ノシケ タ
 国土 真中 (場所)
 国土のまん中に
- 1184 Ponchupkaummat*²⁰
 ポンチュエアカウムマツ
 小東の女人
 小東姫と
- 1185 Kimunnaiummat
 キムンナイウムマツ
 (人名)
 山川姫
- 1186 e-ante machihi
 エ・アンテ マチヒ
 汝・添う その妻
 汝の連れ添う妻
- 1187 e-sokar machi
 エ・ソカラ マチ
 汝・傍に仕える 妻
 汝のかしづく妻を

*²⁰ 原綴 chupkaummat のみ

赤海亀になる

- 1188 nuina wa an.
ヌイナ ワ アン.
隠す (接続) ある
隠している。
- 1189 Sabanekuru orun
サバネクル オルン
頭領 (方向)
海の冥界王の館に
- 1190 ikoahun anakne
イコアフン アナクネ
討ち入る は
討ち入ったならば
- 1191 oar a-eyayapte kuni
オアラ ア・エヤヤプテ クニ
全く 我・尻込みする ように
われはかなわないと
- 1192 a-ramu.
ア・ラム.
我・思う
思う。
- 1193 Eani moshma
エアニ モシマ
汝 ほか
お主以外に
- 1194 ikoahun otta
イコアフン オッタ
討ち入る (場所)
討ち入りを
- 1195 an-otuwashi p
アノトゥワシ プ
我・頼りに出来る もの
確信もって頼める者は
- 1196 shinen ka isam.
シネン カ イサム.
一人 も いない
一人もいない。
- 1197 Tambe kusu
タムベ クス
これ (理由・目的)
しかしながら
- 1198 ene nisap
エネ ニサプ
このように 急に
このような緊急時に
- 1199 e-tak-an i ka
エ・タク・アニ カ
汝・招く・我 こと も
汝を呼ぶ方法も
- 1200 an-erambetek.
アネラムベテク.
人々・知らない
われは知らなかった。
- 1201 Tambe kusu
タムベ クス
これ (理由・目的)
それゆえ
- 1202 kimatek otta
キマテク オッタ
慌てる (場所)
大いそぎで
- 1203 yaiwenukar otta
ヤイウエヌカラ オッタ
困る (場所)
せっぱ詰まって
- 1204 hoshki ruino
ホシキ ルイノ
先に 甚だしく
まず先に
- 1205 a-kohosari p
ア・コホサリ プ
我・顔を向ける もの
誰でも振り向く者
- 1206 chitekekarkuru
チテケカラクル
手製の神
われらが手で造るお方
- 1207 rewarewakkuru*21
レワレワククル
草人形
シナシナたわむ^{くさひとかた}草人形は

p. 24

*21 rewe-a-rewe-a-k-kur <曲げる、しなう、たわむ・(～a～a)・(挿入音)・人、お方> (?)
「rewarewak-kuru 身体ガ細クシナシナシタ人、タワタワシタ人 = Imoshi kamui = mun-chishinap」(久 225) 『ユーカラ集 IX』は日高・沙流の鍋沢ワカルバ所伝、金田一京助筆録・訳注であるが、久保寺逸彦はその解題で「題名 Kina chishinap Mun chishinap(草人形・くさひとかた)は、kina chi-shina-p <

- 1208 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神の勇士
- 1209 **ne wa kusu,**
ネ ワ クス,
である (接続) (理由・目的)
であったから、
- 1210 **terke tuika ta**
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 (場所)
跳びながら
- 1211 **a-kar wa**
ア・カラ ワ
我・する (接続)
われが造って*22
- 1212 **e-takte-an**
エ・タクテ・アン
汝・呼ばせる・我
汝を呼んで来させた
- 1213 **ruwe ne.**
ルウェ ネ.
跡 である
のだ。
- 1214 **Pase kamui**
パセ カムイ
重い 神
重き神
- 1215 **ashtoma kamui**
アシトマ カムイ
恐ろしい 神
おそろしき神は
- 1216 **taptap**
タプタプ
これこの通り
ほんとうに
- 1217 **a-uitek ruwe an.**
ア・ウイテク ルウェ アン.
我・ 跡 ある
実行してくれたのだなあ。
- 1218 **Ponchupkaummat**
ポンチュプカウムマツ
小東の女人
小東姫
- 1219 **batek ne yakka**
バテク ネ ヤッカ
のみ である (譲歩)
だけであつても
- 1220 **ene hetapne**
エネ ヘタプネ
このように これ
あんなにもまあ
- 1221 **a-rushka humi**
ア・ルシカ フミ
我・怒る 気配
腹が立ったので
- 1222 **okai rok be,**
オカイ ロク ベ,
ある (完了) もの
あつたのに、
- 1223 **tanto inkar-an awa,**
タント インカラ・アン アワ,
今日 見る・我 (展開)
今日見たところ、
- 1224 **sui e-tureshipo**
スイ エ・トゥレシポ
再び 汝・妹
また汝の妻

草を・我ら・結んだ・もの>、つまり口絵に見るようなヨモギの茎を束ねて作った<草人形>である。mun も<草>の意であるから、同じ語を mun chishinap と繰り返したものの。ヨモギで作るので、noya-imosh kamui <ヨモギ・呪術に入った・神>ヨモギ人形とも、ただ chishinap kamui とも言う。人が立った時と同じように、腰には太刀を差し、左手には槍を持っていて、非常に恐ろしい神とされている。ヨモギは葉を揉むと、独特な臭いが出、その臭いに魔除けの力があるとし、ひろく呪術や治療に用いるが、この<草人形>は、人の手に負えない悪神や魔物を退治するためにだけ作られ、やたらに作ることは禁忌とされている。」(金 IX -5)と書いている。

*22 『ユエカラ集 IX』に登場する草人形を手づから作る男は、シヌタブカを乗っ取ろうとするポイヤウンベの敵 Rupettomunkur ルベットム彦である。

赤海亀になる

- 1225 shisak nubur mat
シサク ヌブル マツ
またとない 霊力 女
たぐいまれなる巫女
- 1226 ne yakka
ネ ヤッカ
である (譲歩)
をも
- 1227 a-montabire wa
ア・モンタビレ ワ
人々・忙しくさせる (接続)
おそわれて
- 1228 a-ekira awan!
ア・エキラ アワン!
人々・拐かす のだった
さらわれたとは!
- 1229 Nekona ne yakka
ネコナ ネ ヤッカ
どのように である (譲歩)
どうであつても
- 1230 ramma eani eashiri
ラムマ エアニ エアシリ
いつも 汝 それこそ
やはりお主が
- 1231 ikoahun kuni p
イコアフン クニ プ
討ち入る すべきこと もの
討ち入るべき者
- 1232 e-ne ruwe taban na.
エ・ネ ルウェ タバン ナ.
汝・である 跡 これ・ある ぞ
なのでありますぞ。
- 1233 Hokure hokure!
ホクレ ホクレ!
早く 早く
さあさあ、
- 1234 arabasakkuru
アラバサックル
親族のいない者
もはや身内なき者は
- 1235 tun moimoike
トゥン モイモイケ
二人 動く
後顧の憂いがないから
- 1236 ren moimoike
レン モイモイケ
三人 動く
二人分三人分の働きを
- 1237 ki p tapokai na.
キ プ タポカイ ナ.
する もの これである ぞ
するがよいぞ。
- 1238 A-ak tonoke
ア・アック トノケ
我・弟 殿
わが弟殿
- 1239 moshiri koro kamui
モシリ コロ カムイ
国土 持つ 神
国を司る神よ
- 1240 huwoiki e-ki
フウォイキ エ・キ
頑張る 汝・する
うんとふんばる
- 1241 kusu ne na.” ari
クス ネ ナ.” アリ
(理由・目的) である ぞ (引用)
のですぞ」と
- 1242 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
わが小兄は
- 1243 i-koorsutke.
イ・コオロスツケ.
我・励ます
われを激励した。
- 1244 Hawash chiki
ハワシ チキ
言われる (条件)
そう言われて
- 1245 orota eashiri
オロタ エアシリ
そこで それこそ
そこでやつと
- 1246 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
どうやらわれを連れてきたのは

p. 25

- 1247 **chitekekarkuru**
チテケカラクル
手製の神
われらが手造りのお方
- 1248 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神の勇士
- 1249 **ne rok okai be ne wa** 260 **pase kamui**
ネ ロク オカイ ベ ネ ワ
である (完了) ある もの である (接続) 重い 神
であったことがわかった。 重き神の
- 1250 **ebosokusu**
エボソクス
なるほど
道理で
- 1251 **tumkor humi okai!**
トゥムコロ フミ オカイ!
力がある 気配 ある
力持ちであったのだなあ。
- 1252 **Itak ne yakka**
イタク ネ ヤクカ
言う である (譲歩)
言葉だけにしろ
- 1253 **a-rushka kuni ne**
ア・ルシカ クニ ネ
我・怒る ように である
われが怒るような
- 1254 **i-y-ekarkar hawe**
イ・イエカラカラ ハウエ
我・する 声
言動を彼がしたから
- 1255 **ene hetapne**
エネ ヘタプネ
このように これ
あんなにも
- 1256 **a-koirushka**
ア・コイルシカ
我・に立腹する
われは腹を立てて
- 1257 **humi okai awa,**
フミ オカイ アワ,
気配 ある (展開)
いたのだったが、
- 1258 **hawash chiki**
ハワシ チキ
言われる (条件)
小兄にそう言われたから
- 1259 **rewarewakkuru**
レワレワククル
草人形
シナシナたわむ草造りのお方
- 1261 **kurkashike**
クルカシケ
上
身体を
- 1262 **an-uwambare.**
アヌワムバレ.
我・調べる
われはじっと見る。
- 1263 **I-kohosari**
イ・コホサリ
我・振り向く
彼は振り向いて
- 1264 **kosancha otta**
コサンチャ オッタ
口元 (場所)
口元に
- 1265 **mina kane.**
ミナ カネ.
笑う (同時)
ほほ笑みを浮かべた。
- 1266 **A-tekrikikur-**
ア・テクリキクル・
我・手を高く
われは上へ向けた両掌を前へ出し
- 1267 **buni kane**
ブニ カネ
上げる (同時)
ゆったり上下させながら
- 1268 **a-koonkami.**
ア・コオンカミ.
我・拝礼する
彼に礼拝した。

赤海亀になる

- 1269 Pon a-kor yubi
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・もつ 兄
 小兄の
- 1270 i-ramye haukan-
 イ・ラムイエ ハウカン・
 我・褒め称える 声の末尾
 ほめたたえる声が
- 1271 kari kane.
 カリ カネ.
 回る (同時)
 遠くから聞こえてきた。
- 1272 “Tan korachi
 “タン コラチ
 この ように
 「かくのごとく
- 1273 tapne rametok anak
 タプネ ラメトク アナク
 これである 勇者 は
 このように勇士というもの
- 1274 utarpa anakne
 ウタラバ アナクネ
 首領 は
 首領というものが
- 1275 kamui buri
 カムイ ブリ
 神 行い
 神の礼儀作法
- 1276 nishpa buri
 ニシパ ブリ
 長者 行い
 大将の礼儀作法を
- 1277 eashkai ko
 エアシカイ コ
 できる (条件)
 わきまえていると
- 1278 shino pirika p
 シノ ピリカ プ
 まことに 良い もの
 まことにいいもの
- 1279 tap okai.!” ari
 タプ オカイ.!” アリ
 これ ある (引用)
 であるわい」と
- 1280 itak kane.
 イタク カネ.
 言う (同時)
 言った。
- 1281 Terke tuika ta
 テレケ トウイカ タ
 跳ねる 上 (場所)
 跳んでいる最中
- 1282 ikikorkaiki,
 イキコロカイキ、
 (逆接)
 ではあるが、
- 1283 Huremaupo
 フレマウポ
 (伝説上の人名)
 フレマウポ—赤禿の
- 1284 kamui rametok
 カムイ ラメトク
 神 勇者
 神雄
- 1285 ne wa ne yakka
 ネ ワ ネ ヤクカ
 である (接続) である (譲歩)
 も
- 1286 ramno rino
 ラムノ リノ
 低い土地で 高く
 高くまた低く
- 1287 i-koonkami.
 イ・コオンカミ.
 我・拝礼する
 われに礼拝した。

p. 26

第4章

海の冥界

4.1 海の冥界王

- 1288 Tap orowa
 タブ オロワ
 これ (始点)
 それから
- 1289 inkar-an ko
 インカラ・アン コ
 見る・我 (条件)
 辺りを眺めてみたら、
- 1290 tan boro moshiri
 タン ボロ モシリ
 この 大きい 国土
 この大いなる世界は
- 1291 neita bakno
 ネイタ バクノ
 どこに まで
 どこまでも
- 1292 kurkashike
 クルカシケ
 上
 その上一帯が
- 1293 teshnatara.
 テシナタラ.
 平らである
 ずらっと平らかだ。
- 1294 Moshiri noshki ta
 モシリ ノシキ タ
 国土 真中 (場所)
 国土のまん中に
- 1295 ramamke tapkop
 ラマムケ タブコブ
 ゆるやかな 小山
 ぽつんと孤立した低い山が
- 1296 chieashi.
 チエアシ.
 立つ
 立っていた。
- 1297 Noshke bakno
 ノシケ バクノ
 真中 まで
 中腹まで
- 1298 kunne urar
 クンネ ウララ
 黒い 霧
 黒いもやが
- 1299 chikonoiba kane.
 チコノイバ カネ.
 たなびく (同時)
 たなびいている。
- 1300 Shiran chiki
 シラン チキ
 有様である (条件)
 そのようだから
- 1301 tapkop ka ta
 タブコブ カ タ
 小山 上 (場所)
 孤峯の上に
- 1302 chikap reu shiri
 チカブ レウ シリ
 鳥 (鳥が) とまる 様子
 鳥が木の枝に止まる

赤海亀になる

- 1303 a-horkasuye.
ア・ホロカスイエ。
我・真似る
さながらにふわりと飛び下りた。
- 1304 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
うち見れば
- 1305 sonnokaun
ソンノカウン
ほんとうに
ほんとうにもまあ
- 1306 shuma*¹ chise
シュマ チセ
石 家
岩屋と
- 1307 shuma chashi
シュマ チャシ
石 チャシ
岩柵が
- 1308 uworeroshki.
ウウォレロシキ。
重なってそびえる
重なり立っていた。
- 1309 Sonno buta un
ソンノ ブタ ウン
真に 蓋 ある
まこと蓋がある
- 1310 chise korachi
チセ コラチ
家 ように
館のごとく
- 1311 sonnokaun
ソンノカウン
ほんとうに
ほんとうにまあ
- 1312 buraioushi
ブライオウシ
窓の場所
窓が付いている箇所も
- 1313 abaoushi
アバオウシ
戸口の場所
戸が付いている箇所も
- 1314 an-erambetek.
アネラムベテク。
人々・知らない
わからない。
- 1315 Otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの 回 こそ
何度も
- 1316 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの 回 こそ
何度も
- 1317 tan boro chise
タン ボロ チセ
この 大きい 家
この大きな館を
- 1318 a-okari koroka,
ア・オカリ コロカ,
我・をまわる (逆接)
ぐるぐる巡ってみたが、
- 1319 seta sui boka
セタ スイ ボカ
犬 穴 さえ
犬が出入りする穴すら
- 1320 erum sui boka isam.
エルム スイ ボカ イサム。
鼠 穴 さえ 無い
鼠穴さえない。
- 1321 Shiyoro*² keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
たまげて
- 1322 a-yaikore.
ア・ヤイコレ。
我・もつ
しまった。
- 1323 Nep nitne kamui hene
ネフ ニツネ カムイ ヘネ
何 悪い 神 も
何魔神
- 1324 ne apkusu
ネ アプクス
である としても
であろうとも

*1 原綴 shir

*2 原綴 shiyo のみ

- 1325 **nebeka**^{*3} **tapne**
 ネベカ タプネ
 どこから これである
 なにかこう
- 1326 **ahup hene**
 アフフ ヘネ
 入る も
 入ったり
- 1327 **soyun hene ki wa**
 ソユン ヘネ キ ワ
 外にある も する (接続)
 出たりして
- 1328 **shiran chiki**
 シラン チキ
 有様である (条件)
 いるようだから
- 1329 **irushka keutum**
 イルシカ ケウトウム
 怒る 心
 怒りを
- 1330 **a-yaikore.**
 ア・ヤイコレ.
 我・もつ
 覚えた。
- 1331 **Tata otta**
 タタ オッタ
 ここ (場所)
 ここにおいて
- 1332 **a-mi kosonte**
 ア・ミ コソント
 我・着る 小袖
 わが³着る着物が³
- 1333 **a-i-tumamor**^{*4}
 ア・イ・トゥマモロ・
 られる・我・胴体
 胴体に
- 1334 **noiba kane**
 ノイバ カネ
 ねじる (同時)
 よれよれねじれて
- 1335 **a-kam nubeki**
 ア・カム スベキ
 我・肌 光
 露出したわが肌の光が³
- 1336 **tonoishikush ne**
 トノイシクシ ネ
 昼の日差し として
 昼の陽光のように
- 1337 **maknatara.**
 マクナタラ.
 輝いている
 あたりに輝いた。
- 1338 **A-ramkobashtep**
 ア・ラムコバシテプ
 我・刀
 わが愛刀を
- 1339 **an-osautekka**
 アノサウテッカ
 我・鞆走らせる
 さっと抜き放ち
- 1340 **kunne toi ka**
 クンネ トイ カ
 黒い 土 上
 黒土の上に
- 1341 **a-baweotke**^{*5}
 ア・パウエオッケ
 我・頭で突く
 われ頭を突き刺し

p. 27

^{*3} ← 「nep-he ka <何・か>」(金 III 388)

^{*4} kani kosonte/eitumamor/noipa kane/kam nupeki/shikushtoi kunne/komaknatara. 「黄金の小袖が/胴に(脚注:e-i-tumam-or <それで・その人の、彼の・躯幹、胴体・其処>)/よれよれにねじれ/膚の光/昼の陽光のように/あたりに輝いた。」(金 I 245)

^{*5} pa-w-e-otke <頭・(挿入音)・で・～を突く>。 itak kese ta/chashi-kesh ta/kunne toi ka/paweotke./Arboknashir un/ahun hum konna/moshir kuttom/kokumrakkumrak/ahun humi/oroneambe/koturimimse. 「言葉の末に/山城のはずれで/黒土の上へ頭をつきさした。/真下の国へ(脚注:原綴は areboknashi un)/入っていく音/国土の底に/ごほごほごほと/はいる音が/おびた・しく(脚注:oro-neambe <甚だ・(語勢)>まるでひどく)/あたりと共に鳴動した。」(金 I 23) Etu kaipse/yanke kaipse/kaipse utur/paweotke. 「エツラチチ/沖の浪/辺の浪/

赤海亀になる

- 1342 a-korawoshma.
ア・コラウオシマ、
我・に突進する
パッと潜り込んだ。
- 1343 Ahun-an aine
アフン・アン アイネ
入る・我 (接続)
土中に入っていくと
- 1344 orhetopo
オロヘトポ
もと来た方へ
すぐさま
- 1345 chise ahun aba
チセ アフン アバ
家 入る 簾戸
館に入りこむ戸の
- 1346 a-ramebakari*6
ア・ラメバカリ
我・見当つける
検討がついた。
- 1347 hetuku-an awa,
ヘトゥク・アン アワ、
頭突き出す・我 (展開)
そこから頭を突き入れたところ、
- 1348 soonno boka
ソオンノ ボカ
本当に さえ
ほんとにまあ
- 1349 mintar*7 ka ta
ミンタラ カ タ
土間 上 (場所)
内土間の上に
- 1350 oserhumsakno
オセレフムサクノ
音がしないよう
音もなく
- 1351 hetuku-an.
ヘトゥク・アン、
頭突き出す・我
わが頭が突き出た。
- 1352 Iyainumare!
イヤイヌマレ!
驚いた
驚くべし!
- 1353 Tan boro chise oshke
タン ボロ チセ オシケ
この 大きい 家 中
この大きな屋敷の内部は
- 1354 ekurok nishkuru
エクロク ニシクル
黒い 雲
まっ黒な雲
- 1355 eebuitek*8
エエブイテク
不詳
(?)
- semkorachi. そのごとくである。
- 1356 Shiri ekurok
シリ エクロク
様子 黒い
辺りじゅうまっ黒な
- 1357 urar tum un
ウララ トウム ウン
霧 中 (方向)
もやの中に
- 1358 abe tom kane.
アベ トム カネ。
火 輝く (同時)
火がピカーッと光っていた。
- 1359 Shiran ko
シラン コ
有様である (条件)
それで
- 1360 yayinkar-
ヤインカラ・
自分の物見
瞳を

浪の間へ頭を突込む。」(金 VIII49)

*6 「考ヘラ凝ラシテ物ヲ發明スル、熟考スル、
v.t. To discover a thing by thinking of it. To
think out. To think well over. To consider.」
(B408)「【他動詞】<心・で・はかる>はか
りを使わずにはかる (たとえば手に載せて
等)」(田 556) 原綴 Aramebari

*7 原綴 mimtar

*8 不詳。

- 1361 **pirikare** *⁹ **wa**
 ピリカレ ワ
 良くする ***** (接続)
 凝らして
- 1362 **inkar-an** **ko,**
 インカラ・アン コ,
 見る・我 (条件)
 見ると、
- 1363 **shiso sam ta**
 シソ サム タ
 右座 そば (場所)
 右座に
- 1364 **nep ne kuni p**
 ネプ ネ クニ プ
 何 である はずの もの
 何者
- 1365 **ne nankor a.**
 ネ ナンコラ.
 である だろう か
 なのであろうか。
- 1366 **Pon nuburi**
 ポン ヌプリ
 小さい 山
 小山が
- 1367 **tek a-ushte**
 テク ア・ウシテ
 手 生える
 手を生やし
- 1368 **chikir a-ushte**
 チキリ ア・ウシテ
 足 生える
 脚を生やしている
- 1369 **semkorachi okai**
 セムコラチ オカイ
 まるで (する) ように ある
 みたいな
- 1370 **shuma boro ainu.**
 シュマ ボロ アイヌ.
 石 大きい 男
 岩の大男。
- 1371 **Nan ne koro be**
 ナン ネ コロ ベ
 顔 である 持つ もの
 顔なるものは
- 1372 **soshke bira ne,**
 ソシケ ビラ ネ,
 剥がす 崖 として
 崩れおちた崖のよう
- 1373 **etu ne koro be**
 エトウ ネ コロ ベ
 嘴 である 持つ もの
 鼻なるものは
- 1374 **ratki shitu**
 ラッキ シトゥ
 垂れ下がった 尾根
 傾きかかる山の峰を
- 1375 **chietuitekka**
 チエトウイテッカ
 切られる
 スパツと切りとって
- 1376 **tu boro tomsui**
 トウ ボロ トムスイ
 二つの 大きい 洞窟
 二つの海の大洞窟が
- 1377 **chiubekare**
 チウベカレ
 向かい合う
 並んでいる
- 1378 **semkorachi.**
 セムコラチ.
 まるで (する) ように
 かのようだ、
- 1379 **Shik ne koro be**
 シク ネ コロ ベ
 目 である 持つ もの
 目なるものは
- 1380 **shikarichup bak,**
 シカリチュプ バク,
 満月 罰する
 満月ほどの大きさで、
- 1381 **shirar tumama**
 シララ トゥママ
 岩 胴体
 岩の胴体には

*⁹ **yay-inkar-pirikare-an** 「<自身・物を見る、見る目・よくさせる・(第一人称)>何とか見ようといけんめいになって見てみる(金I 89)、<自身で・物見・よくする・われ>ひとりでじいっとよくよく見て(金I 334)

赤海亀になる

- 1382 kanchi bak emush
カンチ バク エムシ
権 罰する 刀
権^{かい}ほどもある大太刀を
- 1383 chieninninu.
チエニンニヌ.
貫いている
差している。
- 1384 Neikeuike
ネイケウイケ
どのところ
どこに
- 1385 an-ekot kuni p
アネコツ クニ プ
我・死ぬ はずの もの
急所が
- 1386 okai nankor a.
オカイ ナンコラ.
ある だろう か
あるのだろうか。
- 1387 Shiri kanna toi^{*10}
シリ カンナ トイ
様子 上 土
大地の表から
- 1388 shiri bokna toi
シリ ボクナ トイ
様子 下方の 土
大地の裏まで
- 1389 shikkushbare wa
シククシバレ ワ
見通す (接続)
見通して
- 1390 kamui hene
カムイ ヘネ
神 も
神だの

- 1391 ainu hene
アイヌ ヘネ
人間 も
人間だのを
- 1392 nitne kamui
ニツネ カムイ
悪い 神
魔神が
- 1393 bishki p ne
ビシキ プ ネ
数える もの である
数え上げているものである
- 1394 kotomno
コトムノ
ように
らしい。
- 1395 kiru osere^{*11} ruwe
キル オセレ ルウェ
向ける 不詳 跡
(?)
- oar kirkewe 片足は
- 1396 ror un shikkeu
ロロ ウン シクケウ
上座 ある 隅
横座の隅まで
- 1397 chieushi,
チエウシ,
とどく
達し、
- 1398 oar kirkewe^{*12}
オアラ キリケウエ
全く 脚の骨
片足は
- 1399 utur un shikkeu
ウトウル ウン シクケウ
間 ある 隅
下座の隅まで
- 1400 chieushi
チエウシ
とどく
達している

p. 28

*10 siri kanna toy <大地 上の 土>。rai ap-koro/an orowa/bokna shikihi ari/shiri kanna toi/shiri bokna toi/shikkushpare。《萱野訳》「死んだふりはしているけれど死んでいなくて/まぶたの裏から/辺りを見て/大地の裏まで/見通して」(教 XVI 83~4)

*11 不詳。kiru-o-se-re <ひっくり返す・そこから・背負わ・せる> (?)

*12 原綴 kirkewe

- 1401 **semkorachi.**
セムコラチ.
まるで(する)ように
かのようだ。
- 1402 **Shimon kirkewe**
シモン キリケウエ
右の 脚の骨
右脚
- 1403 **kashike ta**
カシケ タ
上 (場所)
の上に
- 1404 **boro kambisosh**
ボロ カムビソシ
大きい 本
大きな本を
- 1405 **ante kane**
アンテ カネ
あらしめる (同時)
置いて
- 1406 **makba ranke**
マクバ ランケ
開ける (反復)
開けながら
- 1407 **orun inkar wa**
オルン インカラ ワ
(方向) 見る (接続)
そこを読んで、
- 1408 **harkiteke**
ハラキテケ
左手
左手の
- 1409 **ashbekechi**
アシベケチ
手の指
指を
- 1410 **ereurewe**
エレウレウエ
曲げ曲げ
折り曲げ折り曲げ
- 1411 **hemantabo**
ヘマンタボ
何か
何か
- 1412 **binunobo**
ビヌノボ
密かに
小声で
- 1413 **ebabise-**
エバビセ・
ヒソヒソ言う
ブツブツ
- 1414 **atte*13 kane.**
アッテ カネ.
たたせる (同時)
つぶやいている。
- 1415 **Iki koro okai wa**
イキ コロ オカイ ワ
する (同時) ある (接続)
そうしながらいて
- 1416 **oshmake ta**
オシマケ タ
その背後 (場所)
その後ろには
- 1417 **shiboro shuyop**
シボロ シュヨフ
大きな柱 箱
巨大な箱が
- 1418 **chitubetube kane.**
チトゥベトゥベ カネ.
縛られている (同時)
ぐるぐる縛られていた。
- 1419 **Shiran ko**
シラン コ
有様である (条件)
そのようにあって
- 1420 **nei suyop**
ネイ スヨフ
その 箱
その箱は

*13 e-pa-pise-atte <~について・口・← pispise ヒソヒソ・という声・をかける>。《沙流》「epapisisatte エバビビサッテ【他動詞】 e-pa-pispis-at-te <~について・口・ヒソヒソ (擬音重複)・たくさん出てくる・させる>~についてこそソソしゃべる」(田 107)

赤海亀になる

- 1421 **erorun wa**
エロルン ワ
上座の方へ から
上座から
- 1422 **euturun wa**
エウトウルン ワ
下座の方へ から
下座へと
- 1423 **shinu shinu**
シヌ シヌ
膝行する 膝行する
ズルズル這い回っ
- 1424 **koro okai.**
コロ オカイ.
(同時) ある
ていた。
- 1425 **Konepkeukata!**
コネケウカタ!
何ということか
ああかわいそうに!
- 1426 **Kimunnaiummat**
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫
- 1427 **an-tureshipo newa**
アン・トゥレシポ ネワ
我・妹 と
わが妻と
- 1428 **Ponchupkaummat**
ポンチュプカウムマツ
小東の女人
小東姫が
- 1429 **suyop onnaike ta**
スヨプ オンナイケ タ
箱 内部 (場所)
箱の中に
- 1430 **okai wa**
オカイ ワ
ある (接続)
いて
- 1431 **ikichi shiri**
イキチ シリ
する 様子
そうしているのが
- 1432 **a-no-eraman chiki**
ア・ノ・エラマン チキ
我・よく・知る (条件)
よくわかったけれど、
- 1433 **enewaboka**
エネワボカ
どうにも
どう
- 1434 **iki-an i ka**
イキ・アニ カ
する・我 こと も
することも
- 1435 **isam kane.**
イサム カネ.
無い (同時)
できない。
- 1436 **Tan boro chise**
タン ボロ チセ
この 大きい 家
この大館の
- 1437 **upsoroho**
ウフソロホ
内部
内部は
- 1438 **koohanepo**
コオハネポ
笑止千万にも
生意気にも
- 1439 **atomte kane.**
アトムテ カネ.
飾った (同時)
美しく飾られている。

4.2 海の妖魔コシンプク

- 1440 **Hokaetok ta**
ホカエトク タ
横座 (場所)
横座に
- 1441 **retar urar**
レタラ ウララ
白い 霧
白いもや

- 1442 pon urar tapkop
 ポン ウララ タアコフ
 小さい 霧 小山
 小さなもやの小山が
- 1443 ehorari.
 エホラリ、
 居る
 どっしり座っていた。
- 1444 Urar tumu
 ウララ トウム
 霧 中
 もやの中を
- 1445 a-shikechari
 ア・シケチャリ
 我・目で散らす
 わが眼力で散らして
- 1446 inkar-an awa,
 インカラ・アン アワ、
 見る・我 (展開)
 見通したら、
- 1447 ar retar ainu
 アラ レタラ アイヌ
 全く 白い 男
 真っ白な男
- 1448 ponainu ponkuru
 ポナイス ポンクル
 若い人 若い人
 まだ年少の若者が
- 1449 retar kosonte
 レタラ コソソテ
 白い 小袖
 白い小袖を
- 1450 nenaimine
 ネナイミネ
 同じ様な衣裳
 中から外まで
- 1451 arutomechui,
 アルトメチウ、
 身にまとう
 かさね着して、
- 1452 retar emush
 レタラ エムシ
 白い 刀
 白い太刀を
- 1453 kutbokechui
 クツボケチウ
 帯に差す
 帯下に差している。
- 1454 Retar pon kasa
 レタラ ポン カサ
 白い 小さい 笠
 白い兜の
- 1455 kasa rantubep
 カサ ラントゥベフ
 笠 垂れた紐
 紐の緒を
- 1456 eyaisannanka-
 エヤイサンナンカ・
 みずからの顔
 顔に
- 1457 yubu kane
 ユブ カネ
 強める (同時)
 キリリと締めていて
- 1458 kasa kepsam ta
 カサ ケフサム タ
 笠 端 (場所)
 兜の縁から
- 1459 nan nubeki
 ナン ヌベキ
 顔 光
 顔の光が
- 1460 retar imeru
 レタラ イメル
 白い 光
 白い稲妻のように
- 1461 eshimaka.
 エシマカ、
 輝く
 ピカッピカッと閃いていた。
- 1462 Shirar ainu
 シララ アイヌ
 岩 男
 岩男の
- 1463 nan kotchake
 ナン コツチャケ
 顔 前
 その顔の前に

赤海亀になる

- 1464 eun eun
 エウン エウン
 突き出す 突き出す
 顔を差し出し差し出し
- 1465 itak kutsama
 イタク クッサマ
 言う 声
 もの言う喉元
- 1466 tununitara.
 トゥヌニタラ.
 美しい音が響く
 美しく響き出る。
- 1467 Tu okne itak
 トゥ オクネ イタク
 二つの 悲しむ 言葉
 嘆き悲しむ
- 1468 re okne itak
 レ オクネ イタク
 三つの 悲しむ 言葉
 憂いの言葉を
- 1469 ki hawe
 キ ハウエ
 する 声
 話す内容は
- 1470 ene okai i:—
 エネ オカイ イ:・・・
 このように ある こと
 こうであった。
- 1471 “Koninkar kusu!
 “コニンカラ クス!
 さて (理由・目的)
 「これこれ
- 1472 bokna moshiri
 ボクナ モシリ
 下方の 国土
 あの世である下方の国
- 1473 atui bokna moshiri
 アトゥイ ボクナ モシリ
 海 下方の 国土
 海の冥界の
- 1474 esabane
 エサバネ
 支配する
 その王である
- 1475 kamui rametok!
 カムイ ラメトク!
 神 勇者
 神の勇士よ!
- 1476 Itak-an chiki
 イタク・アン チキ
 言う・我 (条件)
 わが申すことを
- 1477 pirikano inu yan!
 ピリカノ イヌ ヤン!
 良く 聞く (命令)
 よーく聞かれよ。
- 1478 Nep e-ki ka ta
 ネプ エ・キ カ タ
 何 汝・する 上 (場所)
 何ごとをする上でも、(?)
- 1479 kamui anakne
 カムイ アナクネ
 神 は
 神は
- 1480 heru kamui ne
 ヘル カムイ ネ
 ただの 神 として
 神同士で
- 1481 nitne kamui anakne
 ニツネ カムイ アナクネ
 悪い 神 は
 魔神は
- 1482 heru nitne kamui ne
 ヘル ニツネ カムイ ネ
 ただの 悪い 神 として
 魔神同士で
- 1483 ainu anakne
 アイヌ アナクネ
 人間 は
 人間は
- 1484 heru ainu ne
 ヘル アイヌ ネ
 ただの 人間 として
 人間同士で
- 1485 urameroshki p*14
 ウラメロシキ プ
 互いの心を立てる もの
 結婚するもの

第4章 海の冥界

- 1486 ne awa,
ネ アワ,
である (展開)
であって、
- 1487 shinnai moshiri
シンナイ モシリ
違った 国土
異なる世界の
- 1488 shinnai kotan
シンナイ コタン
違った 村
異なる村で
- 1489 tu makan shir wa
トゥ マカン シリ ワ
二つの 奥 所 から
ずっと昔から
- 1490 re makan shir wano
レ マカン シリ ワノ
三つの 奥 所 から
今まで
- 1491 hotashnu sakno
ホタシヌ サクノ
びくびくする 無くて
怯えることもなく
- 1492 ishitoma sakno
イシトマ サクノ
恐ろしい気がする 無くて
恐いこともなく
- 1493 orota uwekotankor an rokwa
オロタ ウウェコタンコロ アン ロクワ
そこで 住み合う ある (完了) + (接続)
そこに暮らし合っていた
- 1494 Ponchupkaummat
ポンチュエカウムマツ
小東の女人
小東姫
- 1495 ainu matainu
アイヌ マタイヌ
人間 女
人間の女性を
- 1496 shinnai moshiri
シンナイ モシリ
違った 国土
異界の
- 1497 shinnai kotan
シンナイ コタン
違った 村
他所の村
- 1498 kotan upsoro
コタン ウナソロ
村 内部
その村へ
- 1499 e-ekirakar wa
エ・エキラカラ ワ
汝・拐かす (接続)
貴方さまが拐かして来て
- 1500 e-nuina wa^{*15}
エ・ヌイナ ワ
汝・隠す (接続)
隠した。
- 1501 Okake ta
オカケ タ
あと (場所)
ゆくゆくは
- 1502 e-eyaimakna-
エ・エヤイマクナ・
汝・自分の後方に
自分の妻の座に

^{*14} u-ram-e-roshki-p <互いを・思う・そのことを・asi‘立てる’の複数形・もの> (?)。nei menoko/ekor ainu/…/arkatetokomare./Tambe kusu/koyairamhotari kusu/yubi ekoramkoro awa/yubihi koban./“Kamui anakne/heru kamui ne/urameroshkip ne wa/ainu orun/iyoshikote anakne/wemburi ne”/ari itak kane/koban awa, [その娘が/そなたの父/…/にぞっこん惚れ込み/そのために/思いが募って/兄の狼神に相談をしたところ/兄は反対し/『神は/神同士で/思い合うものであって/人間に/惚れるのは/悪い癖だ] /と彼は言って/反対したのだが、《萱野訳》「その娘が/あなたの父/…/に惚れてしまった。/そのために/思いは募り (分解訳: u-ram-e-roshki-p <互い・思い・それ・立てる・もの>)/自分の兄に/相談をし/兄神に/反対され/そうであっても/あなたの父へ目をつなぎ/兄神から/それは良くないと/反対されても」(教 28-52~3)

^{*15} 原綴 Enuiwa

赤海亀になる

- 1503 horari ari
ホハリ アリ
座って居る (引用)
据え置こうと
- 1504 e-yainu yakka
エ・ヤイヌ ヤッカ
汝・考える しかし
貴方さまは考えたが、
- 1505 raka isam
ラカ イサム
有益 無い
らちもない
- 1506 yainu e-ki shiri
ヤイヌ エ・キ シリ
考える 汝・する 様子
思いつきをしたもの
- 1507 taban na.
タバナ ナ.
これ・ある ぞ
でありますな。
- 1508 Keke hetak!
ケケ ヘタク!
さあ さあ
さあさ早く
- 1509 kotan kamui po!^{*16}
コタン カムイ ポ!
村 神 子
村の神の子よ!
- 1510 moshiri kamui po!
モシリ カムイ ポ!
国土 神 子
国の神の子よ!
- 1511 erambokiwen wa
エラムボキウエン ワ
憐れむ (接続)
可哀相に思っ
- 1512 oro tunashno
オロ トウナシノ
所 早く
一刻もはやく
- 1513 tan te wano poka
タン テ ワノ ポカ
この これ から さえ
今すぐにでも
- 1514 ainu matainu
アイヌ マタイヌ
人間 女
人間の女
- 1515 utarorkehe
ウタロロケヘ
たち
たちを
- 1516 hoshpbare^{*17} wa
ホシフバレ ワ
帰す (接続)
返してあげて
- 1517 i-kore kunak ramu yan!
イ・コレ クナク ラム ヤン!
我・与える (引用) 思う (命令)
くだされ。
- 1518 Ouse Ponchupkaummat batek
オウセ ポンチュプカウムマツ バテク
ただ (だけ) 小東の女人 のみ
小東姫ただ一人を
- 1519 e-ekira yakka
エ・エキラ ヤッカ
汝・拐かす (譲歩)
拐かしても
- 1520 tapne Ponchupka un utara
タップネ ポンチュプカ ウン ウタラ
これである (地名) ある 村人
あのように小東人たちには
- 1521 nuburbe at be
ヌブルベ アツ ベ
霊力の強い者 全く もの
巫術者がたくさんいる
- 1522 kone p ne kusu,
コネ プ ネ クス,
である もの である (理由・目的)
ものだから、

^{*16} kotan kamui po < 村の 神の子、親称辞 (?) > 。 shine okkayo/renkap kusu/kotan kamui po/a-chishte yakun/kamui orwano/chiarababu/an-i-y-ekarkar/ne ari yainu-an. 《萱野訳》「悪いのは/一人の男/そのことで/村の神や/人々を泣かすのは良くないことと/他の神から非難される/こと/になる そう思った私は」(教 23-59~60)

^{*17} 原綴 hoshbare

- 1523 **Ainurakkuru**
 アイヌラックル
 (文化神の名)
 アイヌラックルの
- 1524 **kamui rametok**
 カムイ ラメトク
 神 勇者
 神雄が
- 1525 **a-nishuk wa,**
 ア・ニシユク ワ,
 招かれる (接続)
 救援を頼まれ、
- 1526 **Huremaupo**
 フレマウポ
 (伝説上の人名)
 フレマウポ—赤禿の
- 1527 **kamui rametok**
 カムイ ラメトク
 神 勇者
 神雄
- 1528 **tura wa arki hine,**
 トウラ ワ アラキ ヒネ,
 ともに (接続) 来る (接続)
 と一緒にやって来て、
- 1529 **hushkotoiwano**
 フシコトイワノ
 以前から
 大昔から
- 1530 **a-yaikomore p**
 ア・ヤイコモレ プ
 我・みずから治める もの
 平穏に暮らしていた
- 1531 **kotan ne rokwa**
 コタン ネ ロクワ
 村 である (完了) + (接続)
 村であったのに
- 1532 **tane i-utattuye koro**
 タネ イ・ウタットウイエ コロ
 今 我・仲間を殺す (同時)
 今われらの同族を斬って
- 1533 **shiran ruwe ne.**
 シラン ルウェ ネ.
 有様である 跡 である
 いるようすなのだ。
- 1534 **Batek ne yakka***18
 バテク ネ ヤクカ
 のみ である (譲歩)
 それだけでも
- 1535 **an-eyaikouyebekere.**
 アネヤイコウイエベケレ.
 我・心配する
 われは心配だ。
- 1536 **Nekon ikichi-an wa**
 ネコン イキチ・アン ワ
 どのように する・我 (接続)
 どうしたら
- 1537 **a-wen kewe poka**
 ア・ウエン ケウエ ポカ
 我・悪い 身体 さえ
 せめてわがつまらない身だけでも
- 1538 **shiknu kusu ari**
 シクヌ クス アリ
 生きている (理由・目的) (引用)
 助かるかと
- 1539 **yainu-an awa,**
 ヤイヌ・アン アワ,
 考える・我 (展開)
 考えていたところ、
- 1540 **hushkotoiwano**
 フシコトイワノ
 以前から
 昔から
- 1541 **huri sama**
 プリ サマ
 行い そば
 その行動が
- 1542 **a-eanasap be**
 ア・エアナサップ ベ
 人々・持てあます もの
 黙認されている者
- 1543 **tapne Tomisambechi**
 タプネ トミサムベチ
 これである (地名)
 あのトミサンベチ
- 1544 **Shinutapka ta**
 シヌタプカ タ
 (地名) (場所)
 シヌタプカの

*18 原綴 neyaikka

赤海亀になる

- 1545 ponran kamui
ボンラン カムイ
幼少の 神
若き神の
- 1546 ante machi
アンテ マチ
あらしめる 妻
連れ添う妻
- 1547 sokar machi
ソカラ マチ
傍に仕える 妻
かしづく妻までも
- 1548 oroyachiki hemem
オロヤチキ ヘメム
驚いたことに も
とんでもないことに
- 1549 e-tekebashte-an.
エ・テケバシテ・アン.
汝・拐かす・人々
貴方さまに略奪された。
- 1550 Ainurakkuru
アイヌラックル
(文化神の名)
アイヌラックル
- 1551 batek ne yakka
バテク ネ ヤッカ
のみ である (譲歩)
一人だけでも
- 1552 ene hetapne
エネ ヘタプネ
このように これ
あんなにもまあ
- 1553 ashtoma humi
アシトマ フミ
恐ろしい 気配
おそろしいので
- 1554 okai awa,
オカイ アワ,
ある (展開)
あるのに、
- 1555 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今度は
- 1556 ponran kamui
ボンラン カムイ
幼少の 神
シヌタプカの若き神
- 1557 ainu bito
アイヌ ビト
人間 人
神のごとき人が
- 1558 tap e-iki i
タップ エ・イキ イ
これ 汝・する こと
貴方さまが妻盗みしたことに
- 1559 e-kobashte ko
エ・コバシテ コ
汝・気づく (条件)
気づいたら
- 1560 ukokushishba
ウコクシシバ
ともに
二人とも
- 1561 konep shiknu
コネプ シクヌ
何 生きている
何で生き
- 1562 konep tusa
コネプ トウサ
何 快復する
何で助かることが
- 1563 a-ki p tap
ア・キ プ タプ
我・する もの これ
でき
- 1564 ne nankor a.
ネ ナンコラ.
である だろう か
ましようか。
- 1565 Rai ne yakka
ライ ネ ヤッカ
死ぬ として (譲歩)
死ぬにしても
- 1566 sem katu ne
セム カトゥ ネ
(否定) 様・として
無惨なありさまで

- 1567 **moshit turanno**
モシッ トウランノ
国土 ともに
国土とともに
- 1568 **kotan turanno***19
コタン トウランノ
村 ともに
村とともに
- 1569 **a-ki nankon na.**
ア・キ ナンコン ナ.
我・する だろ う ぞ
われらは死ぬでありますぞ。
- 1570 **Oro tunashno**
オロ トウナシノ
所 早く
一刻も早く
- 1571 **ainu matainu**
アイヌ マタイヌ
人間 女
人間の女人
- 1572 **utarorke**
ウタロロケ
たち
たちを
- 1573 **hoshipbare yan!**
ホシアバレ ヤン!
戻す (命令)
お返しなされ。
- 1574 **Nei ikoramkoro**
ネイ イコラムコロ
そのこと 相談する
そのことを相談
- 1575 **a-ki kusu**
ア・キ クス
我・する (理由・目的)
しに
- 1576 **ek-an ruwe taban.**
エク・アン ルウェ タバン.
来る・我 跡 これ・ある
やって来たのであります。』
- 1577 **ari retar okkaipo**
アリ レタラ オッカイポ
(引用) 白い 男の子
と白装束の若者は
- 1578 **itak kane**
イタク カネ
言う (同時)
言って
- 1579 **boro rui kuni p**
ボロ ルイ クニ プ
大きい 激しい ように もの
大男の
- 1580 **nan kotchake**
ナン コッチャケ
顔 前
眼前に
- 1581 **eun eun***20.
エウン エウン.
突き出す 突き出す
顔をさし出した。
- 1582 **Shirki chiki**
シリキ チキ
そうする (条件)
そうしたら
- 1583 **ar kamiashi**
アラ カミアシ
全く 化物
大化け物は
- 1584 **eramupo-**
エラムポ・
その思いが
気も
- 1585 **usausak***21
ウサウサク
消え消えになる
そぞろに

p. 31

*20 原綴 eu

*21 e-ramu-po usausak <それについて・その心、思い・(指小辞)・消え消えになる>]「エラムカウサウサ eramu ka usausak 考えることバラバラにまとまりなくふわふわしている」(金成筆録原ノート Kani Birakka p.126の金田一メモ)「eramupo-usausa 気がいらいらする、気が落ち着かぬ。eramupo-usausaka いらだたせる」(久 66)「ウルサイ、インガシイ思ヒスル」(『トウイタ 4』 p.77 金成筆録原ノートの知里メモ)「ラムウサウサク<思い・別々>気が散る、心がうわつく、思いがさだまらない」(萱462) eramupo ka/usausaka. 「彼の心を/いらだ、す(脚注:

*19 原綴 kotanno

赤海亀になる

- 1586 ainu bishki ko
 アイヌ ビシキ コ
 人間 数える (条件)
 人間を数えて
- 1587 eramu utara wa
 エラム ウタラ ワ
 不詳 村人 から
 (?)
- itak ne manu 言うその言葉なるものと
 きたら
- 1588 tomsui*²² orun
 トムスイ オルン
 洞窟 (方向)
 海中の岩穴に
- 1589 rirota*²³
 リロタ
 不詳
 潮が流れ込んで (?)

eramupo ka usausaka は erampo-usausa といふこともあり、気が落ちつかず又気がいらだちいらいらす。《B》には usausa,adj.various. usausak,adj.ambiguous. とあり。usausaka はその動詞。或は usausakka か。首を振られて逃し逃しするものだからいらだちあせる。」(研 904) eramu ka/usausak kane 「心も/消え消えになり(脚注: usausak kane = usak usak 消え消えになる)」(金 I 128) eramupo/usausak その心/茫となり」(金 VI 314)

*²² tomsuy 「海中の shirar の内にありて水がごぼごぼ溢れる所があるもの(研 703)、水辺の洞穴(山にある洞穴 poru に対する)(金 V 300)」「《北海道南部》《雅語》海岸の断崖にある洞窟;或は海中の岩の内部にある穴。—あまり美しくない物云いを形容して次のように云う。itak ne manu-p/e-raun-kuchi/mesrototke/tomsuy or-un/rur ohetke/semkorachi:—その云う言葉なるものは/それで喉の奥が/ほこぼこと鳴り続け/岩穴の中に/海水が落ちこむ/かのようにだ」(地 13~ to be spilled.to run out./その如くにて」(研 703~4) itak ne manu/rebun kaibe/yaun kaibe/ukaeteseshke/tomshui orun/ukatotosatki/semkorachi 「言葉なるものが/沖の波/おかの波/相ぶつかり/岸の洞穴の中へ/ざあざあとはいる/そのような声で」(金 V 302~3)

- 1590 koeyashrototke
 コエヤシロトツケ
 ビリビリビリ
 ビリビリ響き渡る
- 1591 semkorachi
 セムコラチ
 まるで(する)ように
 そのような声で
- 1592 tan arka*²⁴ itak
 タン アラカ イタク
 この 痛い 言葉
 痛罵を
- 1593 eterkere
 エテレケレ
 跳ねとばす
 浴びせて
- 1594 ene okai i:—
 エネ オカイ イ:・・・
 このように ある こと
 こう言った。
- 1595 “Iramshitnere!
 “イラムシツネレ!
 うるさいなあ
 「やかましいやい!
- 1596 ta sui koshimbuk tono
 タ スイ コシムブク トノ
 これ 再び 妖精 殿
 これまた妖魔の大將は
- 1597 katchak kashba
 カッチャク カシバ
 臆病な 甚だしい
 あまりにも意気地なく

*²³ 不詳。rir-o ta < 波・~ に入る所で > (?) tomsui oro/riro ta/koetososhke/semkorachi/itak ne manu p/eraunkuchi/komeshrototke /ene okai i; 海岸の断崖にある洞窟に/潮が流れ込んで/ザアザアと響く/そのように/言葉なるものを/喉の奥に/ゴボゴボくぐもらせながら/こう言った。《萱野訳》「洞窟の内側へ/高い波がぶつかる/ような高い声で/言った声が/とよみ渡り/言った言葉は次のようなものであった。」(教 XVI 4)

*²⁴ 原綴 tarka

- 1598 **hauke kashba wa**
 ハウケ カシバ ワ
 緩やかになる 甚だしい (接続)
 あまりにも弱過ぎる
- 1599 **katkoro hawe**
 カッコロ ハウエ
 振舞う 声
 やりようは
- 1600 **ene okai i**
 エネ オカイ イ
 このように ある こと
 そんなこと
- 1601 **tambe ne ya!**
 タムベ ネ ヤ!
 これ である (疑問)
 なのか!
- 1602 **A-renkaine**
 ア・レンカイン
 我・意志で
 わしが勝手に
- 1603 **keutumumoshi wano**
 ケウトウム オシ ワノ
 心 中(?) から
 心底
- 1604 **sambe oshi wano**
 サムベ オシ ワノ
 心臓 中(?) から
 心から
- 1605 **keutumumoshi**
 ケウトウム
 心
 その精神が
- 1606 **a-ramuoshma**
 ア・ラムオシマ
 我・同意する
 気に入った
- 1607 **ainu menoko**
 アイヌ メノコ
 人間 女
 人間の女を
- 1608 **teta a-tura apkusu,**
 テタ ア・トゥラ アプクス,
 ここで 我・連れる としても
 ここに連れて来たからとて、
- 1609 **Ainurakkuru**
 アイヌラックル
 (文化神の名)
 たといアイヌラックルが
- 1610 **bokna moshiri**
 ボクナ モシリ
 下方の 国土
 黄泉の国を
- 1611 **tekewente apkusu,**
 テケウェンテ アプクス,
 打ち壊す としても
 荒らしに来たとしても、
- 1612 **taban an-ewak ushike un**
 タバン アネワク ウシケ ウン
 これ・ある 我・住む ところ (方向)
 これなるわが住まいに
- 1613 **ahun eashkai be**
 アフン エアシカイ ベ
 入る できる もの
 侵入することはでき
- 1614 **somo tapan na.**
 ソモ タパン ナ.
 (否定) これである ぞ
 ないのであるぞ。
- 1615 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 小さな本土人
 ポイヤウンベという
- 1616 **atanan ainu**
 アタナン アイヌ
 ただの 人間
 ただ普通の人間が
- 1617 **nekon iki wa**
 ネコン イキ ワ
 どのように する (接続)
 どうして
- 1618 **ante machi**
 アンテ マチ
 あらしめる 妻
 連れ添う妻
- 1619 **sokar machi**
 ソカラ マチ
 傍に仕える 妻
 かしづく妻が

赤海亀になる

- 1620 an-ekira i
アネキラ イ
我・拐かす こと
拐かされたことが
- 1621 eramam be ne hawe?
エラマム ベ ネ ハウエ?
知る もの である 声
わかるというのだ?
- 1622 Eraman apkusu
エラマン アプクス
知る としても
たとい解ったとしても
- 1623 atui boknashiri
アトゥイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界にさえ
- 1624 eba p somo
エバ プ ソモ
着く もの (否定)
到達することはできない
- 1625 ne nankoro.
ネ ナンコロ.
である だろう
であろう。
- 1626 Eba apkusu
エバ アプクス
(不明) としても
たとい着いたとしても
- 1627 taban an-ewak ushike
タブン アネワク ウシケ
これ・ある 我・住む ところ
これなるわが屋敷
- 1628 koahun
コアフン
入る
に侵入は
- 1629 eaikap be ne
エアイクア ベ ネ
できない もの である
できないので
- 1630 ruwe taban na.
ルウェ タバン ナ.
跡 これ・ある ぞ
あるぞ。
- 1631 Aokai anakne
アオカイ アナクネ
我 は
わしは
- 1632 nepka
ネプカ
何か
なんにも
- 1633 ashitoma p anakne
アシトマ プ アナクネ
怖ろしい もの は
おそれるものは
- 1634 shinep ka isam
シネプ カ イサム
一つ も 無い
ひとつもない
- 1635 ruwe ne.” ari
ルウェ ネ.” アリ
跡 である (引用)
のだ。」と
- 1636 itak kane
イタク カネ
言う (同時)
彼は言うて
- 1637 sui ashbekechi
スイ アシベケチ
再び 手の指
また指を
- 1638 ereurewe
エレウレウエ
曲げ曲げ
折り曲げ折り曲げ
- 1639 ainu bishki ne kuni p
アイヌ ビシキ ネ クニ プ
人間 数える である はずの もの
人間数えなるもの (?)
- 1640 koarikiki*25.
コアリキキ.
懸命におこなう
に精を出している。
- 1641 Shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
そうしているから

*25 原綴 koariki

- 1642 **retar okkayo**
レタラ オクカヨ
白い 男
白装束の若者は
- 1643 **irushka rui be**
イルシカ ルイ ベ
怒る 激しい もの
非常に立腹
- 1644 **kone p ne kusu,**
コネ プ ネ クス,
である ものである (理由・目的)
して、
- 1645 **“Usaine tap!**
“ウサイネ タプ!
(呼びかけ) これ
「こりゃあ驚いた!
- 1646 **A-hekote**
ア・ヘコテ
我・連れ添う
わが仕える
- 1647 **kamui rametok!**
カムイ ラメトク!
神 勇者
神雄よ!
- 1648 **Okashkamui sak**
オカシカムイ サク
守り神 欠く
守り神を失い
- 1649 **osermaksak hawe**
オセレマクサク ハウエ
運悪い 声
運がつきするような話
- 1650 **orsaureko**
オロサウレコ
とんでもなく
とんでもないことを
- 1651 **okai be ne ya!**
オカイ ベ ネ ヤ!
ある ものである (疑問)
おっしゃるものだな。
- 1652 **Tomisambechi**
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ
- 1653 **Shinutapka ta**
シヌタプカ タ
(地名) (場所)
シヌタプカの
- 1654 **ainu ari itak apkus**
アイヌ アリ イタク アプクス
人間 (引用) 言う としても
人間と言っても
- 1655 **kamui akkari**
カムイ アッカリ
神 まさる
神以上に
- 1656 **buri sama**
ブリ サマ
行い そば
その行動が
- 1657 **a-eanasap be**
ア・エアナサプ ベ
人々・持てあます もの
黙認されている者
- 1658 **ne yak a-ye p**
ネ ヤク ア・イエ プ
である ということ 言われる もの
だといわれているお方に
- 1659 **oikkeu sakno**
オイッケウ サクノ
原因 無くて
理由もなく
- 1660 **omoto sakno**
オモト サクノ
元 無くて
理不尽に
- 1661 **chishimemokka**
チシメモッカ
挑発される
挑戦を
- 1662 **e-ekarkar ko,**
エ・エカラカラ コ,
汝・する (条件)
しかけると、
- 1663 **orota eashiri**
オロタ エアシリ
そこで それこそ
そこではじめて

赤海亀になる

- 1664 mono an kane
モノ アン カネ
静かに ある (同時)
静かにして (?)
- 1665 am be ne wakusu
アム ベ ネ ワクス
ある もの である (接続)
いるのであっても (?)
- 1666 atui boknashiri
アトゥイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界
- 1667 tukarike un kuni
トゥカリケ ウン クニ
その手前 ある ように
の手前の所にいるように
- 1668 eramu p ne hawe.
エラム プ ネ ハウエ.
不詳 もの である 声
思うものだという。
- 1669 Hokure hokure!
ホクレ ホクレ!
早く 早く
さあざあ
- 1670 Oro tunashno
オロ トゥナシノ
所 早く
一刻も早く
- 1671 ainu matainu utara
アイヌ マタイヌ ウタラ
人間 女 たち
人間の女たちを
- 1672 hoshipbare
ホシヅバレ
戻す
戻す
- 1673 kunak ramu yan!"
クナク ラム ヤン!"
(引用) 思う (命令)
ようお考えください
- 1674 ari hawash chiki,
アリ ハワシ チキ,
(引用) 言われる (条件)
と言ったから、
- 1675 ar kamiashi
アラ カミアシ
全く 化物
大化け物は
- 1676 mina ne kuni p
ミナ ネ クニ プ
笑う である はずの もの
笑いなるもので
- 1677 eraunkuchi
エラウンクチ
喉元
のどの奥深くを
- 1678 komeshrototke
コメシロトツケ
壊れる音
ガラガラ
- 1679 koyashrototke,
コヤシロトツケ,
ビリビリビリ
ビリビリ響かせ、
- 1680 "Ohanakusu!
"オハナクス!
こしゃくにも
「しゃらくさい!
- 1681 Ponyaumbe
ボンヤウムベ
小さな本土人
ポイヤウンベ
- 1682 toiyaumbe
トイヤウムベ
汚い本土人
トイヤウンベ (くそ野郎)
- 1683 toyainu sani
トヤイヌ サニ
腐れアイヌ 子孫
くされ人間の血統
- 1684 wenainu sani
ウェナイヌ サニ
悪い人 子孫
悪い人間の血統
- 1685 atanan ainu
アタナン アイヌ
ただの 人間
ふつうの男が

- 1686 **nekon iki wa**
ネコン イキ ワ
どのように する (接続)
どうやって
- 1687 **taban ushike**
タバン ウシケ
これ・ある ところ
これなる住まい
- 1688 **koahun be**
コアフン ベ
入る もの
に入ってくるもん
- 1689 **ne wa tapne**
ネ ワ タプネ
である (接続) これである
だか知らんが、
- 1690 **iramshitnere!**
イラムシツネレ!
うるさいなあ
うるせいやい!
- 1691 **iramusausakka!***²⁶
イラムサウサッカ!
いらだつなあ
イライラするわい!
- 1692 **hembara bakno**
ヘムバラ バクノ
いつ まで
いつまで
- 1693 **koshimbuk kamui**
コシムブク カムイ
妖精 神
妖魔の大將は
- 1694 **ene hawokai i**[”]
エネ ハウオカイ イ”
このように 言う こと
グズグズ言ってるんだ]
- 1695 **ari hawash chiki,**
アリ ハワシ チキ,
(引用) 言われる (条件)
とそう言ったから、

4.3 魔神との戦い

- 1696 **tanepo konna**
タネポ コンナ
たった今 こそ
今こそ
- 1697 **tan arka itak**
タン アラカ イタク
この 痛い 言葉
この痛罵を
- 1698 **iotke shinne**
イオツケ シンネ
人を刺す のように
槍で突くがごとく
- 1699 **ituye shinne**
イトウイエ シンネ
人を斬る のように
刀で斬るがごとく
- 1700 **a-eraunkuchi**
ア・エラウンクチ
我・喉奥深く
われはのど奥
- 1701 **tununitara**
トゥヌニタラ
美しい音が響く
凜々と響かせ
- 1702 **ene okai i:**—
エネ オカイ イ:・・・
このように ある こと
このように言う。
- 1703 **“Honebeta!**
“ホネベタ!
何と
「何をぬかすか!
- 1704 **Annitne kamui**
アンニツネ カムイ
極悪である 神
極悪の魔神
- 1705 **arwen kamui**
アラウエン カムイ
ひどい 神
大悪神

*26 **i-ram-usausak-ka** <人の・心・いらだつ、ぼー
っとする・させる>

赤海亀になる

p. 33

- 1706 **utarorke!**
 ウタロロケ!
 たち
 どもよ!
- 1707 **Neptapteta!**
 ネプタプテタ!
 何ということか
 何だっつまあ!
- 1708 **shiknu ihoma p**
 シクヌ イホマ プ
 生きている 恐れる もの
 死にたくて
- 1709 **tusa ihoma p**
 トッサ イホマ プ
 快復する 恐れる もの
 くたばりたくて
- 1710 **ye hawe**
 イエ ハウエ
 言う 声
 言っていること
- 1711 **okai be ne ya?**
 オカイ ベ ネ ヤ?
 ある もの である (疑問)
 なのか?
- 1712 **Heru ainu ne**
 ヘル アイヌ ネ
 ただの 人間 として
 人間同士から
- 1713 **i-y-ekarkar yakka**
 イ・イエカラカラ ヤクカ
 我・する (譲歩)
 言われても
- 1714 **a-toineramu p,**
 ア・トイネラム プ,
 我・強く思う もの
 忌々しいのに、
- 1715 **konep ikkewe**
 コネプ イクケウエ
 何 元
 いかなる理由に
- 1716 **eonebare**
 エオネバレ
 ために
 もとづいて
- 1717 **Atui boknashiriumbe**
 アトゥイ ボクナシリウムベ
 海 冥府に住む人
 海の冥界王
- 1718 **shinnai wen bito**
 シンナイ ウェン ビト
 違った 悪い 人
 異界の悪の帝王
- 1719 **wen nitne kamui**
 ウェン ニツネ カムイ
 悪い 悪い 神
 極悪魔神が
- 1720 **ohanakusu!**
 オハナクス!
 こしゃくにも
 しゃらくさい。
- 1721 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチの
- 1722 **kamui ewaki**
 カムイ エワキ
 神 住まい
 神居
- 1723 **koahun kane**
 コアフン カネ
 入る (同時)
 に忍び込んで、
- 1724 **chikomattekuk^{*27}**
 チコマツテクク
 女を略奪すること
 わが妻を
- 1725 **i-y-ekarkar.**
 イ・イエカラカラ.
 我・する
 略奪した。

*27 **ci-ko-mat-tek-uk ekarkar** < (名詞句接頭語)、～すること・～に対して・女の・手・を取る、を奪う＝妻を盗むこと/をする > 女を略奪する(?) 参考: **komat-uk = mateikka**(久 137)、**mat-e-ikka = komat-uk** 妻をぬすむ(久 154) yaikotan ka/eshina kane/chikomattekuk/i-y-ekarkar rusui 《萱野訳》「自分の村の名前を/隠して/私の妻を/かどわかそうと」(教 XVII 47)

第4章 海の冥界

- 1726 **Chikosomokur-**
チコソモクル・
(否定)
おそれはばかりも
- 1727 **yaikatanu**
ヤイカタス
畏れはばかり
せず
- 1728 **kamui turanno ki.**
カムイ トウランノ キ.
神 ともに する
神と共に妻も拐かした。
- 1729 **Kashikobakta**
カシコバクタ
その上に
その上で
- 1730 **hemanta tapne**
ヘマンタ タプネ
何 これである
何をいまさら
- 1731 **ye hawe-**
イエ ハウエ・
言う その声
ごちゃごちゃ言ってる
- 1732 **okai be ne ya?**
オカイ ベ ネ ヤ?
ある 物 である (疑問)
のか。
- 1733 **Hokure hokure!**
ホクレ ホクレ!
早く 早く
いざいざ。
- 1734 **Ponyaumbe**
ポニヤウムベ
小さな本土人
ポイヤウンベ
- 1735 **toyainu sani**
トヤイス サニ
腐れアイヌ 子孫
憎むべき人間の血統
- 1736 **wenainu sani**
ウェナイヌ サニ
悪い人 子孫
汚れた人間の血統が
- 1737 **atui boknashiri bakno**
アトウイ ボクナシリ バクノ
海 冥府 まで
海の冥界まで
- 1738 **mat noshba wa**
マツ ノシバ ワ
女 追う (接続)
妻のあとを追いかけて
- 1739 **ek na!**
エク ナ!
来る ぞ
来たぞ。
- 1740 **I-komoimoike yan!**
イ・コモイモイケ ヤン!
我・動く (命令)
われにかかって来い!
- 1741 **Ikanebeka**
イカネベカ
決して
もし
- 1742 **Ponyaumbe**
ポニヤウムベ
小さな本土人
このポイヤウンベに
- 1743 **anraboki-**
アンラボキ・
全敗
全敗を
- 1744 **e-kar i yakne**
エ・カラ イ ヤクネ
汝・する こと (条件)
汝がしたら
- 1745 **shukup nuraukot**
シュクフ ヌラウコツ
成長する 恥
生涯の間生きはじを
- 1746 **e-kore-an**
エ・コレ・アン
汝・与える・我
汝に与えて
- 1747 **kusu ne na.**
クス ネ ナ.
(理由・目的) である ぞ
やろうぞ。

赤海亀になる

- 1748 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 小さな本土人
 ポイヤウンベの
- 1749 **shimoye shiri**
 シモイエ シリ
 働く 様子
 働きざま
- 1750 **moimoike shiri**
 モイモイケ シリ
 動く 様子
 戦いぶりを
- 1751 **pirikano**
 ピリカノ
 良く
 よつくと
- 1752 **nukar wa**
 ヌカラ ワ
 見る (接続)
 見て
- 1753 **chikomoimoike**
 チコモイモイケ
 動く
 われにかかって
- 1754 **i-y-ekarkar**
 イ・イエカラカラ
 我・する
 くる
- 1755 **kunak ramu yan!"**
 クナク ラム ヤン!"
 (引用) 思う (命令)
 がいい」
- 1756 **Itak-an awa,**
 イタク・アン アワ,
 言う・我 (展開)
 われがそう言ったら
- 1757 **ar kamiashi**
 アラ カミアシ
 全く 化物
 大化け物
- 1758 **utarorke**
 ウタロロケ
 たち
 たちは
- 1759 **tanepo konna**
 タネポ コンナ
 たった今こそ
 今はじめて
- 1760 **shine ikinne**
 シネ イキンネ
 一つの 列として
 いっしょに
- 1761 **i-koshikraiba.**
 イ・コシクライバ.
 我・見る
 われに目を向けた。
- 1762 **A-urarihi**
 ア・ウラリヒ
 我・霞
 わが身にまとうもやを
- 1763 **shikeshitaiki p**
 シケシタイキ プ
 目撃する もの
 目ざとく見てとり
- 1764 **tu urar ikkeu**
 トウ ウララ イクケウ
 二つの 霧 元
 幾重もの霧の中心
- 1765 **re urar ikkeu**
 レ ウララ イクケウ
 三つの 霧 元
 何重もの霧の中心を
- 1766 **i-kocharikarba.**
 イ・コチャリカラバ.
 我・払う
 かき散らす。
- 1767 **Hokaetok am be**
 ホカエトク アム ベ
 横座 ある もの
 横座にいた者は
- 1768 **huihuinawano**
 フイフイナワノ
 隅々まで
 すみずみまで
- 1769 **i-uwambare.**
 イ・ウワムバレ.
 我・調べる
 われをじっと観察した。

p. 34

- 1770 **Kanibor kashi**
カニボロ カシ
顔色 上
そやつの顔色
- 1771 **koraikosanu,**
コライコサヌ,
青ざめる
死人のようにさっと青ざめ、
- 1772 **hottur ka ta**
ホットウル カ タ
前額 上 (場所)
からだじゅう
- 1773 **kotususatki. Aine**
コトウスサツキ. アイネ
ブルブル震える (接続)
わなわな震えた。そのあげく
- 1774 **inumbe oshmak**
イヌムベ オシマク
炬緑 陰
炬ぶちの板の背後で
- 1775 **chirirkoisum ne**
チリリコイスム ネ
滴る泡 として
ポトポト滴る泡となり
- 1776 **ruansoka**^{*28}
ルアンソカ
不詳
敷いてあるござの上で (?)
- 1777 **koninkosanu.**
コニンコサヌ.
消える
パッと消えてしまった。
- 1778 **Chikap korachi**
チカフ コラチ
鳥 ように
鳥のように舞い上がり
- 1779 **a-temka konna**
ア・テムカ コンナ
我・手元 は
わが手元が
- 1780 **barkosanu.**
バラコサヌ.
光る
パッと光る。
- 1781 **Shisotta am be**
シソッタ アム ベ
右座に ある もの
右座にいた
- 1782 **homatu rui be**
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
びっくり仰天している者を
- 1783 **a-montabire p**
ア・モンタビレ プ
人々・忙しくさせる もの
気がせいっていたもの
- 1784 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
である もの である (理由・目的)
だから
- 1785 **benrekuchi**
ベンレクチ
首
その首も
- 1786 **a-koetursere.**
ア・コエトゥルセレ.
我・共に落とす
いっしょに斬り落とす。
- 1787 **Shisotta an**
シソッタ アン
右座に ある
右座にあった

の中に/もぐったように」(教 25-70)

*28 不詳。ruan-so ka <本当の・座 上>右座の上 (?), ru-an-so ka <道・の・座、床上> (?) 同様な文例では amso utur 《萱野訳》「ござのあいだへ」(教 II 94) というのがある。ruan 「本当ノ、マコトノ」(久 228) ruan pito ne/ruan kamui ne 「昇天の尊の如く/昇天の神の如く」(金 II 316[金田一筆録、日高・新冠、サンキロット (和名留吉) 所伝カムイオイナ]) ruan nishka wa/peken rera ne 「はるかなる (脚注 : ruan = yayan ただの) 雲の上から/明るい風になって」(金 II 379[金田一筆録、日高・沙流、鍋沢ワカルバ 妻タクノ所伝カムイオイナ]) ru-an toi-ka wa/hopuni rera 「道の地の面てより/吹き起つ風」(研 W257) ruan toika/koninkosanu/oarar isam. 《萱野訳》「大地の中へ/さっとばかりに/潜ってしまった。】(教 VI 67) ruan toika/koninkosanu/semkorachi. 《萱野訳》「土

赤海亀になる

- 1788 **chishina suyop**
チシナ スヨブ
縛られる 箱
縛られている箱を
- 1789 **koshnepo ne**
コシネポ ネ
軽い子 として
まるで軽い子供のように
- 1790 **a-tekesaikari**.*29
ア・テケサイカリ.
我・手でつかむ
われは持ち抱えた。
- 1791 **Inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
辺りを見ると
- 1792 **oroyachiki**
オロヤチキ
驚いたことに
どうやら
- 1793 **shirar abushta***30
シララ アブシタ
岩 戸
岩の扉
- 1794 **shuma abushta**
シュマ アブシタ
石 戸
石の扉が
- 1795 **iwan ikinne**
イワン イキンネ
六人 列として
幾重にも
- 1796 **arusoshkamu**
アルソシカム
重なる
かぶさっている
- 1797 **ruwe ne rokokai.**
ルウェ ネ ロココイ.
跡 である (判明)
のであった。
- 1798 **Iwan ikinne**
イワン イキンネ
六人 列として
六重の扉を
- 1799 **a-makekatta**
ア・マケカッタ
我・ぐいと開ける
われパッと開け
- 1800 **soyoterke-an.**
ソヨテレケ・アン.
外に飛び出す・私
外へ跳び出した。
- 1801 **Tan boro chise**
タン ボロ チセ
この 大きい 家
この大館の
- 1802 **kitaina wano**
キタイナ ワノ
屋根の方 から
屋根のてっぺんから
- 1803 **ikkeu kiror**
イクケウ キロロ
腰 力
渾身のちから
- 1804 **montum kiror**
モントウム キロロ
腕の力 力
腕いっぱいいの力を
- 1805 **a-yaikosanke**
ア・ヤイコサンケ
我・産む
われしほり出し
- 1806 **a-kochinrikikur-**
ア・コチンリキクル・
我・足
足を高くあげて
- 1807 **eshitaiki,**
エシタイキ,
踏みつける
蹴飛ばし

*29 「tek-saikare <手・つかむ>が正しい」
(金 II 99) 「Tek-saikare, テクサイカレ, Tek-sayekare, テクサイエカレ, 捉フ. v.t. To seize with the hands.」 (B496)

*30 abushta「← apa-ush-ita <戸口・ついてある・板>日本風の板戸口のこと。もと簾を垂らして戸の代用をしていたものであるが、板というものが無かった代のことであるけれど、文学であるからこの様に和風に叙してある」(金 III 262)

- 1808 **A-shirkooterke.**
ア・シリコオテレケ。
我・強く踏む
踏みしだく。
- 1809 **Iki-an awa,**
イキ・アン アワ、
する・我 (展開)
そうしたところ、
- 1810 **taban boro shuma chise**
タバン ボロ シュマ チセ
これ・ある 大きい 石 家
これなる大岩屋が
- 1811 **chashi tura**
チャシ トウラ
チャシ とともに
柵とともに
- 1812 **ukaehorak**
ウカエホラク
崩壊する
崩れ落ち
- 1813 **ukaekone**
ウカエコネ
碎ける
粉々に散るその音
- 1814 **moshiri kuttom**
モシリ クットム
国土 中
国土の底に
- 1815 **koturimimse.**
コトゥリミムセ。
響き渡る
長々と鳴りとどろく。
- 1816 **Imakake ta**
イマカケ タ
その後 (場所)
その後で
- 1817 **annitne kamui**
アンニツネ カムイ
極悪である 神
大魔神が
- 1818 **iwan boknashiri**^{*31)}
イワン ボクナシリ)
六人 冥府
六重の黄泉の国
- 1819 **koarenbuina**
コアレブンイナ
真っ逆さまに
へ真っさかさまに
- 1820 **ahun hum konna**
アフン フム コンナ
入る 音 は
入っていく音が
- 1821 **kokumrakkumrak.**
コクムラックムラク。
ゴボゴボ鳴る
ゴボゴボゴボ。
- 1822 **Shimoshirba**^{*32)} **ne**
シモシリバ ネ
遙か国土の上端 へ
この国土の東端に
- 1823 **kohetuku**
コヘトウク
頭を出す
そやつが頭をもたげ
- 1824 **kush ne ko**
クシ ネ コ
ように である (条件)
ようとすれば
- 1825 **a-etushmak**
ア・エトゥシマク
我・競う
われは急いで
- 1826 **toyanramsura**
トヤンラムスラ
全力で
力いっぱい
- 1827 **a-ekanoterke.**
ア・エカノテレケ。
我・上から踏みつける
上から踏みつける。

p. 35

*31 「pok-na-shir <下・方・地>下界の國、即ち地獄。地下に六重の地獄ありといふ」(研763)

*32 「shi-moshir は i-moshir <この国土>の意に言っている。shi- は美称でその意は<大、真>をあらわす」(金II 20)

赤海亀になる

- 1828 **Bokna moshiri un**
ボクナ モシリ ウン
下方の 国土 (方向)
黄泉の国に
- 1829 **ahun hum konna**
アフン フム コンナ
入る 音 は
入っていく音が
- 1830 **kokumrakkumrak.**
コクムラックムラク.
ゴボゴボ鳴る
グブグブグブ。
- 1831 **Hontomota**
ホントモタ
途中で
その途中で
- 1832 **sui moshiri kesh un**
スイ モシリ ケシ ウン
再び 国土 末端 (方向)
また国土の西端に
- 1833 **koshibusu.**
コシブス.
出現する
そやつが出てきた。
- 1834 **Shimoshiri kesh wa**
シモシリ ケシ ワ
遙か国土の 末端 から
この国のはるか西端で
- 1835 **a-ekanoterke.**
ア・エカノテレケ.
我・上から踏みつける
われ頭の上から踏みつける。
- 1836 **tu noiwan sui**
トゥ ノイワン スイ
二つの 六つの 回
何十回
- 1837 **re noiwan sui**
レ ノイワン スイ
三つの 六つの 回
何百回
- 1838 **imakake ta**
イマカケ タ
その後 (場所)
終いには
- 1839 **teine boknashiri**^{*33}
テイネ ボクナシリ
湿った 冥府
じめじめした冥界
- 1840 **a-kooterke.**
ア・コオテレケ.
我・踏み落とす
まで踏みつけてやった。
- 1841 **Ahun tuika ta**
アフン トウイカ タ
入る 上 (場所)
冥界に沈む途中で
- 1842 **tu kamui rai hum**
トゥ カムイ ライ フム
二つの 神 死ぬ 音
たくさんの神が死ぬ音
- 1843 **re kamui rai hum**
レ カムイ ライ フム
三つの 神 死ぬ 音
いくつもの神が死ぬ音が
- 1844 **shitasare koro**
シタサレ コロ
自分に逆らって行かせる (同時)
交叉しながら
- 1845 **ahun. Aine**
アフン. アイネ
入る (接続)
入っていった。やがて
- 1846 **kohumokake**
コフモカケ
音の後
その音のあと
- 1847 **chakkosanu.**
チャッコサヌ.
静まり返る
空がパッと明るく晴れた。

^{*33} **teyne pok-na-sir** 「<湿っている・下・の方・地>魔の住む冥界のこと (金 I 159)、<湿った冥界> (金 I 376)、「じめじめした下界の意。悪人の霊が死後に行く世界。teyne mosir と同じ」(地 129)

4.4 山川姫と小東姫の救出

- 1848 **Rabokita**
ラボキタ
間に
その間
- 1849 **isenramkusu**
イセンラムクス
いつものように
いつものとおり
- 1850 **a-turen kamui**
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
わが憑神
- 1851 **utarorke**
ウタロロケ
たち
たちが
- 1852 **tu nishte^{*34} humi**
トゥ ニシテ フミ
二つの かたい 音
たくさんの堅い音
- 1853 **re nishte humi**
レ ニシテ フミ
三つの かたい 音
いくつもの堅い音を
- 1854 **i-enkaotte.**
イ・エンカオツテ.
我・上で連なる
わが頭上に響かせる。
- 1855 **Tane eashiri^{*35}**
タネ エアシリ
今 それこそ
今こそ
- 1856 **tu shup ne rera**
トゥ シュブ ネ レラ
二つの 渦 である 風
いくつもの竜巻が
- 1857 **rera etoko**
レラ エトコ
風 前方
その風先に
- 1858 **numushnu kaukau**
ヌムシヌ カウカウ
大粒である 霰
大粒のあられ
- 1859 **numushnu apto**
ヌムシヌ アプト
大粒である 雨
大粒の雨を
- 1860 **chierapte.**
チエラapte.
落下している
降りそそいだ。
- 1861 **Rabokita**
ラボキタ
間に
そのうち
- 1862 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
アイヌラックルわが小兄の
- 1863 **kon rorumbe**
コン ロルムベ
持つ 戦闘
その戦い
- 1864 **kot tumunchi**
コツ トウムンチ
持つ 戦争
その戦さが
- 1865 **oroneambe**
オロネアムベ
はなはだしく
いっそうはげしく
- 1866 **otukitara.**
オトゥキタラ.
生じる
高まり起きる。
- 1867 **Uraike teksam**
ウライケ テクサム
戦場 すぐそば
合戦のわきを
- 1868 **taban boro shuyop**
タババン ボロ シュヨブ
これ・ある 大きい 箱
これなる大箱を

*34 原綴 nushte

*35 原綴 ashiri

赤海亀になる

- 1869 **an-eshiyarbok-**
アネシヤラボク・
我・脇の下
われは小脇に
- 1870 **amba kane,**
アムバ カネ,
持つ (同時)
抱えて、
- 1871 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
わが小兄の
- 1872 **teksama ta**
テクサマ タ
すぐそば (場所)
すぐそばに
- 1873 **chikap reu shiri**
チカフ レウ シリ
鳥 (鳥が) とまる 様子
鳥が木の枝に止まるように
- 1874 **a-shikobayar**
ア・シコバヤラ
我・見せかける
スーッと降りた。
- 1875 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
アイヌラックルわが小兄と
- 1876 **Huremaupo**
フレマウポ
(伝説上の人名)
フレマウポ
- 1877 **rewarewakkuru**
レワレワックル
草人形
レワレワックルの
- 1878 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄
- 1879 **utarorke**
ウタロロケ
たち
たちが
- 1880 **shine ikinne**
シネ イキンネ
一つの 列として
いっせいに
- 1881 **i-kohosarba**
イ・コホサラバ
我・振り返る
わが方に振り向き
- 1882 **sancha otta**
サンチャ オッタ
口元 (場所)
ニコニコ
- 1883 **mina kane.**
ミナ カネ,
笑う (同時)
笑いかけた。
- 1884 **Pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
小兄は
- 1885 **shietu uina**
シエトゥ ウイナ
鼻 手に取る
自分の鼻をつかみ
- 1886 **shibar uina**
シバラ ウイナ
自分の口 手に取る
自分の口をおさえて
- 1887 **i-ramye haukan-**
イ・ラムイエ ハウカン・
我・褒め称える 声の末尾
われを褒め称える声の末尾を
- 1888 **kari kane,**
カリ カネ,
回る (同時)
あげながら、
- 1889 **“Sonno hetapne**
“ソノノ ヘタプネ
真に これ
「ほんとにまあ!
- 1890 **an-ak tonoke**
アナク トノケ
我・弟 殿
わが弟殿

- 1891 moshiri koro kamui
モシリ コロ カムイ
国土 持つ 神
国を司る神よ
- 1892 ebenuburbe^{*36} hene
エベヌブルベ ヘネ
血筋がよい も
立派な血筋の人
- 1893 ne rok be kusu
ネ ロク ベ クス
である (完了) もの (理由・目的)
であったからこそ
- 1894 shimoiba hetap
シモイバ ヘタプ
働き これ
立派な働き
- 1895 moimoike hetapne
モイモイケ ヘタプネ
動く これ
いい仕事をしたんだなあ。
- 1896 Ituren tura
イトウレン トウラ
憑く とともに
憑神ともども
- 1897 iramkursere!
イラムクルセレ!
恐ろしい
おどろくべき
- 1898 iramtoinere!
イラムトイネレ!
驚く
たまげた
- 1899 ki humi okai! ”
キ フミ オカイ! ”
する 気配 ある *****
働きであったなあ」
- 1900 Arkehe ta
アラケヘ タ
半分 (場所)
とその一方で
- 1901 kewe chihumsu^{*37}
ケウエ チフムス
身体 無事を祝す
われの無事を慶んで
- 1902 i-y-ekarkar kane.
イ・イエカラカラ カネ.
我・する (同時)
くれた。
- 1903 Tata otta
タタ オッタ
ここ (場所)
そこで
- 1904 tan boro suyop
タン ボロ スヨブ
この 大きい 箱
この大箱を
- 1905 chishina atu
チシナ アトゥ
縛られる 紐
縛っている紐を
- 1906 a-emushkushbare,
ア・エムシクシバレ,
我・刀を通して切る
刀で斬って
- 1907 kankamubi
カンカムビ
覆い
上蓋を
- 1908 an-etursere.
アネトゥルセレ.
我・はらいとばす
払い落とした。
- 1909 Suyo p oshke wa
スヨp オシケ ワ
***** 中 から
箱の中には
- 1910 konepkeukata!
コネプケウカタ!
何ということか
おおかわいそうに

^{*36} 「epe-nupur-pe <血すじ・濃い・もの>親・先祖の血すじが濃く流れている人」(金 III 67)

^{*37} kewe-chi-humsu = chi-kewehumsu。「kewe homsupa ケウエ ホスバ 【連他動詞】(複数形)(kewe homsu は単復の区別なし)(二人以上が皆で)危なかったことの見舞いを言う《平賀サダモ説》」(田 299)

赤海亀になる

- 1911 **Kimunnaiummat**
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫が
- 1912 **ear mour**
エアラ モウル
ただ一つ 女性の肌着
たった一枚の肌着を
- 1913 **chikonoiba kane**
チコノイバ カネ
たなびく (同時)
身につけて
- 1914 **kamui shiri ne**
カムイ シリ ネ
神 様子 である
神のようなお姿で
- 1915 **okai wa.**
オカイ ワ.
ある (接続)
いらした。
- 1916 **Chitursere oshi**
チトゥルセレ オシ
ポタッと落ちる 中(?)
払い落とされた上蓋の中から
- 1917 **chitursere p**
チトゥルセレ プ
ポタッと落ちる もの
落とされたものを
- 1918 **a-nukar kusu**
ア・ヌカラ クス
我・見る (理由・目的)
見ると、
- 1919 **a-ye rok okai**
ア・イエ ロク オカイ
言われる (完了) ある
話に聞いていた
- 1920 **Ponchupkaummat**
ポンチュプカウムマツ
小東の女人
小東姫は
- 1921 **imeru kusu**
イメル クス
光 (理由・目的)
光のせいで
- 1922 **urar kusu**
ウララ クス
霧 (理由・目的)
もやのせいで
- 1923 **a-nukar poka**
ア・ヌカラ ボカ
我・見る さえ
よく見ることさえ
- 1924 **ewen kane.**
エウエン カネ.
よくない (同時)
しにくかった。
- 1925 **Tampa newa**
タムパ ネワ
今年 であって
年頃は
- 1926 **Kimunnaiummat**
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫
- 1927 **an-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻より
- 1928 **ponno turkasuno**
ボンノ トゥルカスノ
少し 年かさに
ほんのすこし
- 1929 **shukup kotomno**
シュクプ コトムノ
成長する ように
年上らしく
- 1930 **a-ramu p**
ア・ラム プ
我・思う もの
思われる者は
- 1931 **inerokbekusu!***³⁸
イネロクベクス!
何とまあ
なんとまあ
- 1932 **shiretok ante wa**
シレトク アンテ ワ
美貌の人 あらしめる (接続)
ずばぬけた美貌を備えて

p. 37

*³⁸ *ineapkus* の複数形

- 1933 shiran nankor a.
シラン ナンコラ.
有様である だろう か
いただろうか。
- 1934 Attap kashi
アッタプ カシ
一方の肩 上
片方の肩の上から
- 1935 shikush rayochi
シクシ ラヨチ
日差し 虹
日光の虹
- 1936 attap ka wa
アッタプ カ ワ
一方の肩 上 から
もう一方の肩の上から
- 1937 ekai rayochi
エカイ ラヨチ
半折れの 虹
半輪の虹が
- 1938 chieomare
チエオマレ
入る
射している
- 1939 kimui kashi ta
キムイ カシ タ
頭 上 (場所)
頭上で
- 1940 unottasare*³⁹ p
ウノッタサレ プ
喉を交叉させる もの
交叉しているお方、
- 1941 kamui otobi
カムイ オトビ
神 髪
美しい髪が
- 1942 sarambeka ne*⁴⁰
サラムベカ ネ
絹糸 として
ekimui kashi

*³⁹ 「u-not-tasa-re <互いに・喉を・横切ら・せる>相交叉している。頭のいただきに相交叉している虹を龍か蛇躰などのように見て、頭の頂上で左右から喉を交叉していると叙す) (金 III 23)

- 頭に
- 1943 chiusurure,
チウスルレ,
ひろがり蔽っている
フサフサかぶさっており、
- 1944 reuboki ta
レウボキ タ
下 (場所)
その下に
- 1945 kamui sannanu
カムイ サンナス
神 顔
神々しいお顔が

*⁴⁰ kamui otopi/sarampe-ka ne/ekimui kashi/chiusurure, 「神髪は/絹糸のよう(脚注: sarampe-ka <絹・糸> ne <のようである>)/あたまの上を/ふさふさと掩う」(金 III 23) kamui otobi/sarampe ka ne/ekimui kashi/chiesurure, 「神髪は/絹の糸の如く/その頭上に/ひろがって掩いかぶさる(脚注: 沙流方言 chiesarare <ひろがる>という所),」(金 VII53) 同様の用例に sarampe kunne <絹のよう>がある。kamui otopi/sarampe kunne/ekimui kashi/chiusurure. 「神髪/黒絹の如くに(脚注: sarampe 絹など柔らかなる布。髪をたとへたは黒き絹のやうといふなるべし。こゝに云ふ sarampe は髪を縛る黒絹を云ふか)/その頭上に/打ち揃つてあり(脚注: 沙流の chi-u-sara-re か。sara <ひろがる>。u-sara-re <相ひろがらす>。chi-usara-re <相ひろがつてゐる>。前後左右へふさふさとどこも同じやうに揃つてさがつてゐるに云ふ。chiusurure は膽振方言)。(研 77)、神髪は/黒絹のよう/その頭の上/chiesu を蔽っている(脚注: 《知里》蔽っている。原綴は chiesure、(金 I 27)、美しい髪のは/黒絹のよう/頭の上を/きれいに掩って(・66)、美しい髪(脚注: kamui-otopi 神髪。美しい髪の意味にいう。女子のはふっくりとあつくふさふささがり、男子のは komomse(← komkomse) うねうね波状を成すという)/あたまの上に/絹糸のよう/揃つてさがっている(脚注: 《金成マツ》ひろがってかぶさっている)(金 III 123)」

赤海亀になる

- 1946 rikoma chup ne
 リコマ チュプ ネ
 高所にある 日 として
ちゅうてん
 冲天にある月のように
- 1947 i-nantasare.
 イ・ナンタサレ。
 我・返す
 照りはえている。
- 1948 Enewaboka
 エネワボカ
 どうにも
 どう
- 1949 a-reka i ka
 ア・レカ イ カ
 我・ほめる こと も
 表現しようも
- 1950 isam kane okai be,
 イサム カネ オカイ ベ、
 無い (同時) ある もの
 ないほど美しいお方が、
- 1951 ear mour
 エアラ モウル
 ただ一つ 女性の肌着
 たった一枚の肌着だけを
- 1952 chikonoiba kane.
 チコノイバ カネ。
 たなびく (同時)
 着ていた。
- 1953 Soine i moire
 ソイネ イ モイレ
 外出する こと 遅い
 外に出るやいなや
- 1954 oribak kane,
 オリバク カネ、
 畏まる (同時)
 彼女は慎み深くかしこ畏まり、
- 1955 chish turanno
 チシ トウランノ
 泣く ともに
 泣きながら
- 1956 itak ne manu p
 イタク ネ マヌ プ
 言葉 である という もの
 言葉なるもの
- 1957 eraunkuchi
 エラウンクチ
 喉元
 でのど奥を
- 1958 tununitara
 トウヌニタラ
 美しい音が響く
 美しく響かせ
- 1959 ene okai i:—
 エネ オカイ イ:・・・
 このように ある こと
 こう言った。
- 1960 “Koninkar kusu!
 “コニンカラ クス!
 さて (理由・目的)
 「申し上げます。
- 1961 Yaunkuru kamui
 ヤウンクル カムイ
 内地人 神
 陸人の神々
- 1962 utarorke!
 ウタロロケ!
 たち
 たちよ。
- 1963 Heru asuru a-nu yakka
 ヘル アスル ア・ヌ ヤクカ
 ただの 噂 我・聞く (譲歩)
 ただ噂に聞くだけでも
- 1964 ene hentapne
 エネ ヘンタップネ
 このように ででもか
 こんなにもまあ
- 1965 a-eoribak humi
 ア・エオリバク フミ
 我・畏れかしこまる 気配
 畏れ多いことで
- 1966 okai rok be,
 オカイ ロク ベ、
 ある (完了) もの
 ありますのに、
- 1967 a-wenrenkabi
 ア・ウエンレンカビ
 我・悪しき定め
 わたくしの

- 1968 **okai kusu**
オカイ クス
ある (理由・目的)
せいで
- 1969 **bokna moshiri bakno**
ボクナ モシリ バクノ
下方の 国土 まで
黄泉の国まで
- 1970 **arki wa**
アラキ ワ
来る (接続)
いらして
- 1971 **chikeutusare**
チケウトゥサレ
蘇生する
お助け
- 1972 **i-y-ekarkar**
イ・イエカラカラ
我・する
下さったことを
- 1973 **shino yayiraike-an.**
シノ ヤイライケ・アン.
まことに ありがたく思う・我
まことに感謝いたします。
- 1974 **Yakka tane teta**
ヤッカ タネ テタ
しかし 今 ここで
けれども今ここでは
- 1975 **tan korachi**
タン コラチ
この ように
このように
- 1976 **katu chiwente**
カトゥ チウエンテ
姿 痛めつけられる
わたくしは赤恥を
- 1977 **an-i-y-ekarkar,**
アニ・イエカラカラ,
我・される
かかされ、
- 1978 **ear mour**
エアラ モウル
ただ一つ 女性の肌着
たった一枚の肌着を
- 1979 **a-mi kane,**
ア・ミ カネ,
我・着る (同時)
着ただけで、
- 1980 **shibopkep sakno**
シボアケア サクノ
着る物 無く
暖かい着物もなく
- 1981 **rutekne-an*41 kane.**
ルテクネ・アン カネ.
素手である・我 (同時)
裸同然です。
- 1982 **Ponnoka**
ボンノカ
少しも
わずかばかりの
- 1983 **an-e-yayattasa p poka**
アネ・ヤヤッタサ プ ポカ
我・汝・に償う もの さえ
お返しすら
- 1984 **a-sak kusu,**
ア・サク クス,
我・欠く (理由・目的)
持っていないので、

p. 38

*41 ru-tek-ne-an <ちよっとの、ru-hayta などの ru・手・になる・われは>われはほとんど何も持っていない、素手である。参考：「rutek 徒手、空拳」(久 230) I-resu yubi/homatu rui be/ne p ne kusu/rutekne shiri/pannutap ta/teshkosanu awa, 《萱野訳》「聞いた兄上は/おどろきのあまり/なるが故に/手には何一つの武器も持たず(分解訳：ru-tek-ne shiri <素・手・なる様子>)/下の原っぱへ/飛んで行った。」(教 II 22) ohainekane/rutekne-an shiri/tane anakne/engewaboka/iki-an i ka/oarar isam. 《萱野訳》「全く持って/素手になり(分解訳：ru-tek-ne-an <ただ・手・なる・ある>)/どうする事も/できなくなった。」(教 V 43) sonno ambe/e-sermaka a-ush wa/rutekne shiri/taban tumunchi/e-kore ruwe ne. 《萱野訳》「本当に/お前を助け/武器を持たない/この戦/お前がした。」(教 V 77) rutekne-an shiri/hayok saknopo/menoko ehotke p/a-mi kane. 《萱野訳》「素手の私(分解訳：<ru-tek-ne-an <素・手・なる・ある>)/武具のない私/女の夜着/一枚だけで」(教 XIX 173)

赤海亀になる

- 1985 **kanna moshiri**
 カンナ モシリ
 上 国土
 人間界
- 1986 **a-koshibusu,**
 ア・コシブス,
 我・に現れ出る
 に浮きあがり、
- 1987 **a-kor kotani**
 ア・コロ コタニ
 我・もつ 村
 わが村
- 1988 **a-kohekomo wa**
 ア・コヘコモ ワ
 我・引き返す (接続)
 へわたくしが戻った
- 1989 **ne yakne,**
 ネ ヤクネ,
 である (条件)
 ならば、
- 1990 **i-resu yubi**
 イ・レス ユビ
 我・育てる 兄
 わが育ての兄が^が
- 1991 **pirika kuni ne**
 ビリカ クニ ネ
 良い ように として
 よきように
- 1992 **esanniyo kusu**
 エサンニヨ クス
 考慮する (理由・目的)
 とり計らってくださる
- 1993 **ne ruwe taban.**
 ネ ルウエ タバン.
 である 跡 これ・ある
 でありましょう。
- 1994 **Sonno hetapne**
 ソンノ ヘタパネ
 真に これ
 ほんとにまあ
- 1995 **ochiu tusupo**
 オチウ トゥスポ
 姦通 ちょっとした巫術
 つまらない巫術
- 1996 **kinin tusupo**
 キニン トゥスポ
 淫乱 ちょっとした巫術
 つたない巫術
- 1997 **eyaishikkashima p**
 エヤイシクカシマ プ
 みずから守る もの
 で身を守っている
- 1998 **a-ne awa,**
 ア・ネ アワ,
 我・である (展開)
 わたくしでしたが、
- 1999 **i-kashkamui**
 イ・カシカムイ
 我・守護神
 わたくしの守り神
- 2000 **kotaba^{*42} an**
 コタバ アン
 不詳 ある
 (?)
- annitne kamui** 大魔神が^が
 2001 **nitne kamui moshiri**
 ニツネ カムイ モシリ
 悪い 神 国土
 魔界の
- 2002 **moshiri upsoro**
 モシリ ウツソロ
 国土 内部
 彼らの国の中に
- 2003 **i-otura bakno**
 イ・オトゥラ バクノ
 我・連れて来る まで
 わたくしを連れて来るまで
- 2004 **ki ruwe**
 キ ルウエ
 する 跡
 彼がしたこと
- 2005 **yayikush keutum**
 ヤイクシ ケウトウム
 悔しさ 心
 口惜しい気が^が

*42 不詳。

- 2006 a-kor ruwe ne yakka,
ア・コロ ルウェ ネ ヤクカ,
我・もつ 跡 である しかし
していたのですが、
- 2007 hunak ta ebak
フナク タ エバク
どこ (場所) 並ぶ
よくこそまあ幸いにも
- 2008 kamui rametok
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄
- 2009 utarorke
ウタロロケ
たち
たちが
- 2010 okai kushkeraipo
オカイ クシケライポ
ある おかげで
いらしたおかげで
- 2011 shiknu-an
シクヌ・アン
生きている・我
わたくしは助かった
- 2012 ruwe okai!"
ルウェ オカイ!"
跡 ある
のでございますねえ」
- 2013 ari itak kane
アリ イタク カネ
(引用) 言う (同時)
と彼女は言っ
- 2014 otu chishwembe
オトゥ チシウエムベ
二つの 涙
たくさんの涙
- 2015 ore chishwembe
オレ チシウエムベ
三つの 涙
いくつもの涙
- 2016 yayekote.
ヤイエコテ.
自分に結びつける
にかきくれた。
- 2017 Shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
彼女がそうするから
- 2018 Kimunnaiummat
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫
- 2019 an-tureshipo
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻
- 2020 newa ne yakka
ネワ ネ ヤクカ
であって である (譲歩)
も
- 2021 chish turanno
チシ トウランノ
泣く とともに
泣きながら
- 2022 oshserke^{*43} haukan-
オシセレケ ハウカン・
驚く 声の末尾
たまげた声の裏声
- 2023 kari kane,
カリ カネ,
回る (同時)
をあげ、
- 2024 "Annitne kamui
"アンニツネ カムイ
極悪である 神
「大魔神が
- 2025 chinuburkasure
チヌブルカスレ
霊力が強い
いくら霊力が強すぎる

p. 39

^{*43} os-serke 「恐れる、たまげる」(金 I 287)、
shietu-uina/shipar-uina/oshserke(脚注：原綴
ishserke) haukan/kari kane, 「おのが鼻を掩
い/おのが口を掩い/たまげた声(脚注：osh-
serke-hau-kan <はらわた・ちぎれる・声の・
うら>)が/めぐりながら、」(金 I 317)

赤海亀になる

- 2026 ne yakka
ネ ヤクカ
である (譲歩)
にしても
- 2027 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
度を超えて
- 2028 i-y-ekarkar shiri
イ・イエカラカラ シリ
我・する 様子
わたくしよりも優る様
- 2029 sonno yaiyekatu-
ソンノ ヤイエカトウ・
真に 恥ずかしい
ほんとに恥ずかしい思いを
- 2030 wen-an!" ari
ウエン・アン!" アリ
悪い・我 (引用)
しましたわ」と
- 2031 itak kane,
イタク カネ,
言う (同時)
言って
- 2032 tu wemba kamui
トゥ ウェムバ カムイ
二つの 悪口 神
たくさんの悪口
- 2033 re wemba kamui
レ ウェムバ カムイ
三つの 悪口 神
いくつもの悪口を
- 2034 oshirotatpa.
オシロタツパ,
そこらにぶちまける
吐き散らした。
- 2035 Tu pirika kuni p
トゥ ピリカ クニ プ
二つの 良い はずの もの
ことばをつくして
- 2036 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ プ
三つの 良い はずの もの
条理をつくして
- 2037 an-ebakashnu.
アネバカシヌ。
我・教える
われは妻をなだめた。
- 2038 Pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
アイヌラツクルの小兄は
- 2039 Ponchupkaummat
ポンチュエカウムマツ
小東の女人
小東姫に
- 2040 tu pirika kuni p
トゥ ピリカ クニ プ
二つの 良い はずの もの
いろいろのよいこと
- 2041 re pirika kuni p
レ ピリカ クニ プ
三つの 良い はずの もの
たくさんのよいことを
- 2042 ebakashnu.
エバカシヌ。
言い聞かせる
教え聞かせた。

第5章

帰郷

5.1 ポイヤウンベ、停戦を提案す

- 2043 **Rabokita**
ラボキタ
間に
その間も
- 2044 **kotanba ta**
コタンバ タ
村の上端 (場所)
村のかみで
- 2045 **kotankesh ta**
コタンケシ タ
村の下端 (場所)
村のしもて
- 2046 **kanak okai be**
カナク オカイ ベ
誰 ある もの
何者か
- 2047 **tumunchi niukesh**
トゥムンチ ニウケシ
戦争 しかねる
戦さができない
- 2048 **rorumbe niukesh**
ロルムベ ニウケシ
戦闘 しかねる
非戦闘員である
- 2049 **menoko utar**
メノコ ウタラ
女 たち
女たちや
- 2050 **hekattar utar**
ヘカッタラ ウタラ
子供 たち
子供たちの
- 2051 **wen barabarak hawe**
ウェン バラバラク ハウエ
悪い 泣き叫ぶ 声
激しく泣き叫ぶ声
- 2052 **kotan upsoro**
コタン ウフソロ
村 内部
村じゅうに
- 2053 **bebunitara.**
ベブニタラ.
騒がしい
騒がしく起こっていた。
- 2054 **Hawash chiki**
ハワシ チキ
言われる (条件)
それを聞いて
- 2055 **an-esambeka-**
アネサムベカ・
我・心臓の上
わがところに
- 2056 **ororke.**
オロロケ.
所
不憫を覚えた。
- 2057 **A-kutsam konna**
ア・クッサム コンナ
我・のど奥 は
われは喉奥を

赤海亀になる

- 2058 uwetunuise
ウウェトウヌイセ
美しく響く
美しくふるわせ
- 2059 ene okai i,
エネ オカイ イ,
このように ある こと
こう言った。
- 2060 “Koninkar kusu!
“コニンカラ クス!
さて (理由・目的)
「これこれ
- 2061 pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
わがが小兄
- 2062 kamui ne am be
カムイ ネ アム ベ
神 である ある もの
お偉いお方を、
- 2063 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 (条件)
わが言うことを
- 2064 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
良く 聞く (接続)
よく聞いて
- 2065 i-kore kunak
イ・コレ クナク
我・与える (引用)
くださると
- 2066 ramu yan!
ラム ヤン!
思う (命令)
思いたまえ。
- 2067 Atui boknashiri
アトゥイ ボクナシリ
海 冥府
海の冥界
- 2068 esabane
エサバネ
支配する
その王である
- 2069 arwen kamui
アラウエン カムイ
ひどい 神
極悪の神
- 2070 arwen bito
アラウエン ビト
ひどい 人
極悪のお人がが
- 2071 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間界
- 2072 moshiri upsoro
モシリ ウプソロ
国土 内部
その国土の中
- 2073 koirara kusu
コイララ クス
悪戯する (理由・目的)
に悪さをしかけて
- 2074 Ponchupkaummat hemem
ポンチュプカウムマツ ヘメモ
小東の女人 も
小東姫と
- 2075 a-tureshipo hene
ア・トゥレシポ ヘネ
我・妹 も
わが妻を
- 2076 tekebashte. Yakka
テケバシテ. ヤッカ
拐かす しかし
略奪していったが
- 2077 tane obittano
タネ オビッタノ
今 皆
今はもうすべて
- 2078 nep iyunin
ネプ イユニン
何 苦痛
何の痛みも
- 2079 nep wembe
ネプ ウェムベ
何 悪いもの
何の怪我

p. 40

- 2080 **koisamno**
 コイサムノ
 無く
 もなく
- 2081 **oshi a-uina okere.**
 オシ ア・ウイナ オケレ.
 中(?) 我・取る (完了)
 その中からわれが奪い返した。
- 2082 **Arwen bito**
 アラウエン ビト
 ひどい 人
 極悪の神
- 2083 **newa ne yakka**
 ネワ ネ ヤッカ
 であって である (譲歩)
 も
- 2084 **ewak ushike**
 エワク ウシケ
 住む ところ
 その棲み家
- 2085 **turanno**
 トウランノ
 ともに
 ごと
- 2086 **teine boknashiri**
 テイネ ボクナシリ
 湿った 冥府
 じめじめした黄泉の国
- 2087 **a-koahunke okere.**
 ア・コアフンケ オケレ.
 我・入れる (完了)
 へ蹴落としてやった。
- 2088 **Tan te wano**
 タン テ ワノ
 この これ から
 今これからは
- 2089 **nep ne ushi ka**
 ネブ ネ ウシ カ
 何 である ところ も
 何者がいた場所かも
- 2090 **koyairambetek**
 コヤイラムベテク
 わからない
 わからなくなった
- 2091 **ruwe ne.**
 ルウエ ネ.
 跡 である
 のだ。
- 2092 **Use utari ne p**
 ウセ ウタリ ネ プ
 並の 村人 である もの
 一般人は
- 2093 **obitta eiyokamkir**
 オビッタ エイヨカムキリ
 皆 知っている
 みな何も関係
- 2094 **somoki p,**
 ソモキ プ,
 しない もの
 ないのに、
- 2095 **shinnai utar**
 シンナイ ウタラ
 違った 村人
 別のやつ
- 2096 **shinnai bito**
 シンナイ ビト
 違った 人
 別の神みたいな方
- 2097 **utarorke**
 ウタロロケ
 たち
 たちが
- 2098 **ikichi yakka,**
 イキチ ヤッカ,
 する (譲歩)
 悪さをしたのであっても、
- 2099 **ouse shinen**
 オウセ シネン
 ただ(だけ) 一人
 たった一人が
- 2100 **koro wemburi ari**
 コロ ウェムブリ アリ
 持つ 悪い振る舞い で
 した悪行でもって
- 2101 **taban moshiri**
 タバン モシリ
 これ・ある 国土
 この世界

赤海亀になる

- 2102 **ebittano**
エビッタノ
一面中
すべてを
- 2103 **arshitteke**
アラシッテケ
全ての枝葉
跡形もなく
- 2104 **a-koisamka** ka
ア・コイサムカ カ
無くさせられる も
われらが絶やしてしまうのは
- 2105 **chiokunnure**
チオクヌレ
驚き呆れること
いかなものかと
- 2106 **an-ekarkar***1 na.
アネカラカラ ナ.
我・する ゴ
思いますぞ。
- 2107 **Tan te wano**
タン テ ワノ
この これ から
今から
- 2108 **kanna moshiri**
カンナ モシリ
上 国土
人間界
- 2109 **a-kohoshippa ko**
ア・コホシッパ コ
我・戻る (条件)
へわれらが戻っては
- 2110 **wen ruwe hean?**"
ウエン ルウェ ヘアン?"
悪い 跡 なのか
悪かろうや?]
- 2111 **ari itak-an awa,**
アリ イタク・アン アワ,
(引用) 言う・我 (展開)
とわれが言ったところ、
- 2112 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
小兄は
- 2113 **eramupo-**
エラムポ・
その思いが
その心
- 2114 **bashkosanu.**
バシコサヌ.
パッと走る
すぐにやわらぎ、
- 2115 **"Ruwe un!**
"ルウェ ウン!
跡 ある
「そうじゃな。
- 2116 **Sonno sonno**
ソンノ ソンノ
真に 真に
まことまこと
- 2117 **e-ye p korachi**
エ・イエ プ コラチ
汝・言う もの ように
汝の言うとおり
- 2118 **ne ruwe taban.**
ネ ルウェ タバン.
である 跡 これ・ある
であるぞ。
- 2119 **Hoshkino**
ホシキノ
先に
最初に
- 2120 **aokai**
アオカイ
我
わしも
- 2121 **ene yainu-an i**
エネ ヤイヌ・アニ
このように 考える・我 こと
そのように思ったの
- 2122 **ne koroka**
ネ コロカ
である (逆接)
であるが、
- 2123 **chitomkokanu**
チトムコカヌ
よく従う(?)
汝の指図に

*1 原綴 Aenekarkar

- 2124 **e-ekarkar-an**
エ・エカラカラ・アン
汝・する・我
従おうとしていた
- 2125 **ruwe ne awa,**
ルウェ ネ アワ,
跡 である (展開)
ところ、
- 2126 **pirika kuni ne**
ピリカ クニ ネ
良い ように として
いいあんばいに
- 2127 **e-hawean.**
エ・ハウエアン。
汝・言う
汝が言ってくれた。
- 2128 **Tan*² a-ye i tapne**
タン ア・イエ イ タプネ
この 言われる こと これである
今言われたことは
- 2129 **rametok irenka**
ラメトク イレンカ
勇者 意図
勇士の決断
- 2130 **utarpa pirika irenka**
ウタラパ ピリカ イレンカ
首領 良い 意図
首領の見事な裁量
- 2131 **kamui ramuoshma**
カムイ ラムオシマ
神 同意する
神々も承知する
- 2132 **keutum ne.” ari**
ケウトウム ネ.” アリ
心 である (引用)
ころばえである」と
- 2133 **i-ramye haukan-**
イ・ラムイエ ハウカン・
我・褒め称える 声の末尾
われを賞賛する声の末尾を
- 2134 **kari kane.**
カリ カネ。
回る (同時)
裏声で発した。
- 2135 “**Yakun**
“ヤクン
(条件)
「ならば
- 2136 **tan te wano**
タン テ ワノ
この これ から
これから
- 2137 **hoshipba-an kusu ne.”**
ホシパバ・アン クス ネ.”
戻る・我ら (理由・目的) である
戻ることによよう」
- 2138 **ari itak kane,**
アリ イタク カネ,
(引用) 言う (同時)
と彼は言い、
- 2139 “**Chitekekarkuru**
“チテケカラクル
手製の神
「われらが手造りの神
- 2140 **kamui rametok anakne**
カムイ ラメトク アナクネ
神 勇者 は
神の勇士は
- 2141 **a-ashi nusa**
ア・アシ ヌサ
我・建てる 祭壇
わしが立てる幣の
- 2142 **nusaba wano**
ヌサバ ワノ
幣欄の上 から
幣の東端から
- 2143 **a-rikinte**
ア・リキンテ
我・上がらせる
神の国へ送らせ
- 2144 **kusu ne.” ari**
クス ネ.” アリ
(理由・目的) である (引用)
よう」と
- 2145 **itak kane**
イタク カネ
言う (同時)
言っ

p. 41

*2 原綴 tam

赤海亀になる

- 2146 **tamrawechiu.**
 タムラウエチウ。
 鞘に納める
 刀を鞘に納めた。
- 2147 **Kamui rametok utar**
 カムイ ラメトク ウタラ
 神 勇者 たち
 神雄たちも
- 2148 **obittano**
 オビッタノ
 皆
 みな
- 2149 **tamrawechiu.**
 タムラウエチウ。
 鞘に納める
 刀を鞘に納めた。
- 2150 **Taban tumunchi**
 タバン トウムンチ
 これ・ある 戦争
 これなる戦さは
- 2151 **tumunchi hontom**
 トウムンチ ホントム
 戦争 途中
 戦さ半ばで
- 2152 **chituitekka.**
 チトウイテッカ。
 ふと止む
 パタリと止んだ。
- 2153 **Shittoyakan**
 シットヤカン
 地上一帯
 地上地下
- 2154 **kokishnatara,**
 コキシナタラ、
 静まる
 シーンとして、
- 2155 **konep humi ka**
 コネプ フミ カ
 何 音 も
 何の音も
- 2156 **konep hawe ka**
 コネプ ハウエ カ
 何 声 も
 何の声も
- 2157 **oarar isam.**
 オアララ イサム。
 全く 無い
 まったくない。
- 2158 **Tata otta**
 タタ オッタ
 ここ (場所)
 ここにおいて
- 2159 **a-kor yubi**
 ア・コロ ユビ
 我・もつ 兄
 アイヌラックルわが兄が
- 2160 **hoshki ruino**
 ホシキ ルイノ
 先に 甚だしく
 まず先に
- 2161 **bet besh rera**
 ベツ ベシ レラ
 川 崖 風
 川づたいに下る風に
- 2162 **yaiturare.**
 ヤイトウラレ。
 横たえる
 身をまかす。
- 2163 **Setur kashike**
 セトウル カシケ
 背 上
 びったり続いて
- 2164 **Chitekekarkuru**
 チテケカラクル
 手製の神
 われらが手造りの神
- 2165 **pase kamui**
 パセ カムイ
 重い 神
 草人形の重き神も
- 2166 **yairarire.**
 ヤイラリレ。
 いる
 あとを追う。
- 2167 **Setur kashike**
 セトウル カシケ
 背 上
 その背後に

- 2168 **Huremaupo**
フレマウポ
(伝説上の人名)
フレマウポー赤禿の
- 2169 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄が
- 2170 **yairarire.**
ヤイラリレ.
いる
ぴたりと続く。
- 2171 **Setur kashike**
セトゥル カシケ
背 上
そのすぐ後ろに
- 2172 **a-yairarire,**
ア・ヤイラリレ,
我・みずからを押しつける
われが従い、
- 2173 **i-setur kashi**
イ・セトゥル カシ
我・背 上
われの背中に
- 2174 **Kimunnaiummat**
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫が
- 2175 **yairarire,**
ヤイラリレ,
いる
つき従い、
- 2176 **setur kashike**
セトゥル カシケ
背 上
その後ろに
- 2177 **Ponchupkaummat**
ポンチュプカウムマツ
小東の女人
小東姫が
- 2178 **yairarire.**
ヤイラリレ.
いる
ついて来る。
- 2179 **Bet esoro**
ベツ エソロ
川 沿って
川づたいに
- 2180 **sap-an humi**
サフ・アン フミ
下る・我 音
われらが降りていく音が
- 2181 **keurototke. Aine**
ケウロトツケ. アイネ
響く (接続)
轟々とひびく。やがて
- 2182 **atui shimbui**
アトゥイ シムブイ
海 泉
海の湧き水の穴から
- 2183 **a-ekosoyoshmamba.**
ア・エコソヨシマムバ.
我ら・パツと外へ出る
われらはパツと飛び出した。
- 2184 **Kanna atui**
カンナ アトゥイ
上 海
人間界の海は
- 2185 **atuiso kurka**
アトゥイソ クルカ
海面 上
海面が
- 2186 **komaknatara.**
コマクナタラ.
輝いている
明るく輝いていた。
- 2187 **pirika neto**
ピリカ ネット
良い 風
美しく風いだ海
- 2188 **neto kurkashi**
ネット クルカシ
風 上
風ぎの海面が
- 2189 **komaknatara.**
コマクナタラ.
輝いている
明るく光っている。

赤海亀になる

- 2190 **Neto kot chikap**
 ネット コツ チカフ
 風 持つ 鳥
 海鳥の
- 2191 **neto kor tori**
 ネット コロ トリ
 風 持つ 鳥
 沖の鳥の
- 2192 **raribe hawe**
 ラリベ ハウエ
 潜って餌をあさる 声
 潜って餌をあさる声々が
- 2193 **bebunitara.**
 ベブニタラ.
 騒がしい
 そうぞうしい。
- 2194 **Anramasu**
 アンラマス
 まったく好ましい
 まことに気持ちよく
- 2195 **an-uwesuye.**
 アヌウェスイエ.
 我・思う
 おもしろい。
- 2196 **Yap-an humi**
 ヤプ・アン フミ
 上陸する・我 音
 われらが帰参して飛ぶ音
- 2197 **an-ekisarsut**
 アネキサラスツ
 我・耳元
 耳元に
- 2198 **maukururu.**
 マウクルル.
 風が渦巻く
 風がうなる。
- 2201 **Shinutapka**
 シヌタフカ
 (地名)
 シヌタフカが
- 2202 **i-koyairiki-**
 イ・コヤイリキ・
 我・みずからの上
 眼前に高々と
- 2203 **bumba kane.**
 ブムバ カネ.
 上げる (同時)
 せりあがって来た。
- 2204 **Noshkike bakno**
 ノシキケ バクノ
 真中 まで
 中腹まで
- 2205 **kunne urar**
 クンネ ウララ
 黒い 霧
 黒いもやが
- 2206 **chikonoiba kane.**
 チコノイバ カネ.
 たなびく (同時)
 たなびいている。
- 2207 **Kaibok ka ta**
 カイボク カ タ
 海面 上 (場所)
 白波立つ領域まで
- 2208 **shireba-an ko**
 シレバ・アン コ
 到着する・我 (条件)
 われらが達すると
- 2209 **pon a-kor yubi**
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・もつ 兄
 小兄が
- 2210 **kaibok kurka**
 カイボク クルカ
 海面 上
 波打ち際に
- 2211 **chieashi.**
 チエアシ.
 立つ
 降り立った。

5.2 別れ

- 2199 **Tane ne kusu**
 タネ ネ クス
 今 として (理由・目的)
 今ははや
- 2200 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチ

- 2212 **I-kohosari**
 イ・コホサリ
 我・振り向く
 われらに振り向き
- 2213 **kutsam konna**
 クツサム コンナ
 喉元 は
 喉奥を
- 2214 **tununitara**
 トゥヌニタラ
 美しい音が響く
 美しくひびかせ
- 2215 **ene okai i:—**
 エネ オカイ イ:・・・
 このように ある こと
 こう言った。
- 2216 **“Koninkar kusu!**
 “コニンカラ クス!
 さて (理由・目的)
 「これこれ
- 2217 **An-ak tonoke!**
 アナク トノケ!
 我・弟 殿
 わが弟殿
- 2218 **moshiri koro kamui!**
 モシリ コロ カムイ!
 国土 持つ 神
 国を司る神よ
- 2219 **Itak-an chiki**
 イタク・アン チキ
 言う・我 (条件)
 わが申すことを
- 2220 **pirikano nu yan!**
 ビリカノ ヌ ヤン!
 良く 聞く (命令)
 よく聞きたまえ。
- 2221 **Ratchi omanan be**
 ラッチ オマナン ベ
 穏やかな 行き来する もの
 平和時にやって来たもの
- 2222 **a-ne yakne**
 ア・ネ ヤクネ
 我・である (条件)
 であるならば
- 2223 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチの
- 2224 **kamui ewaki**
 カムイ エワキ
 神 住まい
 麗しき住居
- 2225 **a-koshirikush wa**
 ア・コシリクシ ワ
 我・に立ち寄る (接続)
 に立ち寄って
- 2226 **tutko kane**
 トウツコ カネ
 二日 (同時)
 二日ほど
- 2227 **rerko bakno**
 レレコ バクノ
 三日(日数) まで
 三日ばかり
- 2228 **shini-an wa**
 シニ・アン ワ
 休む・一人 (接続)
 休んで
- 2229 **pirika p hene**
 ビリカ プ ヘネ
 良い もの も
 いいことでも
- 2230 **wem be hene**
 ウエム ベ ヘネ
 悪い もの も
 わるいことでも
- 2231 **abunnopo**
 アブンノポ
 少し静かに
 なごやかに
- 2232 **a-ki rusui be**
 ア・キ ルスイ ベ
 我・する (欲求) もの
 話したいもの
- 2233 **ne koroka,**
 ネ コロカ,
 である (逆接)
 であるが、

赤海亀になる

- 2234 **a-nisuk kamui**
ア・ニスク カムイ
招かれる 神
わしが呼んだ神
- 2235 **pase kamui**
パセ カムイ
重い 神
位の高き神
- 2236 **ne yakka a-tura.**
ネ ヤッカ ア・トゥラ.
である (譲歩) 我・連れる
も連れて来た。
- 2237 **Eebakita**
エエバキタ
次に
その上にまた
- 2238 **Ponchupkaummat**
ポンチュプカウムマツ
小東の女人
小東姫
- 2239 **anun tureshpo hemem**
アヌン トウレシポ ヘメモ
よその 妹 も
異族の若い娘も
- 2240 **chikeutusare**
チケウトウサレ
蘇生する
汝が救い
- 2241 **e-ekarkar wa**
エ・エカラカラ ワ
汝・する (接続)
出して
- 2242 **e-i-kore yakka,**
エ・イ・コレ ヤッカ,
汝・我・くれる しかし
くれたのだが、
- 2243 **aokai**
アオカイ
我
わしが
- 2244 **a-rura. Orowa**
ア・ルラ. オロワ
我・見送る (始点)
送って行く。そして
- 2245 **tumi orushbe**
トゥミ オルシベ
戦い 話
戦さのこと
- 2246 **wembe orushbe hene**
ウエムベ オルシベ ヘネ
悪いもの 話 も
戦いの状況は
- 2247 **ene okai i**
エネ オカイ イ
このように ある こと
こうこうだったと
- 2248 **obittano**
オビッタノ
皆
すべて
- 2249 **a-ye wa**
ア・イエ ワ
我・言う (接続)
彼女に話して
- 2250 **an-eramushinne,**
アネラムシンネ,
我・安心する
それを済ましてしまい、
- 2251 **imakake ta**
イマカケ タ
その後 (場所)
その後で
- 2252 **ratchitara**
ラッチタラ
穏やかである
ゆっくりと
- 2253 **ratchi shinewe**
ラッチ シネウエ
穏やかな 訪れる
穏やかな訪いを
- 2254 **kamui turanno**
カムイ トウランノ
神 ともに
神々と一緒に
- 2255 **e-ekarkar-an**
エ・エカラカラ・アン
汝・する・我
わしはする

- 2256 kusu ne.
クス ネ.
(理由・目的) である
つもりだ。
- 2257 Orota tapne
オロタ タパネ
そこで これである
そのときこそ
- 2258 sonno irkuru-
ソンノ イリクル・
真に 親身な
ほんとうに親身な
- 2259 unukar a-ki.
ウヌカラ ア・キ.
会見 我・する
対面をする。
- 2260 Pirika ibe
ピリカ イベ
良い 食事する
盛大な宴会を
- 2261 a-ki kane
ア・キ カネ
我・する (同時)
開いて、
- 2262 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
食事しながら
- 2263 e-ekap-an
エ・エカプ・アン
汝・挨拶する・我
挨拶を交わし
- 2264 kusu ne ruwe taban.
クス ネ ルウエ タバン.
(理由・目的) である 跡 これ・ある
ましようぞ。
- 2265 Tan te wano
タン テ ワノ
この これ から
ひとまずここで
- 2266 uwekoppa-an*³
ウウェコプバ・アン
別れる・我ら
お別れ
- 2267 kusu ne ruwe taban."
クス ネ ルウエ タバン."
(理由・目的) である 跡 これ・ある
いたしましよう」
- 2268 ari itak kane,
アリ イタク カネ,
(引用) 言う (同時)
といいながら
- 2269 a-santek kashi
ア・サンテク カシ
我・手 上
彼はわが手を
- 2270 i-koruiruye.
イ・コルイルイェ.
我・撫でる
撫でさすった。
- 2271 Shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
類まれなる勇士が³
- 2272 shiksut ka ta
シクスツ カ タ
まなじり も (場所)
目元を
- 2273 kobuyuisse.
コブユイセ.
湿らせる
うるませている。
- 2274 Shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
そうするから
- 2275 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 である (譲歩)
われも
- 2276 shisembir un wa
シセムビリ ウン ワ
自分の後ろ (方向) から
後ろを
- 2277 shikiru-an ko
シキル・アン コ
振り向く・我 (条件)
向いて

*³ 原綴 uwekotpa

赤海亀になる

- 2278 tu nubur nube
トゥ スブル スベ
二つの 濃い 涙
二筋の熱き涙
- 2279 re nubur nube
レ スブル スベ
三つの 濃い 涙
三筋の熱涙を
- 2280 a-yaikoranke
ア・ヤイコランケ
我・みずから流す
人目忍んで流し
- 2281 shinankabiru-an.
シナンカビル・アン.
自分の顔を拭う・我
涙をぬぐった。
- 2282 Kimunnaiummat
キムンナイウムマツ
(人名)
山川姫
- 2283 an-tureshipo
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻と
- 2284 Ponchupkaummat
ポンチュプカウムマツ
小東の女人
小東姫
- 2285 kamui katkemat
カムイ カツケマツ
神 婦人
神の如き淑女は
- 2286 ear mour
エアラ モウル
ただ一つ 女性の肌着
ただ一枚の肌着を
- 2287 chikonoiba
チコノイバ
たなびく
身にまどつ
- 2288 kane okai wa
カネ オカイ ワ
(同時) ある (接続)
ている姿だったが、
- 2289 ukimui kashi
ウキムイ カシ
互いの頭 上
お互いの頭から
- 2290 usantek kashi
ウサンテク カシ
互いの手 上
腕にかけて
- 2291 ukoruiruiba,
ウコルイルイバ,
撫で合う
撫で合い、
- 2292 “Moire yakka
“モイレ ヤッカ
遅い (譲歩)
「遅くなっても
- 2293 huibakita
フイバキタ
いつの日か
いつの日か
- 2294 inan hembara
イナン ヘムバラ
どの いつ
いつどんな時
- 2295 iki a yakka
イキ ア ヤッカ
する 完了 (譲歩)
であつても
- 2296 unukar kuni p
ウヌカラ クニ プ
会見 はずの もの
きつとまたお会いできる
- 2297 a-ne nankon na.”
ア・ネ ナンコン ナ.”
我・である だろう ぞ
はずですからね」
- 2298 ari utashba bakno
アリ ウタシバ バクノ
(引用) 互いに まで
とかわるがわる
- 2299 chish turanno
チシ トウランノ
泣く とともに
泣きながら

- 2300 **naani tu sui**
ナアニ トゥ スイ
まさに 二つの 回
何度も
- 2301 **naani re sui**
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
何度も
- 2302 **uwekopba***4
ウウェコプバ
別れ合う
別れ
- 2303 **niukesh kane.**
ニウケシ カネ.
しかねる (同時)
がたくしている。
- 2304 **Huremaupo**
フレマウポ
(伝説上の人名)
フレマウポー赤禿の
- 2305 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄は
- 2306 **ramno rino**
ラムノ リノ
低い土地で 高く
高くまた低く
- 2307 **i-koonkami.**
イ・コオンカミ.
我・拝礼する
われに礼拝した。
- 2308 **Chitekekarkuru**
チテケカラクル
手製の神
われらが手造りの神の
- 2309 **kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神雄は
- 2310 **kosancha ka ta**
コサンチャ カ タ
口元 上 (場所)
口元に
- 2311 **mina kane**
ミナ カネ
笑う (同時)
微笑みを浮かべて
- 2312 **A-tekrikikur-**
ア・テクリキクル・
我・手を高く
わが手を高く
- 2313 **buni kane**
ブニ カネ
上げる (同時)
持ち上げて
- 2314 **a-koonkami.**
ア・コオンカミ.
我・拝礼する
われに礼拝した。
- 2315 **Konepkeukata!**
コネプケウカタ!
何ということか
あああわれ
- 2316 **Konepkashita!**
コネプカシタ!
何としたことか
おお可哀相に
- 2317 **Ponchupkaummat**
ポンチュエカウムマツ
小東の女人
小東姫
- 2318 **kamui katkemat**
カムイ カッケマツ
神 婦人
神のごとき淑女
- 2319 **anun tureshpo**
アヌン トウレシポ
よその 妹
沖の国の若い娘は
- 2320 **i-kobak un wa**
イ・コバク ウン ワ
我・方向へ (方向) から
わが方を
- 2321 **shikirba wa**
シキリバ ワ
振り向く (接続)
振り向いて

*4 原綴 uwekokba

赤海亀になる

- 2322 **nepka**
ネプカ
何か
何か
- 2323 **ye rusui noine**
イエ ルスイ ノイネ
言う (欲求) らしく
言いたいらしく
- 2324 **a-ramu koroka,**
ア・ラム コロカ,
我・思う (逆接)
思われたが、
- 2325 **yaitumam ka**
ヤイトウマム カ
自分の身体 上
自分の身体を
- 2326 **uwambare an ruwe**
ウワムバレ アン ルウエ
見て調べる ある 跡
見調べ、肌着一枚の姿を
- 2327 **nukar ko, orowa**
ヌカラ コ, オロワ
見る (条件) (始点)
見ると、それから
- 2328 **oribak rui be**
オリバク ルイ ベ
畏まる 激しい もの
慎み深い
- 2329 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
である もの である (理由・目的)
女性だから
- 2330 **shisembir un**
シセムビリ ウン
自分の後ろ (方向)
自分の後に
- 2331 **shikirpa ko**
シキリパ コ
振り向く (条件)
振り向いて
- 2332 **shinankabiru.**
シナンカビル.
涙を拭う
そっと顔の涙をぬぐった。
- 2333 **Shirki chiki**
シリキ チキ
そうする (条件)
彼女の様子を見て
- 2334 **inunukashki!**
イヌヌカシキ!
可哀想に
かわいそうになあ
- 2335 **shukup matkachi**
シュクプ マツカチ
成長する 少女
若い娘
- 2336 **shukup menoko**
シュクプ メノコ
成長する 女
若い女が
- 2337 **annitne kamui**
アンニツネ カムイ
極悪である 神
大魔神の
- 2338 **wen renkabi**
ウエン レンカビ
悪い 故 (ゆえ)
欲望
- 2339 **okai rok kusu**
オカイ ロク クス
ある (完了) (理由・目的)
のせいで
- 2340 **katuchiwente**
カトウチウエンテ
侮辱すること
恥ずかしい思いを
- 2341 **a-ekarkar ruwe**
ア・エカラカラ ルウエ
される 跡
させられたので
- 2342 **okai chiki,**
オカイ チキ,
ある (条件)
あったから、
- 2343 **a-sambe bake**
ア・サムベ バケ
我・心臓 先頭
わが五臓

- 2344 **a-sambe kese**
ア・サムベ ケセ
我・心臓 末端
六腑がかきむしられる
- 2345 **ekobuyuisse,**
エコブユイセ,
湿る
ようにせつなく、
- 2346 **hese buira**
ヘセ ブイラ
息をする 孔
気道が
- 2347 **an-i-koshshke**
アニ・コセシケ
我・ふさがれる
塞がれて
- 2348 **semkorachi**
セムコラチ
まるで (する) ように
息が詰まるごとき
- 2349 **yainu-an kane.**
ヤイヌ・アン カネ.
考える・我 (同時)
思いをした。
- 2350 **Hoshki ruino**
ホシキ ルイノ
先に 甚だしく
まず先に
- 2351 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
アイヌラックルわが小兄が
- 2352 **kamuinishka**
カムイニシカ
天空の上
天空に
- 2353 **korikoshma.**
コリコシマ.
飛び上がる
高く飛び上がった。
- 2354 **Obittano**
オビッタノ
皆
三人ともみな
- 2355 **uoshioshi**
ウオシオシ
次々と
後から後から続いて
- 2356 **baye hum konna**
バイエ フム コンナ
行く 音 は
昇って行く音が
- 2357 **keurototke**
ケウロトツケ
響く
轟々とひびき
- 2358 **ekoobi.**
エコオビ.
別れる
別れていった。
- 2359 **A-keutum konna**
ア・ケウトウム コンナ
我・心 は
わが心は
- 2360 **chishkot kane.**
チシコツ カネ.
泣いて倒れる (同時)
別れの悲しみで死にそうになる。

5.3 再びシヌタプカで

- 2361 **An-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻の
- 2362 **a-raukotabu**
ア・ラウコタブ
我・つかむ
肩をつかまえ
- 2363 **an-eshikari,**
アネシカリ,
我・つかむ
われはしっかり抱きかかえた。
- 2364 **Earhumneno**
エアラフムネノ
ひと飛びに
ただひと飛び
- 2365 **kamui ewaki**
カムイ エワキ
神 住まい
シヌタプカの神居の

p. 45

赤海亀になる

- 2366 rikunsui kashi
リクンスイ カシ
煙出しの穴 上
煙出し窓の上
- 2367 a-yaibekare
ア・ヤイベカレ
我・浴っていく
を通り抜けて
- 2368 rorunso ka ta
ロルンソ カ タ
上座 上 (場所)
横座の上に
- 2369 niseu tui shiri
ニセウ トゥイ シリ
柏の実 落ちる 様子
ドングリがボトリと落ちる
- 2370 a-shikobayar
ア・シコバヤラ
我・見せかける
さながらに降り立った。
- 2371 Amset ka ta
アムセツ カ タ
寝台 上 (場所)
台座の上に
- 2372 a-teshkosanu,
ア・テシコサヌ,
我・すべてに行く
われは音もなくスウツと行き、
- 2373 “Turesho!” ari
“トゥレシポ!” アリ
妹 (引用)
「愛しの妻よ」と
- 2374 “Sambe!” ari
“サムベ!” アリ
心臓 (引用)
「わが心臓よ」と
- 2375 itak-an kane
イタク・アン カネ
言う・我 (同時)
われは言って、
- 2376 an-tureshipo
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻を
- 2377 a-shikoruye.
ア・シコルイエ.
我・撫でる
強く抱きしめた。
- 2378 “Yuppo ohai!”
“ユアポ オハイ!”
兄さん (感嘆)
「わが君さまあ～」
- 2379 raikotenke.
ライコテンケ.
泣き叫ぶ
妻は絶叫した。
- 2380 A-chinki kese*⁵
ア・チンキ ケセ
我・裾 末端
わが衣のすそを
- 2381 oukoraiba
オウコライバ
裾をたくり寄せる
かき寄せ
- 2382 chish turanno
チシ トウランノ
泣く ともに
泣きながら
- 2383 ene itak i:—
エネ イタキ: . . .
このように 言う こと
こう言った。
- 2384 “Sonno hetapne
“ソンノ ヘタプネ
真に これ
「ほんとにまあ

*⁵ cinki kese(o-u-ko-raypa) 「<裾・その端/そこで・相互に・raye‘やる’の複数形>しばらくぶりで逢った時の女子の作法。相手の足許へうずくまって恭しく裾にすがる動作である。裾にすがりついた時の手のさま、左右の手を両方から中央へ衣の裾を寄せるようにする(金 III 138)、女が男性の裳裾を両手につかんで両拳を左右から寄せるような格好をするもの。これは非常に丁寧な女礼の風(金 I 183)、男子の跼座している膝がしらを uruyruye(等しく撫でさする礼) すること、左右の膝を左右の手で撫でやるしかたで、おのずと衣の裾を左右から寄せるような形となるのでそう云ふ(研 852)」

- 2385 **semash ituren kor be**
セマシ イトゥレン コロ ベ
凡庸な 憑く 持つ もの
凡庸に生れついた取り柄のない
- 2386 **a-ne awa,**
ア・ネ アワ,
我・である (展開)
わたくしでしたが、
- 2387 **hemanta mokori**^{*6}
ヘマンタ モコリ
何 不詳
何かが憑いたように眠り
- 2388 **a-ki rabokita**
ア・キ ラボキタ
我・する 間に
こけている間に
- 2389 **katkiko**^{*7}
カッキコ
不詳
とんでもない
- 2390 **Atui boknashiriumbe**
アトゥイ ボクナシリウムベ
海 冥府に住む人
海の冥界に住む奴に
- 2391 **ohanakusu**
オハナクス
もしや
まさか
- 2392 **tekechibashte**
テケチバシテ
奪掠
略奪
- 2393 **i-y-ekarkar bakno**
イ・イエカラカラ バクノ
我・する まで
されるまで
- 2394 **mokonnoye-an ruwe,**
モコンノイエ・アン ルウエ,
熟睡する・我 跡
熟睡していたとは、
- 2395 **a-eyaikoshiramse ko**
ア・エヤイコシラムセ コ
我・思い返す (条件)
思い返すと
- 2396 **sonno yayekatu-**
ソンノ ヤイエカトゥ・
真に 恥ずかしい
ほんとに恥ずかしく
- 2397 **wen-an.**
ウェン・アン.
悪い・我
きまりが悪い。
- 2398 **Pon a-kor yubi**
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
わが君さまが

^{*6} **mokor-i** < 眠る、眠りにつく
こと > 眠り (?) **konep moshir
ikonup/kotan ikonup/toatponwa
kusu/koekarino/yaikurusere./Emkosama/nep
mokori/a-ki kusu** [何やら国を呪う者/村を呪
う者が/今日に限って/やって来て/目の前へ
現れた。/そのために/何か昏睡/をわたしは
して《萱野訳》「何者やら/国土をのろう者/
村をのろう者/あの日に目がけて/やって来
て/目の前へ現れた。/それと同時に/私は死
んだように/眠ってしまい」](教 XIII 56)

^{*7} **kat-ki-ko** < 有様・する・反意の語尾 > (?)
**nep kusu/ene eashiri/senne katkiko/Anrorun
kamui/Ishkarun kamui** 「何故に/かように
本当に/とんでもない (脚注: **senne** は打
消の副詞、**katki** は常のさまする、常態
の)/西浜の神/石狩の神」(金 I 292) **kamui
ne yakka/shukupkuru buri/shukupkuru
keutum/anakne/ainu korachi/ne rok okai
kusu/katkiko/a-tureshipo/e-kira kusu/a-
kotani bakno/ek a an?** 《萱野訳》「神であ
っても/若い人の恋ごころ/というものは/人間
と全く同じ/であったこと (分解訳: **katki
ko** < こんな所へ >)/私の妹を/連れて逃げ
るため/私の村まで/来たとは知らなかつ
た。」(教 XVII155) **katkiko neita/nen ene
okai/ubakashnu ki i/ne wa kusu** 《萱野訳》

「遠くで (分解訳: **katkiko neita** < 遠からず
いつ >。編者注: **ekatki-ko** < 近づく・反
意の語尾 > と解釈したか?)誰が教えた/
というの」(教 24-12~ **shukup kuru/konep
nokan kuru/uoshikotbako/ene katkiko** 《萱野
訳》「若者たちの恋ごころを理解はするが
(分解訳: **ene katkiko** < そう 遠からず >)」
(教 24-133)

赤海亀になる

- 2399 isam a chiki,
イサム ア チキ,
いない 完了 (条件)
いなかったなら、
- 2400 atui boknashiri ta
アトウイ ボクナシリ タ
海 冥府 (場所)
海の冥界で
- 2401 arwen kamui
アラウエン カムイ
ひどい 神
極悪の神
- 2402 arwen bito
アラウエン ビト
ひどい 人
極悪のお方が
- 2403 nekona tapne
ネコナ タプネ
どのように これである
どんなかにまあ
- 2404 i-eyaitura-*8)
イ・エヤイトウラ・)
我・一人で
わたくしを一人で
- 2405 shinot be an?
シノッ ベ アン?
遊び もの ある
もてあそ
弄んだものか?
- 2406 Katkemat rak be
カッケマツ ラク ベ
婦人 末裔 もの
淑女の中の淑女である
- 2407 a-ne awa,
ア・ネ アワ,
我・である (展開)
わたくしであったのに、
- 2408 naanibakbe*9
ナアニバクベ
死ぬ寸前
もうすこしで
- 2409 an-i-y-ekarkar a yakka
アニ・イエカラカラ ア ヤクカ
我・される 完了 (譲歩)
危ういところでしたが
- 2410 kamui renkaine sui
カムイ レンカイン スイ
神 意志に従う 再び
神の加護によって再び
- 2411 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神居
- 2412 a-kohoshihi shiri an!''
ア・コホシビ シリ アン!''
我・に戻る 様子 ある
に帰って来られたのですわねえ」
- 2413 ari itak kane
アリ イタク カネ
(引用) 言う (同時)
と言って
- 2414 yaikeuhumsu.
ヤイケウフムス.
自分の無事を言祝ぐ
自分の生還を慶んだ。
- 2415 Kewe a-humsu
ケウエ ア・フムス
身体 我・無事帰還の儀礼をする
われが妻の無事を言祝ぐと
- 2416 itasa bakno
イタサ バクノ
返す まで
お返しに
- 2417 i-keuhumsu.
イ・ケウフムス.
我・無事をねぎらう
妻もわれを言祝いだ。

*8 i-e-yaiturashinot < 我を・そこで・
一人遊びする >。Keshtoan ko/nei
yaiturashinot/akoarikiki ko, 「毎日あけ
ると/ひとり遊びに(脚注: yai-tura-shinot <
自身・と共に・遊ぶ>ひとり遊びする)/わ
れけんめいになっていると、」(金 II 7-8)

*9 nani-pak-pe 「<も少しの・ほどの・もの>
禁忌でさけた Euphenism で rai <死>のこ
と、も少しで rai する所だつた、私のやうな
無力のものは、の意」(研 848)

- 2418 **Orowano**
オロワノ
(始点)
それから
- 2419 **ibepo mashkin**
イベポ マシキン
食事 ますます
あまりにも空腹で
- 2420 **an-ekot anke**
アネコッ アンケ
我・死ぬ しようとする
今にも死にそうに
- 2421 **yainu-an.**
ヤイヌ・アン.
考える・我
思った。
- 2422 **An-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻は
- 2423 **kamui chikirbe**
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
美しい着物を
- 2424 **utomechiu,**
ウトメチウ,
まとう
きちんと身につけ、
- 2425 **otu bechirbe**
オトゥ ベチリベ
二つの 水滴
たくさんの水の雫
- 2426 **ore bechirbe**
オレ ベチリベ
三つの 水滴
いくつもの水滴を
- 2427 **yaikarbare,**
ヤイカラバレ,
清める
滴らせて手を洗い、
- 2428 **pirika shuke**
ピリカ シュケ
良い 炊事する
心をこめた煮炊きごとに
- 2429 **koyairikta-**
コヤイリクタ・
みずから高く
かいがいしく
- 2430 **ante kane.**
アンテ カネ.
あらしめる (同時)
立ち働いた。
- 2431 **Tane shu chi ko**
タネ シュ チ コ
今 鍋 煮える (条件)
今鍋が煮えると
- 2432 **yapte hine imek.**
ヤプテ ヒネ イメク.
火から下ろす (接続) 御馳走
火から下ろしてよそった。
- 2433 **Shirki chiki**
シリキ チキ
そうする (条件)
そうしたから
- 2434 **abe tuisam**
アベ トウイサム
火 すぐ側
炉端へ
- 2435 **an-i-y-esanke.**
アニ・イエサンケ.
我・出る
われは出て行った。
- 2436 **Shiso sam ta**
シソ サム タ
右座 そば (場所)
右座に座っている
- 2437 **an-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻の
- 2438 **rorkehe ta**
ロロケヘ タ
横座 (場所)
上座側に
- 2439 **a-an kane.**
ア・アン カネ.
我・座る (同時)
われは座った。

赤海亀になる

- 2440 **Kabarbe itanki**
カバラベ イタンキ
薄造りの物 御椀
舶来の上等なお椀を
- 2441 **kabarbe ochike**
カバラベ オチケ
薄造りの物 膳
舶来の上等なお膳
- 2442 **uworeroshki**
ウウォレロシキ
重なってそびえる
に載せて
- 2443 **rai sonabi**
ライ ソナビ
死ぬ 高盛の椀
高盛飯
- 2444 **i-kobuni.**
イ・コブニ.
我・捧げる
を妻はわれに捧げた。
- 2445 **A-uina wa**
ア・ウイナ ワ
我・取る (接続)
われは受け取って
- 2446 **ibe-an.**
イベ・アン.
食事する・我
食べた。
- 2447 **Rai sonabi**
ライ ソナビ
死ぬ 高盛の椀
高盛飯を
- 2448 **yaikobumba.**
ヤイコブムバ.
自分によそう
妻も食べた。
- 2449 **Ibe tuika ta**
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
食事しながら
- 2450 **sunke ashbe**
スンケ アシベ
嘘 あること
虚実取り混ぜた冗談や
- 2451 **sone ashbe**
ソネ アシベ
らしく あること
あることないこと
- 2452 **an-tureshipo**
アン・トゥレシポ
我・妹
わが妻は
- 2453 **i-ebaroka-**
イ・エバロカ・
我・しゃべり続ける
取りとめなく
- 2454 **tata kane**
タタ カネ
ここ (同時)
おしゃべりし、
- 2455 **an-eomina-**
アネオミナ・
我・笑いかける
われはニコニコ
- 2456 **ushi kane.**
ウシ カネ.
ところ (同時)
笑って聞いていた。
- 2457 **Konepkeukata!**
コネプケウカタ!
何ということか
おおあわれ
- 2458 **pon a-kor yubi**
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
アイヌラックルの小兄を
- 2459 **an-eshikarun ko**
アネシカルン コ
我・思い出す (条件)
思い出すと
- 2460 **tu chish keutum ne**
トゥ チシ ケウトウム ネ
二つの 泣く 心 として
泣きたくなくて
- 2461 **an-ekeutum**
アネケウトウム
我・心
わがころ

- 2462 **chishkot kane.**
 チシコッ カネ.
 泣いて倒れる (同時)
 死んでしまいそうだ。
- 2463 **Hetak ta usa!**
 ヘタッ タ ウサ!
 さあ (感嘆) (譲歩)
 さあさ早く
- 2464 **kamui a-yubi**
 カムイ ア・ユビ
 神 我・兄
 神のわが兄のもとへ
- 2465 **usa okai be**
 ウサ オカイ ベ
 (譲歩) ある もの
 色々様々なことを
- 2466 **eramushinne wa**
 エラムシンネ ワ
 安心する (接続)
 すましてしまつて
- 2467 **ek okai!**
 エク オカイ!
 来る ある
 行きたいなあ!
- 2468 **ari bakno.**
 アリ バクノ.
 (引用) まで
 とここまで。

hureechinke-index.pdf

本報告書で紹介するユーカラ「赤海亀になる」のアイヌ語索引が上記のファイルとして、付録のCDに収められている。

本書は日本語版 L^AT_EX 2_ε、すなわち pL^AT_EX 2_ε で組版したものである。
本文フォントには、明朝にモリサワリュウミン L-KL、ゴシックにモリサワ新ゴ R、ローマ字には Times が使われている。

平成 22 年度 アイヌ民俗文化財調査報告書（ユーカラシリーズ 37）

アイヌ英雄叙事詩
赤海亀になる

平成 23 年 3 月発行

著者 金成マツ

編集・翻訳 蓮池悦子

組版 山下浩一・切替英雄

発行 北海道教育委員会

〒060-8544 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目